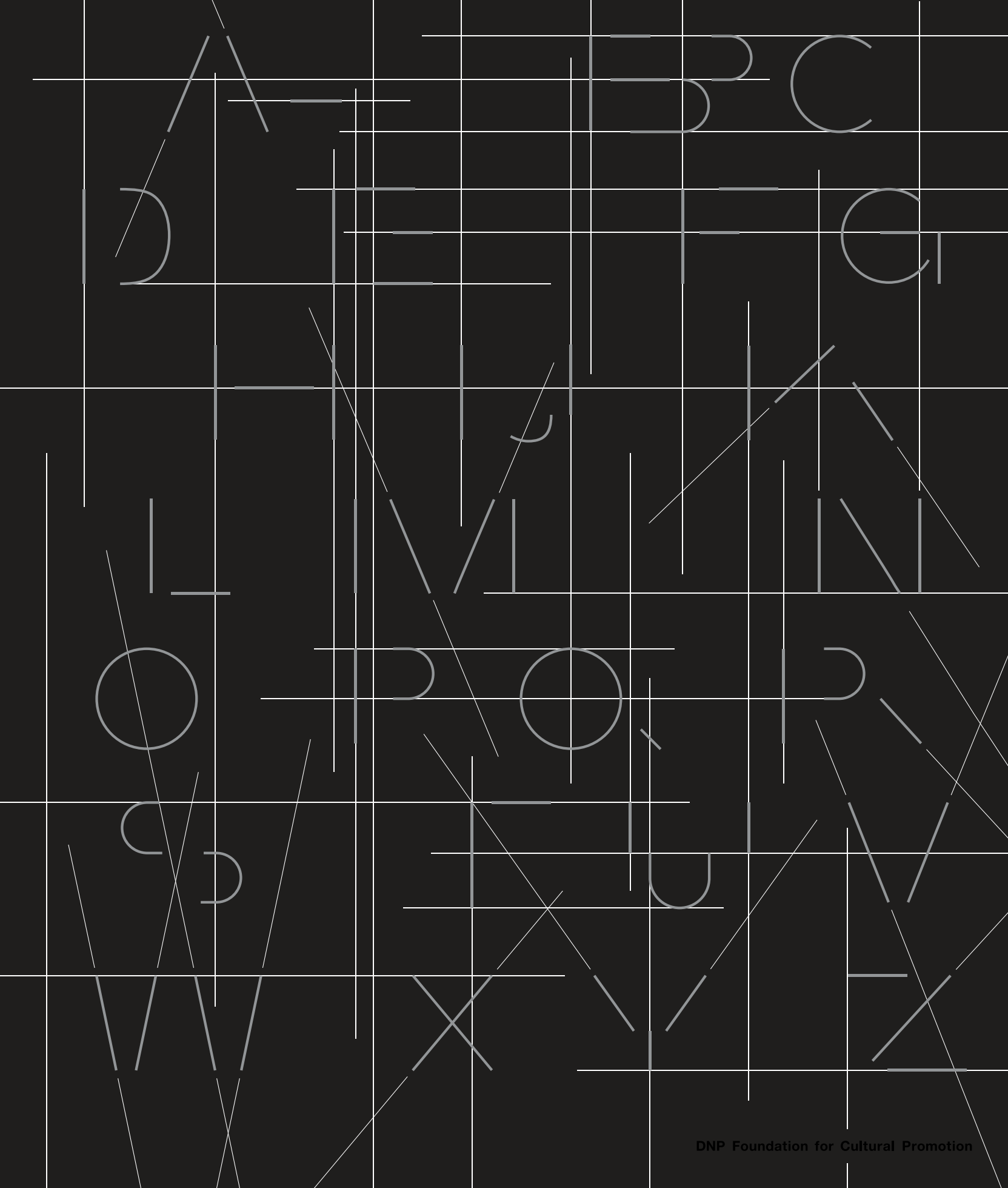
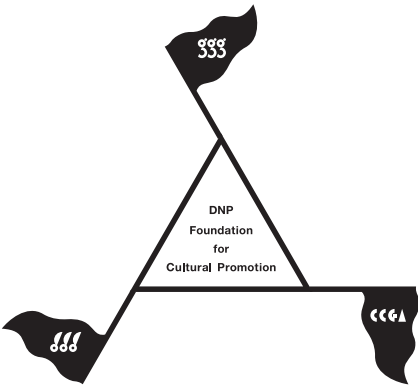


# Graphic Art & Design Annual 17-18



# Graphic Art & Design Annual 17-18



[表紙デザイン]

アルファベットの大文字、AからZの断片を構成したデザインです。  
モノラインの細い、幾何学的な書体を、グリッドシステム上に必要最小限の要素で組んでいます。  
完成された形態の素案のようなもので、  
すべての要素が合体して文字が形成される手前の、動的な途中経過を表しています。  
作図線をあえて視覚化することにより、楽譜のようなイメージが全体から想起され、  
優れた構造/バランスを実現しています。

フィリップ・アペロワ

[Cover Design]

The cover is designed with fragments of capital letters from A to Z of the Latin alphabets.  
There are fine, monoline, geometrical letters built upon a grid system with a limited amount of elements.  
The letters are in movement, and are like drafts of final letters,  
just before all the elements would be combined together to form the letters.  
By showing the construction lines, the whole image recalls a musical score,  
indicating the balance of a good construction.

Philippe Apeloig

## Graphic Art & Design Annual 17-18 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion  
DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,  
Chuo-ku, Tokyo 104-0061  
Phone: +81 3 5568 8224  
Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion  
Art Direction: Shin Matsunaga  
Design: Shinjiro Matsunaga, Moemi Kiyokawa  
Design Assistance: Tomoko Takagawa  
Cover Design: Philippe Apeloig  
Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg),  
Ryota Sakai, Kyosuke Kawanami (ggg gallery talk)  
Akihito Yoshida, Kinichi Maeda (ddd / ddd gallery talk)  
Translation: Rei Muroji  
Cooperation: Koichi Kawajiri  
Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

# Contents

## 目次

はじめに	5
北島 義俊 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)	

序文:	
キュレーション、闘うイマジナリー	6
北沢 永志 (公益財団法人DNP文化振興財団)	

1 展示事業	11
ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2017-2018	12
京都dddギャラリー (ddd) 2017-2018	30
CCGA 現代グラフィックアートセンター 2017-2018	42

2 教育・普及事業	51
ggg, dddギャラリートーク	52
CCGA版画工房ワークショップ	58
出版活動 2017-2018	59

3 アーカイブ事業	61
DNP グラフィックデザイン・アーカイブ	62

4 国際交流事業	69
AGI総会パリ 2017	70
田中一光ポスター展	72
田中一光「顔」展	72
ポーランド企画展協力「ベルソナ 2017: 永井一正」	73
企画展「仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐」上海巡回	74

5 研究助成事業	75
グラフィック文化に関する学術研究助成	76
2017-2018年度 助成実績	78

展覧会概要 2017-2018	79
展覧会一覧 1986-2018	84
ギャラリー概要	94

Foreword	5
Yoshitoshi Kitajima (Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)	

Introduction:	
Curation, A Test of Imagination	6
Eishi Kitazawa (DNP Foundation for Cultural Promotion)	

1 Exhibitions	11
ginza graphic gallery (ggg) 2017-2018	12
kyoto ddd gallery (ddd) 2017-2018	30
Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) 2017-2018	42

2 Education & Enlightenment	51
ggg, ddd Gallery Talk	52
CCGA Print Studio Workshops	58
Publications 2017-2018	59

3 Archiving	61
DNP Graphic Design Archives	62

4 International Exchange	69
AGI Congress Paris 2017	70
Ikko Tanaka Poster Exhibition	72
Ikko Tanaka "Face" Exhibition	72
PERSONA 2017: Kazumasa Nagai	73
Masayoshi Nakajo IN&OUT, Or 飲&嘔吐	74

5 Research Support	75
Research Grants for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art	76
2017-2018 Financial Support Activities	78

Review of ggg, ddd and CCGA 2017-2018	79
List of Exhibitions 1986-2018	84
Galleries' General Information	94





# Foreword

## はじめに

ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) では、7回の企画展と特別展を開催しました。5月は「ロマン・チェシレヴィチ」展、8月は「フィリップ・アペロウ」展、11月は「マリメッコ・スピリッツ」展を開催し、それぞれオープニングセレモニーにて、駐日ポーランド大使、駐日フランス大使、駐日フィンランド大使より、友好のメッセージを頂きました。

なかでも、フィンランドのものづくりに対する姿勢の一端を伝えた「マリメッコ・スピリッツ」展では、第一線で活躍する3人のアーティストを通じて、パターンデザインの魅力と多様性を紹介しましたが、過去最高の入場者数となり、大変好評を得ました。

京都 ddd ギャラリー (ddd) では、4回の企画展と大学連携企画展を開催しました。オランダを代表するグラフィックデザイナーのひとり、ウィム・クロウエル氏の「グリッドに魅せられて」展は、アムステルダム市立美術館の協力のもと、半世紀にわたる同氏の業績の全容を伝える日本初の展覧会となりました。

CCGA 現代グラフィックアートセンターでは、「松永真ポスター」展や「加納光於一揺めく色の穂先に」展など、3回の企画展と特別展を開催しました。また、版画工房では、メゾチント技法の講座を開設しました。

本年度のポスターアーカイブは、仲條正義氏、サイトウマコト氏をはじめ、7作家より合計 1,027 点の寄贈がありました。主なアーカイブ作品の寄贈先は、ポーランドのポズナン国立美術館、米国のミシガン大学美術館、姫路市立美術館で、この取り組みも益々活性化しています。また、DNP 文化振興財団コレクション・データベースを、10月1日より外部向けにWEB上で公開を開始しました。

いま国内外で、社会を取り巻く環境が大きく変化し続けています。そうした状況だからこそ、積極的に諸外国と交流し、異なる文化に触れ、多様な価値観を理解することが今まで以上に重要になってきていると思います。これからもより良い未来を思い描きながら、グラフィック文化振興の活動を通じて、社会の新しい価値を提供することができるよう事業を推進してまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

公益財団法人 DNP 文化振興財団 理事長  
北島義俊

During the 2017 fiscal year—the period from April 2017 through March 2018—a total of seven regular exhibitions and one special exhibition were mounted at ginza graphic gallery (ggg). In May we held an exhibition of the works of Roman Cieślewicz, in August the works of Philippe Apeloig, and in November the spirit of Marimekko; and at the opening ceremonies of these exhibitions we received messages of friendship from the ambassadors, respectively, of Poland, France and Finland. Among the year's exhibitions, the “Marimekko Spirit” event, which offered a glimpse at the stance toward creative design embraced in Finland, introduced the appeal and diversity of pattern design as evidenced in the works of three preeminent Finnish artists. The exhibition was extremely well received, attracting the largest number of visitors that ggg had ever seen.

At kyoto ddd gallery (ddd), four regular exhibitions and one exhibition in collaboration with a university took place during the year. Meriting special mention was “Fascinated by the grid,” a show focused on the works of Wim Crouwel, one of the Netherlands' leading graphic designers. Held with the cooperation of Stedelijk Museum Amsterdam, this marked Japan's first exhibition of Crouwel's works, a show that presented a broad overview of his artistic creations spanning half a century.

The Center for Contemporary Graphic Art (CCGA), which is located in Fukushima Prefecture, held three regular exhibitions—on the posters of Shin Matsunaga, the diverse prints of Kano Mitsuo, and the prints of Josef and Anni Albers—and one special exhibition. A workshop on mezzotint was given at the CCGA Print Studio.

During the past year Masayoshi Nakajo, Makoto Saito and five other designers donated a total of 1,027 of the works to poster archives. The newly archived works were presented primarily to the National Museum, Poznan in Poland, the University of Michigan Museum of Art in the United States, and the Himeji City Museum of Art in Japan. Every year, such donation activities are becoming increasingly active. Commencing October 1, 2017, the database of the DNP Foundation for Cultural Promotion's collections was made available to the public online.

Today, in Japan and all around the world, the environment surrounding societies everywhere continues to undergo vast changes. It is precisely amid such times, I believe, that it is becoming more important than ever to proactively pursue exchanges with foreign countries, to experience other cultures, and to come to understand many different sets of values. Envisioning an ever-better future, the DNP Foundation for Cultural Promotion will continue to promote activities that enable us to offer new social value through activities promoting graphic culture. We sincerely ask for your continuing support and understanding in the years ahead.

Yoshitoshi Kitajima  
Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

# キュレーション、闘うイマジナリー

北沢 永志

公益財団法人DNP文化振興財団

いよいよ展覧会がオープンする前日の夜、たいへんだった展示作業も照明も終わり、全てのチェックが完了したころ、会場の空気の透明度が増し、深呼吸したくなるほど密度の濃い、言わば絶対酸素を感じる時があります。その透明度とは、蚕が吐糸して繭を作り始める直前に、体全体が透き通り、はち切れんばかりのエネルギーを持った神秘的な瞬間と言ってもいいかもしれません。これは、展覧会が成功するかどうかの私のバロメーターのひとつになっています。

こんな素晴らしい創造の現場に数え切れないほど立ち会うことができたのは、私にとってとても幸せなことでした。毎回残念に思ったことは、当然ですが、展覧会は永遠には残せないということです。作家や展示の関係者とともに、長い時間をかけて考え、細部まで神経をすり減らし作り込んだ展示空間も、「チベットの砂絵」のように、完成しても、会期が終われば、一瞬にして解体されてしまう運命にあるということです。

私がギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) の担当になったのは、バブル経済も終焉に近づいた1990年11月のことです。以来、ほぼ月1回のペースで、展覧会を企画・開催し、個人的には300回以上の展覧会に携わらせていただき、「創っては壊し、壊しては創る」展覧会の現場の只中で、28年間見守らせていただいたことになりました。

私にとって何ものにも代えがたい貴重な体験となったのは、ギャラリー運営を通じて、幸運にもブルーノ・ムナリー(1907ー1998)、ポール・ランド(1914ー1996)、亀倉雄策(1915ー1997)、早川良雄(1917ー2009)、ヘンリック・トマシェフスキ(1924ー2005)、永井一正、田中一光(1930ー2002)、勝井三雄、福田繁雄(1932ー2009)、杉浦康平をはじめ、20世紀のデザイン史を飾る内外の巨匠や新進気鋭のデザイナーに会い、直接お話しをすることができたことです。特に、先人たちのクリエイティブやデザインに対する志の高さ、常に未来を見据え、時にはユーモアを交え、ご自分の言葉として現在を批評される姿は、私にとって大きな未来への遺産となりました。

たとえば、亀倉雄策さんの歯に衣を着せぬ次の一言がとても印象的でした。「熊が出てくる山の美術館でもいい、荒波に吞まれそうな海辺の美術館でもいい。ひとつぐらいポスターを専門でやるところが出てこないのが情けない。」残念なことに、ポスター美術館誕生を心待ちにされていた亀倉さんが亡くなられ20年になりますが、いまだそのような美術館はできていません。

福田繁雄さんからは、「一本の線を引くこと。これがクリエイティブの原点。

こんなに楽しい作業を人に任せることはできないよ。」ポスターや立体作品など、膨大な数の仕事を、全て自分でなされていた福田さんの口癖でした。亀倉さんと福田さんと親交のあったポール・ランドさんは、「デザインは、物事をわかりやすく、よりドラマチックに、より斬新なものにし、理解しやすく、信号を送り、楽しませ、喜ばせるもの。優れたデザイナーは、哲学、心理学、政治学を知っているものなのです。」1992年11月、gggでの熱弁です。時代に左右されないデザインの普遍的な原則をご教授いただいたことに感銘を受けました。

そのランドさんに影響を受けたという、細谷巖さんのデザインの基本は、「やさしさ、わかりやすさ、美しさです。」この言葉を自ら体現した著書『イメージの翼 細谷巖アートディレクション』(1974年)は、今でも燦然と輝くグラフィックデザイン界、広告界、そして私のバイブル的存在です。江戸の諧謔性や洒落を教えてくれたのは、今、国や世代を超えて注目されている仲條正義さんです。今年3月、上海での初の海外展では、60,000人も中国の若者を魅了しました。

ニューヨークを基点に活躍されていた石岡瑛子(1938ー2012)さんからは、「表現者にとって最も大切なことはDiscipline (訓練・鍛錬)よ。」そう言われ、私は緊張し、身が引き締まる思いを何度もしました。組織や時流に迎合せず、画家としてデザイン界から距離を置く横尾忠則さん。アトリエでの楽しくとりとめのない、年に二、三度程させていただく雑談は、おのずとデザイン界の話が中心になり、「最近見た夢の中で、亡くなったデザイナーの〇〇〇さんが現れて……。」とか、横尾さんはこの世とあの世を行ったり来たりして、鬼籍に入られた方の行く末まで心配されています。

JAGDA元会長、TDC創設者、AGI日本代表、ピンポン外交等々、大忙しの浅葉克己さん。浅葉さんのびっしりと隙間なく書き込まれた365日のスケジュール表に休日はありません。まるで一生のあいだ、いつきも休むことなく高速で泳ぎ続けるマグロのように……。

松永真さんから学んだのが、「シンプルは単純ではない」。それは、そぎ落とすことで、より堅固に、より美しく、より豊かになって実を結ぶこと。対象に対して「真正面から向き合う」松永さんの姿勢は、デザインの王道です。グラフィック界の相関図「グラフィックデザインを中心とした東京派の私案略図」(『たて組ヨコ組』春20号1988)を、手書きで描かれた榎本了壺さん。見開きページに286人もの名前が並ぶ、その見えない複雑な関係を顕在化した図像は、30年経った今でも、日本のグラフィックデザイン界の歴史や作家の関係性を知る上で、私の原点となっています。

その榎本さんが唯一人「師匠」と慕われた栗津潔(1929ー2009)さん。栗

津さんのデビュー作、1955年の日宣美賞受賞作「海を返せ」は、栗津さんが生涯持ち続けられた時代への批評精神の源流です。

鋭い感性の衝動性を示し続けてくれている井上嗣也さん。井上さんの仕事場での発見は、映画『2001年宇宙の旅』に登場する石柱上の謎の物体モノリスのように見えた、タワーのように整然と積まれた写真集と古本。

ここでは、ごく一部の作家や関係者の方々と交流しかご紹介できないのが残念ですが、数え切れないほど多くの方々の心に沁みる生の声を聞くことができ、貴重な経験になりました。

振り返れば、私がこのギャラリー運営に真剣に取り組むきっかけとなったのは、gggの初代監修者であり、ggg創設の発案者でもある、田中一光さんの次の言葉でした。「ギャラリーは企業と市民の風穴だと思っている。キュレーションが毅然としていて、スペースの空気がやさしく人をとらえるなら、風はどんどん窓から入ってくる。」(『ginza graphic gallery '95』)そして、この田中さんの「毅然としたキュレーション」が、私の取り組んだもっとも大切な仕事となりました。

現在gggの監修をお願いしている永井一正さんも、キュレーションについて、「gggがつねに原点を見つめつつ、時代を先取りし、デザインの正しい方位を示すアンテナとしてますますその役割は重くなっていく」(『明日に架ける橋 ggg 展覧会ポスター 1986-2016』)と、その重要性を強調されています。

さらに、矢萩喜從郎さんからは、多中心の視点から「キュレーションとは、今までの知識をもとに、未来でも影響力を持てる人か、分析、予測できるかどうか、その力量が試される仕事。」と、その果たさなければならない役割を明快に語っていただきました。

私がいつもキュレーションする上で心がけてきたことのひとつは、今という時代をどう読み解くかということです。グラフィックデザインは時代を映す鏡と言われていますが、なぜ今この展覧会をしなければならないかが問われます。そのためには、あらゆる事象に好奇心を持ち、過去、現在、未来を見つめ、自分自身をどんな状況にも即座に応じられる状態に置く意味での「ディスポニビリティ：disponibilité」を心がけてきました。

二つ目は、「健康」であるかどうかということです。まず私の頭に浮かんだことは、現代のアートの状況です。とても一言では語れませんが、「今、時代は病気だから、病的な時代状況を表現することが重要」という風潮があります。そして、デザインの世界も同じ状況にあると感じます。言うまでもありませんが、私たちの仕事は、次なる豊かなデザイン状況をいかに作

り出すかということです。私たちギャラリーに与えられた使命は、アートもデザインも、その病的状況を、どうやって治癒し、健康になれるように励ませるかというイマジナリーを持つことだと思います。

三つ目は、「実験精神」、「批評精神」、そして「ユーモア」があるかどうかです。1917年ロシア革命の時代に、彗星の如く現れたロシア・アバンギャルドの寵児、アレクサンドル・ロトチェンコ(1891－1956)が挑んだ立体、建築、グラフィック、写真等、作品のすべてが、実験精神に溢れていました。レイモン・サヴィニャック(1907－2002)のポスターが、大戦の苦しい時、パリに住む人の心を捉えたのは、人の心を癒すための笑い、あっけらかんとしたユーモアとエスプリでした。

四つ目は、「Never Seen Before：見たこともないもの」かどうかです。石岡瑛子さんが、Discipline（鍛錬）と同様に唱えていたことです。

上記四つの要素が理想的な形で重なり合ったときはじめて、見る人の心を揺さぶり、その人の人生観すらも変えてしまうような展覧会が実現できると信じています。グラフィックデザイナーだった横尾忠則さんが、1980年にニューヨーク近代美術館で「ピカソ展」を見て衝撃を受け、入館2時間後に美術館の出口に立った時、「画家」になっていたように……。

これまで私どもgggの活動は、「グラフィックデザイン専門ギャラリーは世界でも類を見ない」、「グラフィックデザインのメッカ」と称賛され、各国のグラフィックデザイナー、評論家、美術館学芸員の皆さんから、期待され注目されてきました。事実、ggg30周年記念展「明日に架ける橋 ggg 展覧会ポスター 1986－2016」に寄せられた数々のメッセージで、大変ありがたい評価をいただくことができました。しかし、その評価に甘んじることなく、今後、皆さんの期待にどう応えていくのか、グラフィックデザインの未来をどう考えるべきか、ますます真剣に取り組まなければならないと考えています。

行く先が分からない過渡期にあって、グラフィックデザインが内向きになりがちな今こそ、私たちは大きな理想や希望を持たなくてははいけません。いずれにしても、情報革命やグローバル化によってメディアがどう変わろうと、物事を理解し、知識を得、そしてコミュニケーションにおいて、パピルスの時代も今の時代も変わりはないという、普遍的な価値観(先人の知恵)を持つことが重要ではないでしょうか。結局「いい未来」か「悪い未来」になるかは私たちの責任なのです。

# Curation, A Test of Imagination

Eishi Kitazawa

DNP Foundation for Cultural Promotion

On the night before the opening of a new exhibition, when the difficult set-up work and lighting are finished and everything has been carefully checked, there are times when the air in the gallery seems clearer, its oxygen of such density that it makes you want to breathe it in deeply. That clarity, that transparency, is similar to the mystical moment when, just before a silkworm is about to begin spinning a cocoon, its entire body becomes transparent, bursting with energy. It's one gauge by which I ponder whether or not the exhibition will be a success.

For me to have been able to witness such wonderfully creative events on countless occasions is a source of infinite fortune and happiness. What I have regretted each time, of course, is that the exhibition can't be saved for posterity. Each exhibition represents the embodiment of contributions by everyone involved in its creation—both the artists and everybody who helps put together the displays—imparting their concentrated efforts at great length, down to the finest detail. But once the exhibition, completed with such devotion, draws to a close, like a Tibetan sand mandala it is dismantled in an instant. Such is its fate.

I was placed in charge of ginza graphic gallery (ggg) in November 1990, just as Japan was approaching the end of the heady days of the “bubble economy.” Since then I have planned and organized shows at a pace of approximately one each month, making for a total that now exceeds 300. For 28 years, I have carried out my duties witnessing creation followed by destruction, then destruction followed once more by creation.

Through operation of ggg, what has been my greatest fortune, above all else, is having had the rare experience of meeting and directly conversing with both up-and-coming designers and the grand masters of long standing from all around the world, Japan included—artists whose names are indelibly etched in the history of 20th century graphic design. Among those whom I have been especially fortunate to meet are Bruno Munari (1907-1998), Paul Rand (1914-1996), Yusaku Kamekura (1915-1997), Yoshio Hayakawa (1917-2009), Henryk Tomaszewski (1924-2005), Kazumasa Nagai, Ikko Tanaka (1930-2002), Mitsuo Katsui, Shigeo Fukuda (1932-2009) and Kohei Sugiura. The lofty dedication of these predecessors to creativity and design, their constant focus on the future, their occasional flashes of humor, and their frank criticism of the present, are a priceless legacy that enriches all I will do in the future.

Yusaku Kamekura, never one to mince words, once said, “It's deplorable that there isn't a single museum dedicated exclusively to posters. I don't care if it's on some bear-infested mountain or so close to the ocean that it could get swallowed in rough waves.” Unfortunately, even now, more than 20 years after he died, there still isn't a poster museum of the kind Mr. Kamekura so eagerly awaited.

Shigeo Fukuda on more than one occasion remarked, “Artistic creation starts with the drawing of a single line. It's a process too enjoyable to entrust to others.” During his career Mr. Fukuda created an enormous

quantity of works, whether posters or sculptures or whatever, and he steadfastly insisted on doing everything himself.

Paul Rand, who was a good friend of both Mr. Kamekura and Mr. Fukuda, is on record as saying, “Design makes things easy to understand, more dramatic, and fresher. It sends an easily understandable message that brings people joy and happiness. An outstanding designer knows philosophy, psychology and politics.” He made those remarks in an impassioned talk at ggg in November 1992, and I was deeply impressed by his teaching of the universal principles of design unaffected by their times.

Gan Hosoya stated that he had been influenced by Mr. Rand. The principles underlying Mr. Hosoya's design work were “gentleness, ease of understanding, and beauty.” His *The Wings of Image: Art Direction by Gan Hosoya* (1974), in which he exemplified those words, even now remains a brilliant hallmark in the realms of graphic design and advertising—and my personal “scripture” as well.

Masayoshi Nakajo, who is garnering attention today across all national and generational boundaries, taught us the jocularly and stylish wit of the Edo era. His very first exhibition overseas, held this March in Shanghai, captivated as many as 60,000 young Chinese visitors.

Eiko Ishioka (1938-2012), who based her artistic activities in New York, on several occasions told me that what's most important for people engaged in the expressive arts is “discipline.” Every time she said this, I always felt my tension level rise within me, my body braced in renewed concentration.

Tadanori Yokoo, never one to pander to organizations or fads, keeps his distance from the realm of design, he being a painter. In our casual conversations at his studio perhaps twice or three times a year, the discussion inevitably turns to the realm of design. “I recently had a dream in which so-and-so appeared,” he might say, mentioning the name of a late designer. Mr. Yokoo apparently travels back and forth between this world and the afterworld, and maintains deep concern for those who have already crossed over to the other side.

The ever-busy Katsumi Asaba—former chair of JAGDA, founder of the Tokyo TDC and Japanese representative to AGI, among other posts—pens yearly schedule books in which every day, 365 a year, is completely filled with dense writing. They don't contain even a single day when Mr. Asaba is entirely off. He's like a tuna fish that keeps swimming at high speed, never resting for a moment all its life.

Shin Matsunaga taught me that “Simplicity is never simple.” Simplicity involves paring down, making your work more solid, more beautiful, more enriched in its final form. Mr. Matsunaga's stance—to confront the object of his work head-on—is the orthodox path of design.

Ryoichi Enomoto created a hand-drawn diagram in 1988 depicting what he saw to be the various interrelationships between the many members of Japan's graphic art world at the time (*Tategumi Yokogumi, Vol. 20, Spring 1988*). Spread across two pages, it contains no less than 286 names, and

this diagrammatic representation, giving form to invisible, complex relationships, even now, 30 years later, remains my principal source for understanding the history of graphic design in Japan and the relationships among its designers.

The only designer Ryoichi Enomoto looked up to as his mentor was Kiyoshi Awazu (1929-2009). Mr. Awazu's debut work, "Give Our Sea Back," which won a JAAC (Japan Advertising Artists Club) Award in 1955, marked the start of the critical spirit toward the times that Mr. Awazu embraced throughout his life.

Tsuguya Inoue continues to demonstrate the impulsive tenor of his sharp senses. A discovery I made at his workplace were neatly stacked piles of photo books and used books—looking ever so much like the mysterious Monoliths in the film 2001: A Space Odyssey.

It's unfortunate I can introduce only a very few of the artists and others I have gotten to know through the years. I have been able to hear directly the deeply moving and impressive words of so many, and I wish to take this opportunity to thank them all for each rare and precious experience.

In retrospect, what inspired me to approach operation of this gallery so earnestly were the following words of the late Ikko Tanaka (from *ginza graphic gallery '95*), who proposed creating ggg and served as its first supervisor. "A gallery is like an air passage between a business enterprise and everyday citizens," he said. "When curation is performed with firm resolve and the atmosphere in the gallery space enfolds its visitors gently, the wind blows briskly into it." Thus, I made "curating with firm resolve" the most important aspect of my duties at ggg.

Currently supervision of ggg is performed by Kazumasa Nagai. Speaking in reference to curation, he stressed its importance in *Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016*: "ggg's role will become all the more important in the years ahead, serving as an antenna of the proper direction of design, keeping one step ahead of the times while always looking back at the starting point."

Furthermore, Kijuro Yahagi, speaking from a multicentric perspective, related in clear terms the role that must be fulfilled: "Curation is a job that tests the capacity to analyze and predict, based on already accumulated knowledge, whether a designer will also have impact in the future."

One of the things I have always kept in mind when undertaking curation is how to understand the present. Graphic design is often said to be a reflection of its times, and I ask myself why it's necessary, at this given point in time, to have a particular exhibition. To learn the answer, I have endeavored to have "disponibilité," i.e. receptiveness: curiosity about all things, observing the past, present and future, and always staying immediately responsive to any and all situations.

The second thing I always aim to understand is whether or not something is "healthy." What comes to mind first is the situation of contemporary art. Although this can't be discussed in just a few words, there is a tendency

to profess that today, because the times are sick, it's important to express this sickly situation. And I sense that the realm of design is in the same state. Needless to say, the task of the curator is to figure out how to devise the next enriched state of design. The mission presented to those of us who curate galleries, I believe, is to have the imagination to take the sickly situation surrounding art and design and figure out how to nurse it back to health, to cure it.

Third, the curator must consider whether something has a spirit of experimentation, a critical spirit, or humor. During the days of the Russian Revolution in 1917, the works of Alexander Rodchenko (1891-1956), darling of the Russian Avant-Garde who arrived on the scene out of nowhere—his forays into sculpture, architecture, graphics, photography, etc.—all brimmed over with a spirit of experimentation. The posters of Raymond Savignac (1907-2002) captivated the people of Paris during the dark days of the Second World War because of their unbridled humor and esprit, their ability to bring solace and comfort to people's hearts.

Fourth, the curator has to consider whether or not something has been seen before. This is a point pressed by Eiko Ishioka along with her focus on discipline.

Finally, I firmly believe it is only when the abovementioned four elements come together in an ideal way that it becomes possible to execute an exhibition which has the power to move the viewer, or even to change the viewer's outlook on life itself. In 1980 graphic designer Tadanori Yokoo was stunned upon seeing a retrospective of the works of Picasso at the Museum of Modern Art in New York. After two hours, he exited the museum inspired to shift careers to painting.

Through the years, ggg has garnered acclaim as a "mecca" of graphic design, often cited as the world's only gallery dedicated exclusively to graphic design. Graphic designers, critics and curators from around the world have focused closely on our activities and embraced high hopes and expectations of us. Their words of praise, a source of great pride, are seen in the many messages sent to us in conjunction with *Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016*, our exhibition commemorating ggg's 30th anniversary. But we cannot be content to rest on our laurels: in the years ahead we must continue to grapple all the more seriously with the questions of how ggg can respond to the hopes placed in us, and what approach we should take to the future of graphic design.

In the current transition phase facing an unknown future, at this time when graphic design tends to look inward, now more than ever we must embrace high ideals and high hopes. No matter how the media might change as a result of the information revolution and globalization, today—just as in the days of papyrus—it's vital to possess universal values (the wisdom of our predecessors) with respect to understanding matters, acquiring knowledge and communicating. Ultimately, whether the future turns out good or bad rests entirely in our hands.



展示事業

Exhibitions



## **ginza graphic gallery 17-18**

April 5 – 28, 2017

**Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017**

May 15 – June 24, 2017

**Roman Cieřlewicz: Melting Mirage**

July 3 – 25, 2017

**2017 Tokyo Art Directors Club Exhibition**

July 28 – 29, 2017

**Special Exhibition: Farewell ! Keisuke Nagatomo**

August 7 – September 16, 2017

**Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition**

September 26 – November 7, 2017

**Typographic Composition, Yoshihisa Shirai**

November 15, 2017 – January 13, 2018

**Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola**

January 22 – March 17, 2018

**Kouga Hirano and Shobunsha**

ggg  
ggg

Apeloiggg Tokyo  
ggg

Apeloiggg Tokyo  
ggg

Apeloiggg Tokyo  
Apeloiggg Tokyo  
ggg

Apeloiggg Tokyo  
ggg

7 August - 16 September 2017  
2017年8月7日(月) - 9月16日(土)



# Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

April 5 – 28, 2017

TDC 2017



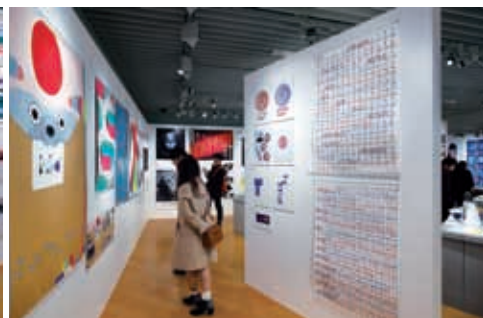
石岡瑛子氏が手がけたパルコ広告へのオマージュであるM/M (Paris)のCF。五十嵐威暢氏が70年代に制作したパルコのロゴをフォント化し、渋谷全館に展開したtomato25周年展。在りし時代に輝いたクリエイティブへのリスペクト、受賞作が偶然にもつながってそんな物語を描いた。授賞式の昼の宴に、渋谷パルコの建替前に時代の区切りの花火を打ち上げ直後に急逝した若きプロデューサーの夫人を、ラルフ・シュライフォーク氏の側に親交の深かった佐藤晃一氏のお弟子さんを招いた。奇しくもグランプリ受賞作はデヴィッド・ボウイ最期のアルバム、思い思いに偉大な人を偲ぶ時間となった。歴史から大切なものを引き継ぎ再生するような話題作を鑑賞いただけたと思う。 東京TDC 照沼太佳子

By happenstance, a tale was woven by prize-winning works paying respect to creative works of former times: M/M(Paris)'s commercials made in homage to the Parco ads created by Eiko Ishioka, and "The Tomato Project 25th Anniversary Exhibition 'O'," held throughout the Shibuya store, featuring typefaces based on the Parco logo created by Takenobu Igarashi in the 1970s. Invitees to the afternoon awards ceremony included the wife of the young producer who passed away suddenly just after launching fireworks marking the end of the era before reconstruction of Shibuya Parco, and, next to Ralph Schraivogel, the disciple of the late Koichi Sato, with whom he had enjoyed a close friendship. By a quirk of

fate, the Grand Prize was awarded to the last album by David Bowie. In this way, the exhibition became an occasion to think back, each in our own way, on the greats of the past. I was afforded an appreciation of attention-grabbing works that carry on, and revive, cherished remnants from history.

Takako Terunuma, Tokyo TDC







# Roman Cieřlewicz: Melting Mirage

May 15 – June 24, 2017

ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気

クラクフからワルシャワに移り住み、1950年代と1960年代初期、クオリティが高く一瞬に魅了させるインパクトがある作品の数々を制作していたチェシレヴィチ。ポーランドポスター作家の中でもヘンリク・トマシェフスキ等と共に傑出した作家だったことに誰も異を挟むことはない。ところがチェシレヴィチは、1963年、後戻りできないことを覚悟し、フランスに渡っている。10年も経過していない時期に制作されたのが、シルクスクリーン作〈ZOOM1〉、〈ZOOM2〉。全体を左右両側から押し込んで中心部に消失させていく、線対称な図形の手法で、狂気のバキュームとも評せる作品であり、やはりチェシレヴィチはイマージュの王国に居続けた住人だった。

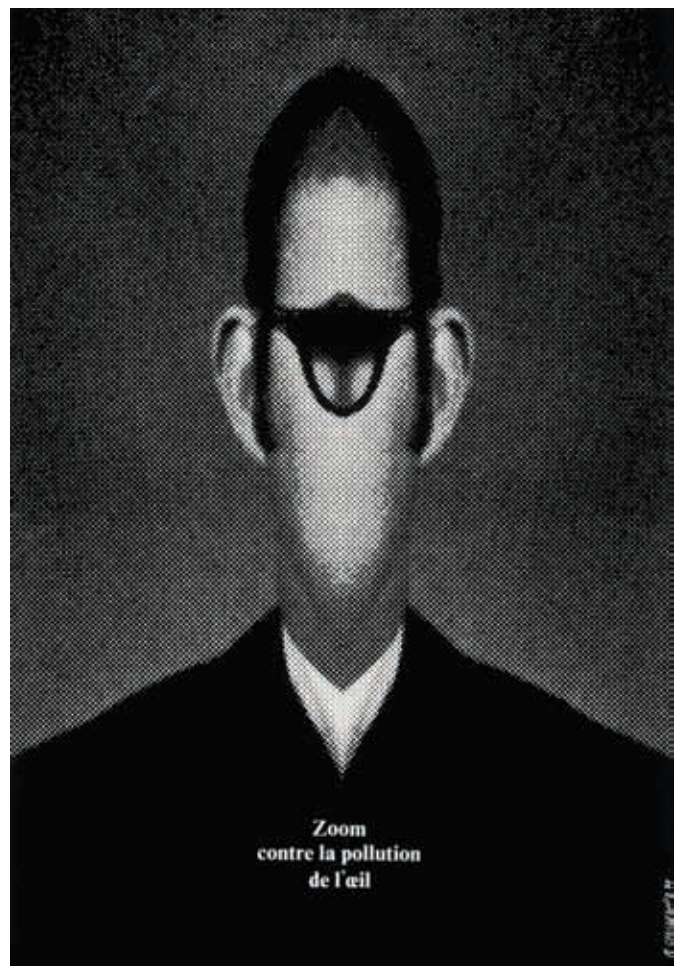
矢萩喜從郎

After moving from Krakow to Warsaw, in the 1950s and into the early 1960s Cieřlewicz produced a plethora of immediately impressive works of outstanding quality. Inarguably, Cieřlewicz—along with Henryk Tomaszewski—was one of the foremost among Poland's poster artists. But then in 1963, he took the irreversible decision to emigrate to France. Over the course of less than 10 years, Cieřlewicz then produced his silkscreen works "ZOOM1" and "ZOOM2." Using linear symmetry whereby the whole is pressed in from both left and right sides, vanishing in the center, these works can be considered "crazy vacuums." Cieřlewicz, after all, continued to reside in the kingdom of images.

Kijuro Yahagi







©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 E3123





# 2017 Tokyo Art Directors Club Exhibition

July 3 – 25, 2017

## 2017 ADC展



2017年のADCグランプリは、新しく設けられたオンスクリーン部門から生れた。町工場6社による「INDUSTRIAL JP」のウェブサイト、映像が選ばれた。工作機械の反復運動のビジュアルと、クラブミュージックのコラボレーションがとても斬新だった。仲條正義のgggで行なわれたポスター群を押さえての受賞だった。審査員の目線が、近年台頭してきた新しいウェブサイトというメディアに、移った証といえるだろう。このように、ADCは時代の変化とともに、新しい動きをはじめたようである。これからのADCの変化を感じさせる年になった。

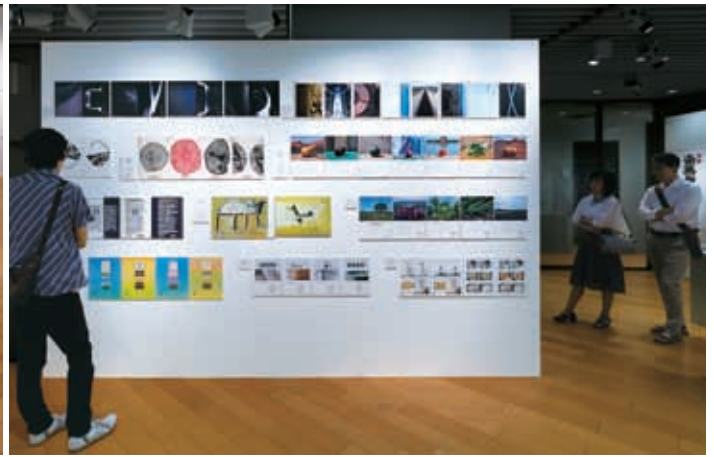
ADC展委員 副田高行

The winner of the 2017 Tokyo Art Directors Club (ADC) Grand Prize came from the newly created OnScreen Media category: the website and videos of “INDUSTRIAL JP,” made by six small factories. The collaboration between the visuals focused on the repetitive movements of machine tools and club music was altogether novel. “INDUSTRIAL JP” won the Grand Prize beating out the posters shown by Masayoshi Nakajo at ggg. This is surely evidence of a shift taken place in the judges’ perspective toward websites, a new medium that has come to the fore in recent years. 2017 was a year suggestive of how ADC will change, with its move in new directions.

Takayuki Soeda,  
ADC Exhibition Committee Member









# Special Exhibition: Farewell ! Keisuke Nagatomo

July 28 – 29, 2017

## 追悼！「長友啓典」特別展

7月28日(金)、29日(土)の二日間限定で、2017年3月4日に急逝された長友啓典さんを偲び、「追悼！長友啓典特別展」が開催された。会場は、時代を切り取った往年の名作ポスターをはじめ、4月に京都dddギャラリーで開催予定だった「ケイツー展」に出品予定だったシルクスクリーン作品や、挿絵、スケッチの原画、長友さんの懐かしい映像などで展示構成された。友人の日暮真三さんの「素晴らしくたくさんの友人にかこまれた、うらやましいほどに幸福な生涯だった」の言葉通り、会期前日の「トモさんを偲ぶ会」には、各界から交流のあった大勢の人が終始絶えることなく会場を訪れた。

For two days, July 28 (Fri) and 29 (Sat), a special exhibition was held in memory of Keisuke Nagatomo, who passed away suddenly on March 4, 2017. Filling the gallery were his most famous posters of the past, so evocative of their times, the silkscreen works Nagatomo intended to show at the “K2 Exhibition” which had been scheduled to take place at Kyoto ddd gallery in April, his illustrations and original sketches, and videos of Nagatomo himself. Shinzo Higurashi, his close friend, remarked that Nagatomo had lived a life of enviable happiness, surrounded by many wonderful friends—and his words were borne out by the endless stream of visitors, from all walks of life, who knew Keisuke Nagatomo and came to exchange reminiscences of him at his memorial gathering the day before the show.







# Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition

August 7 – September 16, 2017

Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展



「フィリップ・アペロワ展」では媒体や表現手法の多様性に焦点をあてた最新作・近作を紹介しました。こうした多様性が、私の作品においてますます重要な位置を占めるようになってきているからです。1998年、日本で初の個展となるポスター展をgggとdddで開催して以来、私の作品は従来のグラフィックデザインの枠を越え、予想もしなかったまったく新しい形へと進化を遂げてきました。創作の出発点は今ももちろんタイポグラフィ、すなわち文字を使った表現ですが、その表現の舞台はもはや紙の上だけにとどまらず、エルメスのファブリック、セーブル焼磁器、イッセイ ミヤケ パルファムのパッケージデザイン、さらにはデジタル映像作品へと広がりを見せています。

フィリップ・アペロワ



The “Apeloiggg” exhibition showed a various selection of my late and especially recent projects, insisting on the diversity of mediums and uses which has become increasingly significant in my work. Almost twenty years after a first exhibition at ggg, focusing then on posters and following another exhibition held also in 1998 in ddd gallery Osaka, the creative process has evolved from traditional graphic design material to new and unexpected formats. Of course, it still starts from the typography, the letter shapes, but it has now the chance to develop not only on paper, but also on fabric for Hermès, on porcelain for the Manufacture de Sèvres, on perfume packages for Issey Miyake, or even digitally as motion graphic pieces.

Philippe Apeloig





# Typographic Composition, Yoshihisa Shirai

September 26 – November 7, 2017

組版造形 白井敬尚

文字組版は、書体、サイズ、組み方向、字間、行間、組幅、組み体裁によって形作られています。本展のタイトル「組版造形」は、その文字組版を紙面に配置・構成した空間を含む造形を指すものです。

壁面を使わない組版のみの展示は、このお話をいただいた際に真っ先に浮かんだ案でしたが、はたして組版だけで、会場に足を運んでもらえるのだろうか……という不安もありました。200点ほどの見開きページを固定し、そのうちのいくつかのページでは紙面構造を提示しました。さらには影響を受けた書籍や制作の際に参考にした文献も展示しました。結果的には、多くの方が足を運んでくださり、予定になかったdddでの展示へと繋がることになりました。

白井敬尚

Typesetting is comprised of the elements of typeface, size, typeset direction, space between characters or letters, space between lines, typeset width and presentation. Typographic composition, the title of my exhibition, refers to the form inclusive of the space arranged and composed on the typeset page.

Showing typesetting alone, without using the gallery wall surfaces, was the first idea that came to my mind when I was approached about holding an exhibition. But I had anxiety as to whether an exhibition just of typesetting would attract people to the gallery. I fixed some 200 two-page spreads in place, and on some of them I showed how the pages were structured. I also displayed books that had had an influence on me, and texts I had made reference to in the process of creating my works. In the end, the exhibition drew numerous visitors—and led to its traveling to ddd, which had not been originally planned. Yoshihisa Shirai



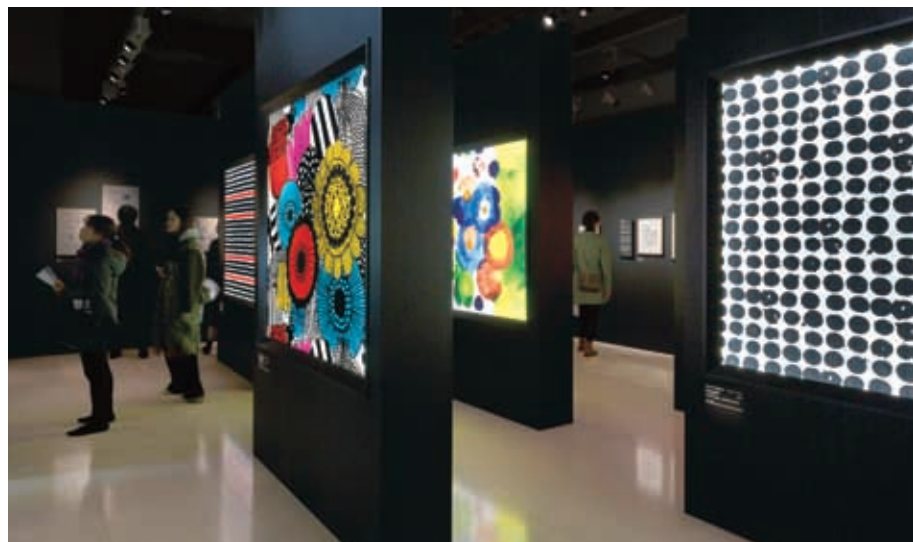




# Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola

November 15, 2017 – January 13, 2018

マリメッコ・スピリッツ – パーヴォ・ハロネン／マイヤ・ロウエカリ／アイノ＝マイヤ・メツォラ



2017年に独立100周年を迎えたフィンランド。マリメッコはこの記念すべき年に「力強いパターン」と「自由でオープンな協働」をテーマに据えました。そして東京の2つのギャラリーと協力して「マリメッコ・スピリッツ」展を企画。マリメッコのブランドの神髄、高度なプリント技術、無駄のないシンプルなライフスタイルを日本に紹介しました。gggではマリメッコの若い世代のデザイナーとプリント技術の今に焦点を当て、Gallery A4 (ギャラリーエークウッド)で開催された「マリメッコ・スピリッツーマリメッコの暮らしぶり」では、マリメッコの伝統的なデザインの視点で、フィンランドと日本のライフスタイル間の対話を試みました。私たちにとって、gggとのコラボレーションを通して得たインスピレーションは非常に大きなものでした。本展が大好評を博したと聞き、心からうれしく思います。

ミンナ・ケメル＝クトゥヴォネン  
マリメッコ、デザイン＆プロダクト開発ディレクター

Marimekko's theme for the 100th anniversary of Finland's independence in 2017 focused on bold patterns and doing things together open-mindedly. In collaboration with two notable Tokyo-based galleries, the Finnish design house organised exhibitions with the title 'Marimekko spirit' to introduce the brand's very essence, the art of print making and its straightforward lifestyle, to the Japanese audience. The exhibition at ggg focused on Marimekko's younger-generation designers and the contemporary art of print making. The second exhibition, Marimekko Spirit – Elämäntapa (暮らしぶり), opened at the Gallery A4 one month later, explored the dialogue between the Finnish and the Japanese lifestyles in the context of Marimekko's design heritage. It was such an inspiration for all of us at Marimekko to collaborate with ggg, and it truly warmed our hearts when we heard that it was one of the most successful exhibition in the gallery's history.

Minna Kemell-Kutvonen  
Marimekko, Design & Product Development  
Director





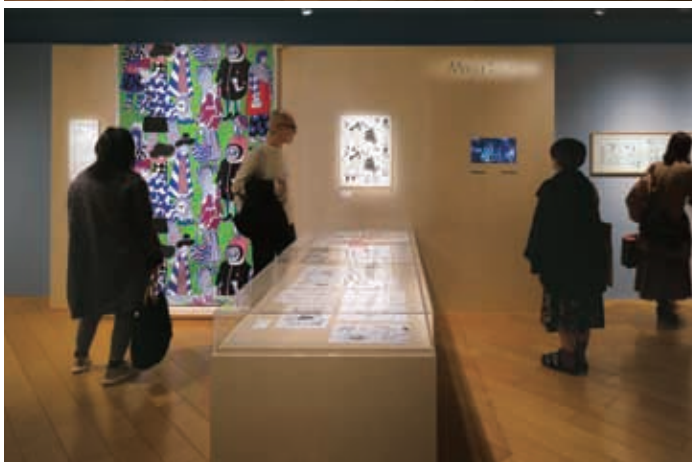
Paavo Halonen  
Ruusu ruoho  
(2016)



Maija Louekari  
Siirtolapuutarha  
(2009)



Aino-Maija Metsola  
Juhannustaika  
(2007)





# Kouga Hirano and Shobunsha

January 22 – March 17, 2018

平野甲賀と晶文社展



1960年代からほぼ30年は、活字組版から、写真植字、フォントへと移行する激動の時代だった。僕が装丁に描き文字を多く使うようになったのは、ほぼ自分で本のカバーを全て作ってしまうという流れがあった気がする。

台中の小さな画廊から始まり、gggでも晶文社の協力で書籍を500冊展示できた。そして作品類は上海へも巡回した。漢字仮名混じりの和文が漢字のふるさとへ里帰りしたわけだ。うまく会話は成立しないとしても、文字の姿形なら多少は理解してもらえるのではないだろうかと思う。

平野甲賀

The near 30 years starting from the 1960s were a period of dramatic changes as typesetting was superseded by phototypesetting, which in turn was replaced by fonts. The reason I came to use handwritten lettering on my book designs was likely because of my desire to create book covers entirely on my own.

This exhibition started at a small gallery in Taichung, Taiwan, and there, as well as at ggg, I was able, with the cooperation of Shobunsha, to show 500 books. My works also traveled to Shanghai. In this way my written texts in Japanese, with its elements of Kanji characters and Kana mixed in, made a return to China, the land of their origin. Even though conversation may not be possible between us, the similar

forms of our writing systems do, I think, allow for some degree of understanding of my work by Chinese visitors.

Kouga Hirano





**kyoto ddd gallery 17-18**

May 9 – June 24, 2017  
Masayoshi Nakajo IN & OUT, Or 飲<sup>in</sup> & 嘔吐<sup>outo</sup>

July 4 – August 22, 2017  
Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

September 4 – October 24, 2017  
Kouga Hirano and Shobunsha

November 13 – 28, 2017  
.communication

December 14, 2017 – March 17, 2018  
wim crouwel: fascinated by the grid





wim crouwel

*fascinated by the grid*

ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて



kyoto ddd gallery / the 215th exhibition  
december 14, 2017 - march 17, 2018

〒600-8585  
京都府京都市下京区  
東塩小路1-1-1  
京都DDDギャラリー  
TEL 075-461-0127  
FAX 075-461-0128

# Masayoshi Nakajo IN & OUT, Or 飲&嘔吐

May 9 – June 24, 2017

仲條正義 IN&OUT, あるいは飲&嘔吐



私はめぐりあわせで、いつもデザインの変革に出会い、そして時代とずれていた。齢85才ともなると厚かましく自分の都合のよいように生きてきた。日本経済も生きている間、何となく成長してきて父や母の時代より戦争はなく、ありがたい時を過ごせた。いつも多くを望まないから無難な一生といえる。平和はありがたい。DNP文化振興財団、大日本印刷のすすめで、2016年一年がかりで22点作った。大型の展覧会はこれで終りという思いもあった。gggからddd、更に上海展へと続けていただいた。多くの方のお世話になって感謝している。 仲條正義

Throughout my career, I have continually been fated to cross paths with major design transformations, and always found myself out of sync with the times. Now 85, I've lived my life brashly, doing what suits me best. During my life, the Japanese economy has managed to grow, and compared to the times known by my parents, thankfully I have lived in an era of peace. Since I've never aspired to have too much, one could say I've lived a carefree existence. On the suggestion of the DNP Foundation for Cultural Promotion and Dai Nippon Printing, in 2016 I spent the year creating 22 works. I felt this would be my last major exhibition. After starting at ggg, it traveled first to ddd and then to Shanghai. I

offer my sincere appreciation to everyone who helped make this possible.

Masayoshi Nakajo









# Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

July 4 – August 22, 2017

TDC 2017



京都dddギャラリーでのTDC展は4回目を数える。展示設営で京都を訪ねた機会に、大学や専門学校、高校に伺い、ご挨拶状と年鑑などの資料をお届けした。運良くご挨拶できたところもある。なつかしい再会もあった。京都といえば、挨拶まわり。ーいや、それは歌舞伎の話か、こんな単純すぎる発想でよかったのかとわが思いつきを心配するもつかの間、服部一成氏がすばらしい講演で展示会のオープニングを飾ってくださった。特別賞を受賞した横山裕一『アイランド』のブックデザインをはじめ、京都にゆかりの音楽の仕事「くるりの20回転・京都音博10回転」、POLAの新V.I. などご自身の展示作品をめぐって。そして大サービスは他の受賞作品の解説。京都は熱かった。 東京TDC 照沼太佳子

This was the fourth Tokyo TDC Exhibition held at Kyoto ddd gallery. I took advantage of my visit to Kyoto to set up the exhibition and paid visits to universities, vocational schools and high schools, delivering messages of greeting, our yearbook and so on. At some locations, I was also fortunate to be able to offer greetings in person. And I had some nostalgic reunions. In the realm of Kabuki, Kyoto is known as a place for making the rounds of greetings, and I began wondering to myself whether I had approached the matter too simply. But before worry got the better of me, Kazunari Hattori gave a wonderful speech at the exhibition's opening. He spoke about his own works on display: his book design for Yuichi Yokoyama's

ICELAND, winner of the Special Prize, his work for music affiliated with Kyoto (Quruli, Kyoto Music Expo), and his new visual identity created for POLA. He also went out of his way to comment on the other award-winning works. It was an exciting time in Kyoto.

Takako Terunuma, Tokyo TDC







# Kouga Hirano and Shobunsha

September 4 – October 24, 2017

## 平野甲賀と晶文社展

小豆島に住み始めてから、午前中の仕事は数十年来に描いた文字を見直し再度手を加えていくのを日課にしていた。

これをイレギュラーな大きさの和紙（阿波の竹紙）に刷り出す事で作品化したのが、壁面展示のひとつ。また関わりの深い、ひとりで装丁を担っていた時代の晶文社の本500冊を、書店のように展示、手に取って読める場とした。

僕の装丁の仕事、描き文字、その過去と現在が一堂に見ることのできる展示となったと思う。

平野甲賀

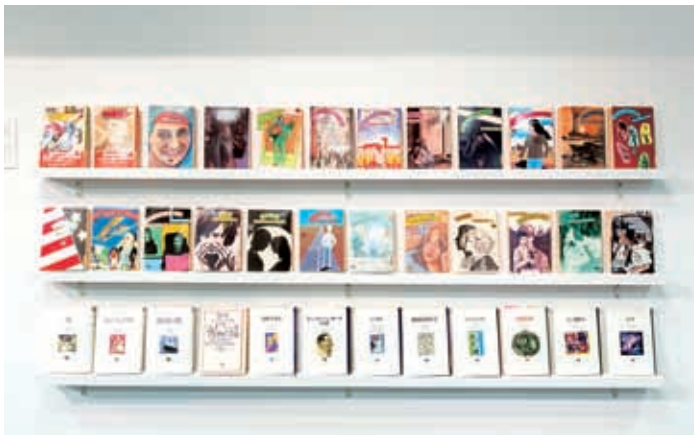
After moving to Shodoshima (a small island in the Seto Inland Sea), I began regularly spending my mornings looking over the typography works I had created during the course of several decades, and adding new touches to them. I printed the revised versions on washi paper—the local bamboo-fiber type—and these I displayed on the gallery's walls.

I also displayed 500 books I had singlehandedly designed for Shobunsha, a company with which I have been closely associated. In this case I created a space in which visitors could take the books in hand and read them.

The result, I believe, was an exhibition that enabled visitors to view my book designs and handwritten typography both past and present all in one venue.

Kouga Hirano







# .communication

November 13 – 28, 2017

特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展

.communication



2016年4月、京都dddギャラリーと成安造形大学による連携企画展開催に向け、学生と教員に卒業生を加えてプロジェクトチームを編成した。チームにおいては、教員と学生の上下関係を崩し、互いに同じ立場としてアイデアを交換した。〈現在最もリアリティを感じるテーマは何か〉と学生達と議論する中で、コミュニケーションの「ズレ」というキーワードが浮かび上がった。ポストインターネット世代のリアリティは確かに、情報伝達の手段が多様化した社会に通底する、重要なテーマである。この展覧会では、コミュニケーションと情報伝達のあり方について、デザインや表現を通して捉え直し、もの、ひと、ことの多様なズレを見出すことを試みた。

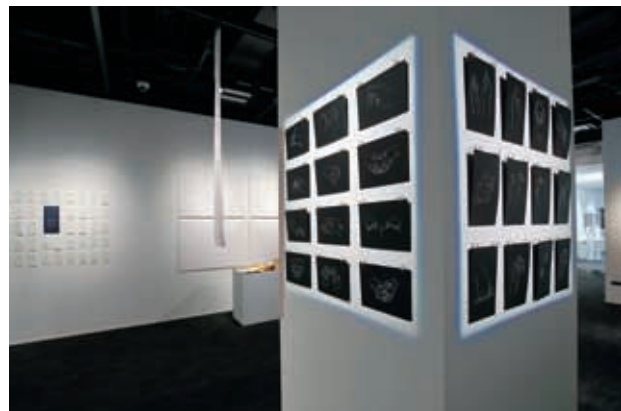
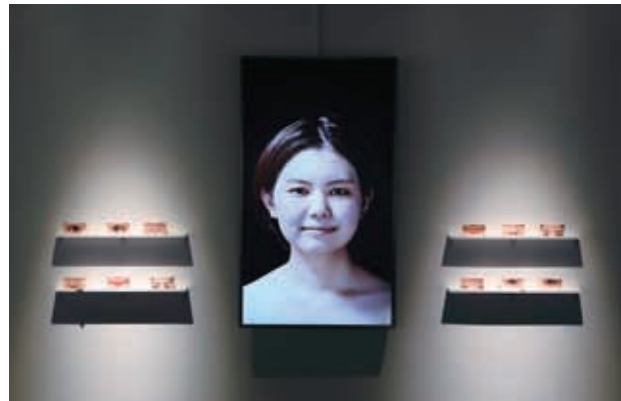
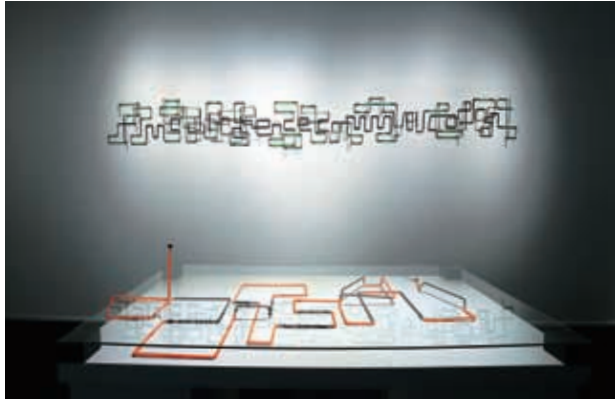
南 琢也／成安造形大学情報デザイン領域教員

In April 2016, in preparation for the collaborative exhibition by kyoto ddd gallery and Seian University of Art and Design, we formed a project team of students and teachers, and also included alumni. On the team, we broke down any barriers between teachers and students and exchanged ideas from identical standpoints. In discussing with the students what themes give them the greatest sense of reality today, the “gap” in communication came to mind as a keyword. Unquestionably, for the post-Internet generation reality is an important theme that pervades throughout today’s society of diversified means of conveying information. This exhibition approached the topic of communication and conveyance of

information through design and self-expression, as an attempt to uncover the various gaps that exist between things, people and situations.

Takuya Minami,  
Instructor, Media Design Department,  
Seian University of Art and Design







# wim crouwel: fascinated by the grid

December 14, 2017 – March 17, 2018

ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて



「ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて」は、いくつかのことを一度にやろうとする試みでもありました。デザイナーとして世界中に名を知られたウィム・クロウエル(1928年～)の膨大な作品群の全体像を正しく作り上げるとともに、彼の手法や、彼が作品を通して常に伝えようとしていたメッセージを表現していることを、クロウエルにも感じてもらいたいと考えたのです。展示物を厳選するのは容易なことではありませんでしたが、ポスターをはじめ、サイズの小さい印刷物や彼のアーカイブから選んだ貴重な作品も展示しました。アムステルダム市立美術館がdddで目指したのは、クロウエルのプロフェッショナリズムや、彼がグラフィックデザインの世界に与えたクリエイティブな影響にまつわるストーリーを表現することでした。ニコール・シュミット、ヘルムート・シュミットの両氏とともに、dddのスタッフと協力できたことはすばらしい経験となり、アムステルダム市立美術館、そしてクロウエル自身にも感謝していただきました。

カロリン・フラーゼンブルグ

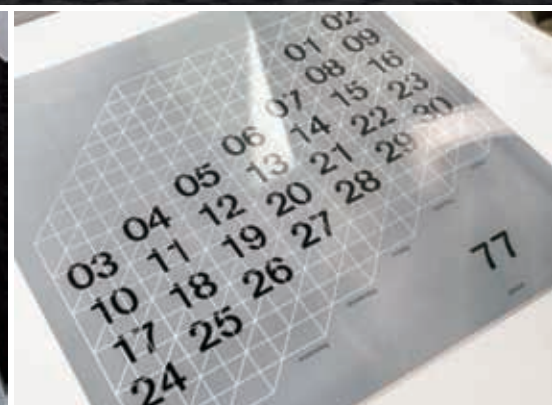
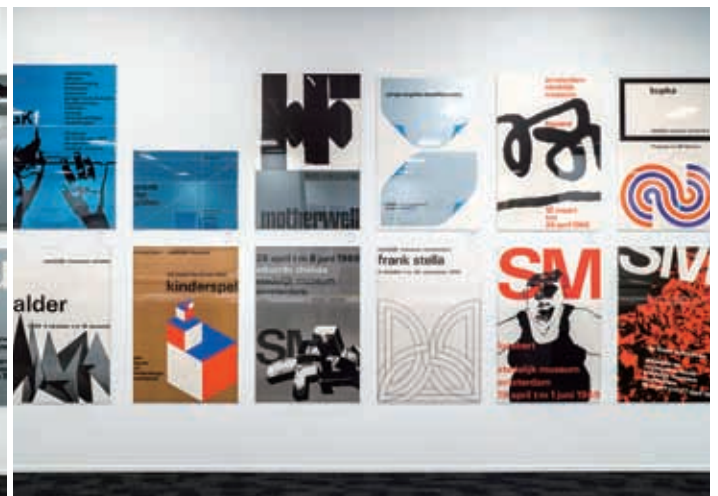
アムステルダム市立美術館

グラフィックデザイン部門キュレーター

Bringing the Wim Crouwel, fascinated by the grid exhibition to kyoto ddd gallery was trying to do several things in one... Not only building up a justified overview of the massive work of this international very well-known designer, but also trying to transfer the feeling to Wim Crouwel (1928) that the exhibition was bearing his touch and the message he always wanted to deliver with his work. A constant condensing of the amount of items to customize the exhibition for this gallery was a challenge. Not only posters but also Crouwels smaller printed matter and precious material from his archive was on show. At ddd the Stedelijk Museum tried to tell the story of the professionalism of Crouwel and his enormous creative input in the world of graphic design. Working with the staff at ddd and with Nicole and Helmut Schmidt was a wonderful experience for which the Stedelijk Museum and Wim Crouwel are very grateful

Carolien Glazenburg

Curator of Graphic Design,  
Stedelijk Museum Amsterdam



## Center for Contemporary Graphic Art and Tyler Graphics Archive Collection 17-18

March 1 – June 11, 2017

DNP Graphic Design Archives Collection VII  
Shin Matsunaga Posters

June 17 – September 10, 2017

KANO mitsuo: On the Tips of Quivering Hues

September 16 – December 23, 2017

The Two Abstractions of Josef and Anni Albers:  
30th Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

February 4 – 12, 2018

The 29th Denzen Print Award Exhibition







# DNP Graphic Design Archives Collection VII

## Shin Matsunaga Posters

March 1 – June 11, 2017

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VII 松永真ポスター展



松永真(1940-)は「生活すべてがデザインである」という信条のもと、身の回りのデザインに鋭い批評眼を向けて既存概念を打破し、わたしたちを取りまくデザイン環境をつねに改革し続けてきた。生活者としての経験や目線を重視した作品は「日常性の美学」と評されるいっぽう、時代を超えた普遍性により国際的にも高く評価されてきた。本展では彼の半世紀にわたる多彩な業績を、ポスターを中心にパッケージ、CIなどさまざまな角度から紹介し、そのデザイン哲学の真髄を探った。

Shin Matsunaga (b.1940) embraces a creed that “everything in our lives involves design,” and through the years he has continuously cast a sharp critical eye on all ambient design, defied stereotypes, and completely recast the design environment around us. While his works that focus on his experiences and perspectives as an everyday citizen of the world are said to possess “the aesthetic beauty of everyday life,” simultaneously they are also highly acclaimed internationally for their universality transcending their times. From various perspectives, this exhibition introduced Matsunaga’s diversified legacy of the past half-century: mainly his posters but also his package designs, corporate identity work, etc.







# KANO mitsuo: On the Tips of Quivering Hues

June 17 – September 10, 2017

加納光於 — 揺らめく色の穂先に



加納光於 (1933~)は1950年代に制作を開始して以来、多様な領域を横断しながら独創的な作品を生み出してきたが、その創作の原点は版画であった。幻想的なモノクロのエッチング、版の変容そのものを作品化したインタリオ (凹版画) やメタルプリント、色彩の発生や揺らぎを主題としさまざまな技法から生み出された多色刷り作品など、彼の版画はそのイメージ探求において重要な役割を果たしてきた。本展では加納光於の初期から現在にいたる版画の代表作を回顧し、この類まれな作家の作品哲学に迫った。

Since embarking on his creative career in the 1950s, Kano Mitsuo (b.1933) has continuously produced a wealth of highly original works spread across a variety of artistic realms—but the point of origin of his creative endeavors was prints. Kano's prints have played an important role in his quest for images: including his dreamy monochrome etchings, intaglio and metal prints derived from matrix transformations, and works of color lithography made by diverse techniques on the themes of color generation and undulating movement. This exhibition was a retrospective of Kano Mitsuo's representative print works spanning from his early years through to today, giving visitors rich insight into the artistic philosophy of this truly rare artist.





# The Two Abstractions of Josef and Anni Albers: 30th Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

September 16 – December 23, 2017

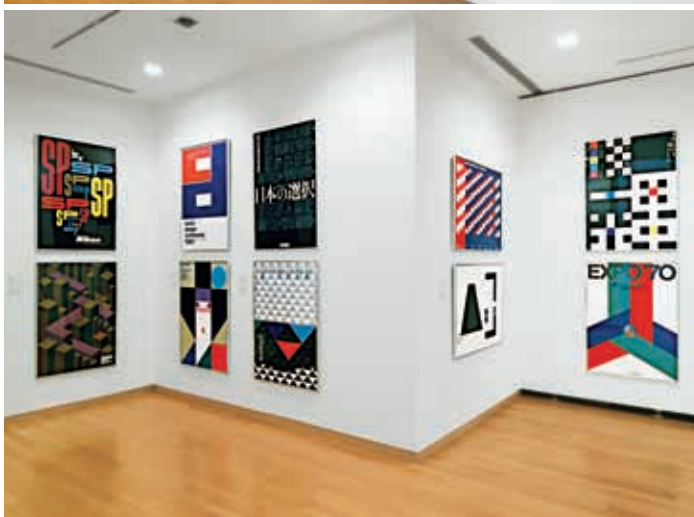
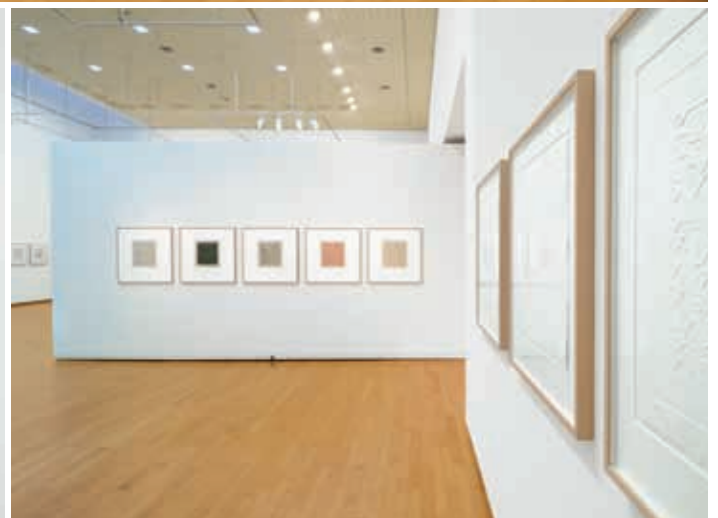
ジョセフ＆アニ・アルバーズ、二つの抽象：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.30



ドイツの造形学校バウハウスに学んだジョセフ・アルバーズ (1888-1976) とアニ・アルバーズ (1899-1994) の夫妻は、のちにアメリカで作家、教育者として活動し、その幾何学的抽象作品により戦後の美術やデザインに大きな影響を与えた。本展ではアルバーズ夫妻が晩年の主な表現媒体とした版画作品を通して、二人が生涯を通じて追及した色彩や形態の表現を展覧した。また同時開催として、戦後日本のグラフィックデザインにおける幾何学的抽象作品の小展示を行い、この分野にアルバーズ夫妻が与えた影響を検証した。

Josef Albers (1888-1976) and Anni Albers (1899-1994), his wife, both studied at the Bauhaus in Germany and, after emigrating to the United States, filled dual roles as artists and educators, their geometric abstractions having a profound impact on postwar art and design. This exhibition, which highlighted their print works—their main medium of expression during their later years—offered visitors an overview of the Albers' life-long pursuit of artistic expression through colors and forms. It was held concurrently with an exhibition, on modest scale, featuring graphic works created through geometric abstraction in postwar Japan, vividly demonstrating the impact exercised by Josef and Anni Albers.







# The 29th Denzen Print Award Exhibition

February 4 – 12, 2018

特別展 第29回田善顕彰版画展



須賀川が生んだ江戸時代の画家、亜欧堂田善（あおうどう・でんぜん）は、西洋式の銅版画技法を研究し、わが国初の銅版画による解剖図や世界地図などを残したことで知られる。とくに遠近法を駆使した写実的な風景銅版画は葛飾北斎などの浮世絵にも大きな影響を与え、2012年にはその価値が認められて国の重要文化財に指定された。本展は田善の功績を顕彰するために、須賀川商工会議所青年部主催により平成元年から続く、小中学生の作品による版画展である。今年も約2,800点の応募の中から選ばれた田善賞ほか入賞作および入選作、計250点を展示した。

Aoudou Denzen (1748-1822), an Edo-period painter born in Sukagawa, studied Western-style copperplate printmaking and became Japan's first artist to create anatomical drawings, world maps and other works by copperplate etching. His realistic landscapes in particular, created through masterful use of perspective, had a great influence on Hokusai and other ukiyo-e artists. The irreplaceable value of Denzen's works was affirmed in 2012 with their designation as an Important Cultural Property of Japan. This exhibition was the 29th in an annual event launched in 1989 organized by the Sukagawa Chamber of Commerce. On display were 250 prints created by local elementary and junior high school students, selected from nearly 2,800 entries in all. They included this year's Denzen Print Award winner, other prize winners and outstanding entries.



教育・普及事業

Education & Enlightenment



ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気 ①

出演者：アンナ・グラボフスカ=コンヴェント  
(ポズナン国立美術館  
ポスター・デザイン部門学芸員)

ポーランドを代表するデザイナー、ロマン・チェシレヴィチ (1930-1996年)の代表作を、ポズナン国立美術館のキュレーターであるアンナ・グラボフスカ=コンヴェント氏が解説。美術アカデミー卒業後、ワルシャワで映画を中心とするポスターの制作や雑誌のアートディレクションを手がけていたチェシレヴィチ。当時制作された220点のポスターを検証すると、若き日より作家がフォトモンタージュなどの手法を斬新に取り入れていたことがわかる。その後パリに移住したチェシレヴィチは、「ELLE」や「VOGUE」といったファッション誌を舞台にさらに才能を開花させ、ときに狂気とも評される「シンメトリー (鏡像)世界」へとめり込んでいく。だが、アンナ氏の解説からは、彼はいわゆる「孤高のアーティスト」ではなく、創作を通じてポーランドや欧州の政治状況にコミットし続けた社会派だったことが伝わってきた。



組版造形 白井敬尚  
DNP 秀英体活字倉庫と久喜工場見学

組版や印刷に精通した白井氏と工場へ行く30名限定の特別イベント。久喜駅に集合した一行はバスで工場へと向かう。久喜工場は短納期・多部数の週刊誌など雑誌の印刷に特化しており、印刷から製本、梱包までの各工程を係員の説明を聞きながら見学した。1日に千本以上使うという巨大なロール紙、高速で印刷加工されていく最新のシステム、完成し梱包された大量の雑誌など、そのスケール感に目を瞠った。そして後半はDNPのオリジナル書体である秀英体の活字倉庫へ。2003年まで使用されていた大量の活字はもちろん、母型や彫刻機や鋳造機、活字を並べておく棚や活字を組んでいく組み箱、実際に美しく組んだ状態の活字、その他さまざまな道具類など、歴史を感じさせる膨大な資料に参加者も興奮気味。活字職人の映像を見たり、説明を聞いた後は自由見学もあり、時間を少しオーバーして帰りのバスの中まで盛り上がる、とても充実した内容となった。



ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気 ②

出演者：矢萩喜俊郎  
デザイナー、建築家、写真家であり、「チェシレヴィチ展」の監修者でもある矢萩喜俊郎氏によるレクチャー。日本では知名度が高いとは言えないチェシレヴィチだが、出身国ポーランドでは現在も大変人気のある作家。矢萩氏はかつて国が消滅する運命に見舞われた、ポーランドという国の近現代史を解説しながら、「異邦人」というキーワードを用いてチェシレヴィチの仕事を紐解いていった。母国の複雑な政治状況から逃れ、ロシア構成主義からバウハウス、1960年代パリのファッション・芸術運動まで、様々なデザインムーブメントを柔軟に取り入れながら、シンメトリカルな線対称図像に代表される独自の創作スタイルを確立したチェシレヴィチ。彼だけでなくポーランドのデザイナーたちは、国家による干渉の「隙間をかくくぐって (矢萩氏)」仕事をし、自由を求めて活動した。その思いが「ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ」として結実することになったのだ。



マリメッコ・スピリッツ パーヴォ・ハロネン/  
マイヤ・ロウエカリ/アイノ=マイヤ・メツツォラ

出演者：ミンナ・ケメル=クトゥヴォネン+  
パーヴォ・ハロネン+マイヤ・ロウエカリ+  
アイノ=マイヤ・メツツォラ

マリメッコの商品開発ディレクターであるミンナ・ケメル・クトゥヴォネン氏をモデレーターに、同ブランドで活躍する3人の現役デザイナーがマリメッコの「魂 (スピリッツ)」を自由に語る。3人は専属ではなくフリーランス。マリメッコの本拠地であるフィンランドのヘルシンキ芸術大学在学中にコンペで入賞したデザイナーから、イラストレーターや画家として活動しながらマリメッコの仕事もしている作家など、バックグラウンドは様々。クトゥヴォネン氏によれば「マリメッコは様々な分野のアーティストを結びつけること」で新しいもののづくりを行っており、彼らとの共同作業こそまさにブランドのスピリッツだという。レクチャーでは3人が得意とする技法や、今回の展示に向けて3人が取り組んだ新作の制作エピソードなども語られ、質疑応答も活発だった。



2017 ADC展

出演者：宮田識+植原亮輔+渡邊良重

「D-BROS at GINZA SIX」のポスター、ジェネラルグラフィック、パッケージデザイン、環境空間、マーク&ロゴタイプでADC会員賞を受賞した宮田識、植原亮輔、渡邊良重の三氏によるトーク。1995年から続くD-BROSが銀座店に出来た商業施設GINZA SIXに出店することになり始まった今回のプロジェクト。多くの部門を合わせた受賞となったが、トークでは銀座店限定の商品の開発についての話を中心となった。日本の伝統文化をテーマに、まずは家紋を収集し一点一点描き起こして本にまとめることから始まり、その家紋を風呂敷などの商品に展開したり、へら絞りや漆塗りなど日本の伝統工芸を使った新商品の話などが続々。ドラフトのデザイナー達、各地の職人さんなど、関わった多くの人との苦労話も興味深い。そしてトークの後はGINZA SIXの実際の店舗へと移動、そこで説明を聞いたり、商品を手に取ってみたり、購入したりと、楽しい時間となった。



平野甲賀と晶文社展

出演者：平野甲賀+  
津野海太郎 (評論家・元晶文社取締役)

ともに1938年生まれ80歳、コンビニでありライバルでもある装丁家と編集者として、晶文社を舞台に日本の出版文化を盛り上げてきた平野甲賀氏と津野海太郎氏によるトーク。アングラ演劇やコンピュータとの出会い、東日本大震災後の小豆島移住など、1960年代から現在にいたるまでの様々なエピソードの向こうに、「甲賀流デザイン」の秘法が垣間見える「ここだけの話」となった。丁々発止の対話のクライマックスを紹介すると――  
津野：「じゃあ、結構君は波乱万丈の一生だったね」平野：「つらいよ、結構 (笑)」。津野：「だけど、君のデザイン、結構本屋で見かけるよ」平野：「まあ、ぼちぼちね。こうして展覧会を開いたりするのも苦肉の策で宣伝活動だ (笑)」。津野：「まだ生きているぞということか？」平野：「大きなことを言うようだけど、文字をさらに考えるようになったね。ああ、文字というのは面白いんだとか、日々考えるよ」



## 2017 ADC展 ギャラリーツアー

出演者：色部義昭、菊地敦己、小杉幸一

同時開催のクリエイションギャラリーG8との共同企画。会員の中から今年のADC展の告知物のアートディレクションを担当した色部義昭氏と、菊地敦己氏、小杉幸一氏を招き開館後のギャラリーを約40名の参加者と巡った。まずは一般部門が展示されたG8からスタート。受賞作を中心に三人がそれぞれの視点からそれぞれの作品の見るべきポイントを的確に解説していった。注目はやはりグランプリ作品の「INDUSTRIAL JP」。今年から新設されたウェブサイトなどを対象としたオンスクリーンメディア部門からの受賞であり、選考過程での評価ポイントなど審査についての興味深い話なども聞くことが出来た。そして次は会員部門のギンザ・グラフィック・ギャラリーへ移動、こちらも会員賞受賞作を中心に、どこがどう素晴らしいのかなど細かく掘り下げて説明した。出演者と参加者の距離も近く和やかな雰囲気、展覧会をより深く楽しめる機会となった。



## 平野甲賀と晶文社展 ギャラリーツアー「甲賀さんの本について話そう」

出演者：鳥海修（書体設計士・有限会社字游工房代表取締役）＋日下満一（ブックデザイナー）

ギャラリー内で実際の展示作品を前にして、平野甲賀氏をよく知るゲストお二人に、その人となりや見どころを語っていただくイベント。まず一階は平野氏が過去の仕事を新たな目線により再構成したアート作品。平野氏特有の躍るようなオリジナル文字について、その魅力をそれぞれが解説した。例えば「劇場」という文字はまさに劇場のカタチをしている、字面通りの意味を超えて絵としての役割も担っているなど、具体的にいくつかの作品を取り上げての説明はわかりやすく、参加者も大きく青いていた。続いて地下に展示された約600冊の書籍について、主に日下氏がブックデザイナーの立場から、お気に入りの本のレイアウトや細かい字詰めなどの特徴を丁寧に解説した。終始アグレッシブに話を進める日下氏と、それをやんわりと受けとめる鳥海氏のコンビネーションも絶妙で、あっという間の一時間半だった。



## Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロウ展

出演者：フィリップ・アペロウ

1998年に続いてgggで2度目の開催となるフィリップ・アペロウ展。トークにはアペロウ氏本人が登場し、まず冒頭で「今回の展示は田中一光氏へのオマージュ」と述べた。デザイナーとして活動を始めた当初から、「コンテンポラリーダンスの表現者たちから刺激と影響を受けてきた」と語るアペロウ氏。躍動する人体の「動き」をいかにタイプフェイスに表現するか？そのテーマを模索し続けてきたという。イッセイ・ミヤケの香水「L'EAU D'ISSEY」など、彼がこれまで手がけた数々のプロジェクトを「生きた教材」として、世界的デザイナー本人がそのデザインプロセスを明らかにする刺激的な内容。デザインにおいて「手を使う」ことの大切さを強調したアペロウ氏。「私たちはすべてのデザインを手でできるのだということを忘れてはいいですか？」と問いかけるなど、日本の若い聴衆の心も動かすレクチャーだった。



## 平野甲賀と晶文社展 クロージングイベント「わたしの平野甲賀、この1冊」

出演者：有山達也（アートディレクター/グラフィックデザイナー）、大原大次郎（デザイナー）、岡本仁（編集者）、野崎雅彦（古本屋ロス/パレオス店主）、宮沢章夫（劇作家）＋平野甲賀

展覧会最終日にギャラリー内（B1）で行われた特別イベント。平野甲賀氏と関わりのある多彩なゲスト5名を迎えた。まずは平野氏が手掛けたブックデザインの本のの中から、ゲストそれぞれが選んだこれぞという一冊を取り上げ、その本についてのエピソードや、それをきっかけに平野氏のデザインや活動への思い、平野氏に聞いてみたいことなど、話は次々に膨らんでいった。そしてそれらの話を受けて後半は平野氏も登場、ゲストからの質問に答える形で、書き文字やコンピュータの話など自身の仕事について語った。またデザイン活動の周辺のさまざまなこと、伝統的な手書き文字、作家や演劇など、いろいろな人との裏話的な話題も飛び出し、3時間におよぶ賑やかなトークは展覧会を締めくくりにふさわしい催しとなった。



## 組版造形 白井敬尚 ①

出演者：白井敬尚

1回目のトークは「組版造形とブックフォーマット（ケーススタディ）」と題し、白井氏が自身の仕事とその背景についておおいに語った。まずは白井氏が影響を受けたという、杉浦康平、清原悦志、ヘルムート・シュミットの作品を見せながら、日本においてグリッドシステムがどのように受容されてきたのかを説明した。さらにグリッドシステムの成立について、ヤン・チヒョルトやミューラー・ブロックマンなど、ヨーロッパの著名なデザイナーの事例や、さらに時代を遡ってさまざまな時代の多くの資料によって詳細に解説。そして白井氏が自身の仕事でいかにグリッドシステムを使いこなしているのかを、書籍や雑誌「アイデア」の誌面やフォーマット用紙などの資料を用いて丁寧に紹介した。トーク終了後も白井氏が持参した貴重な資料を熱心に見たり、質問をしたりする参加者も多く、とても充実した内容のトークとなった。



## 仲條正義 IN&OUT, あるいは飲&嘔吐

出演者：仲條正義＋山下裕二（美術史家）

84歳を迎えてますます精力的な創作活動を続けられている仲條氏と美術史家でデザインにも造詣の深い山下氏によるトーク。二人の関係は2005年に仲條氏が声をかけ、代表作「花椿」の「其ノ、ココロハ」というコーナーを山下氏が担当して以来。一見無関係な二つの画像に対して263文字以内でコメントするシリーズ。トークは山下氏が聞き役となり仲條氏の生い立ちから学生時代、資生堂宣伝部からの独立とそれ以降を追った。仲條氏の生誕地にほど近い山下氏の現住所の話に始まり、最盛期には350万部発行という「花椿」や、関西のデザイナーとの関係性について、京都の「細見美術館」他いくつもの美術館との仕事。そして後半は本展のタイトルにも現れた「対」を多用する軽妙洒落な「仲條正義のことば」の数々（「アルコールは父、ニコチンは母。」「傑作は偶然。」「締め切りが仕上が。」「等々」を紹介し、来場者の笑顔を誘う内容であった。



## 組版造形 白井敬尚 ②

出演者：白井敬尚＋榎本了亮

2回目のトークはゲストに榎本了亮氏を迎えた。面識はあるものの、このような形で改めてトークをするのは初めてという一見異色の組合せ、しかし数々の雑誌や書籍などエディトリアルの仕事に深く関わってきたという点では共通する二人。それぞれの仕事を紹介しながら、書体やフォーマット、活字や写植にデジタル化、装丁や編集についての話など大いに盛り上がった。グリッドシステムが生まれた西欧とは違い、漢字にひらがな、カタカナに時にはアルファベットさえ混じり、縦組みも横組みもある日本の文字をうまく処理するのだから、世界一のエディトリアルデザイナーは日本から生まれざるを得ない、それが白井さんと言う榎本氏。記述言語体系が複雑だから、日本語のレイアウトにほどまで行っても行きつかないような面白さがあるのではと、話は大きく拡がりつつ時間ギリギリまで続く熱いトークとなった。



## TDC 2017

出演者：服部一成

前半は、服部氏が東京で開催された「TDC DAY」の受賞者によるレクチャーも参考に、会場に展示の受賞作品への端的な解説と感想を述べた。後半は展示された自身の作品を紹介。特別賞受賞の「横山裕一/アイランド」は、日本語のイワタ明朝とローマ字のMSゴシックというひどい書体を敢えて使用。よくない事を集めてサマになるデザインを探索。京都出身の「くるり」の音楽の仕事はメンバーのアイデアを尊重。POLAの新VIIは、水玉の連続パターンとその最小限のフォルムの切り出しでステーションナリーから店舗デザインまで展開可能に。書籍「建築家 坂本一成の世界」の編集者との奇妙な関係性、吉増剛造展ポスターでは詩人のイメージをハンコの文字で再構成、日本酒ポスターは並々と注がれた日本酒の表面張力のシンプルな表現への苦心等、興味深いエピソードを語った。（会期中の日曜特別開館時にはTDC照沼氏によるギャラリーツアーも開催。）





平野甲賀と晶文社展

出演者：平野甲賀＋黒川創（作家）

評論家で小説家の京都市出身の黒川氏と平野氏のトーク。二人の関係は、黒川氏が平野氏装丁の鶴見俊輔氏の「思想の科学」の編集に加わった時から既に30年以上。黒川氏によると一般的には出版の編集と装丁、演劇の役者と舞台装置は緊張関係にあるが、平野氏はそれを飛び越えた共同作業者であると言う。平野氏は自分でそうせざるをえずにやってきたし、仲間に支えられてきたのだと振り返る。また平野氏は今も過去の作品を手直しし続けるのはなぜかとの問いかけに、今、やっていることが一番面白いと応え、日本語の美しさに幸せを感じると言う。文字とは概念を表すだけでなく、形にも意味があり、繰り返していると思う着眼点や再発見があるとの事。さらに会場の作品を例に何を感じて作ったかを解説。最後に黒川氏が平野氏世代は生きている限りはずっとやる、「そうだ、まだこの先があるぞ!」というバイタリティに満ち溢れていると語って終わった。



ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて 特別講義  
佐藤淳「ウィム・クロウエル:オクタヴォとの4年間」  
カロリン・フラゼンブルグ「ウィム・クロウエル:アムステルダム市立美術館グラフィックデザインコレクションにおける重要性」

会場：京都造形芸術大学 智勇館

佐藤教授は1984年ロンドンに設立のデザインユニット、オクタヴォとクロウエルの関係を自身のコレクション画像等で解説。オクタヴォ発行の「タイポグラフィジャーナル」の読者ハガキでクロウエルは関係を構築。1988年発行の第5号ではオランダの小文字主義特集が組まれ寄稿。クロウエルがボイマンス・ファン・ペーニンゲン美術館の館長就任後、ポスター、カタログ等を発注。退任前にはオクタヴォの展覧会を提案し開催された。カロリン女史は、多くの写真を使い1895年に設立されたアムステルダム市立美術館について解説。52力国・30分野に及び膨大な収蔵品の中から、作品を紹介。後半は歴代館長別の美術館の経営施策や新築の為の移転を経て2012年オープン現在の美術館別館を建築家のクロウエルの息子が設計した事にも触れ、いかにクロウエルがこの美術館に重要な人物であるかを語った。



平野甲賀と晶文社展 ギャラリーーツアー  
鳥海修による「鳥海修の勝手に評論」

出演者：鳥海修（有限会社字游工房 代表取締役）

平野氏と親交がある鳥海氏によるギャラリーーツアー。展示された本を例に平野氏はタイトルに3つの明朝書体しか使わない、太さの違う書体を使う、やたら字を詰める等の特色を紹介。また壁面ポスターを個々に取り上げ、初の描き文字は「父」、チャベック作品を例に表面的には能天気だがバックボーンが深い、一文字一文字は有り得ないが全体として纏まっている、優れたデッサン力が表紙でタイトルを感情にまで伝える、とその甲賀ファンぶりを披露。描き文字データを「コウガグロテスク」として販売したが、本人は誰も他人は使いこなせないと思っていた、頭デッカチの文字は「禿頭体」と言ってカワイイさを追求等々、ここだけのエピソードを次々に披露。30年以上の晶文社時代、タイポグラフィやデザインを杉浦康平や栗津潔から勉強したが、結局彼らには嵌まらず自分の様式を作り上げた時代だったと締めた。



ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて 特別講義  
グリッドシステムの成立とその意味

出演者：白井敬尚

白井氏による4時間近くに及び講義。始めにグリッドとは活字サイズ・行送りで決まるブックフォーマットを司るユニットシステムである事を概説。日本では1950年台より導入、様々な用例についてグリッドで解析。第2部は、写本から引き継がれたブックフォーマットとしてバチカンの聖書に始まり、グーテンベルクの42行聖書を経て、維新後の日本にまで連なる500年の様々な書体とレイアウトの歴史を解説。第3部は、視覚言語とテクノロジーにより再考されたモダンタイポグラフィ、ブックフォーマットとして新聞書体や広告用書体他を紹介。第4部は、秩序・機能・合理・汎用性を求めたグリッドシステムの成立、第5部は直近のグリッドの細分化と重層化、解体から回帰、言語の画像化・音源化等の事例をいずれも豊富なスライドで解説。質疑応答では参加者からの具体的な質問も多く白井氏が丁寧に回答を行った。



.communication  
party.communication /  
students.communication

学生たちが共有するビビッドなテーマ「コミュニケーションのズレ」について、学生、卒業生、教員がフラットな関係で取り組み、様々な視点から作品を制作発表した本展では、自分たちの視点を「.（ドット）」でcommunicationと接続。party.communicationでは、パーティ形式でコミュニケーションの場を作る参加型作品として2回のパーティが行われた。1回目は出身地から地元の食である特産品を出品者が持ち寄り、地図上に飾り付けた後、自身の原点に触れるプレゼンテーションを行い、対話の場を作り上げた。2回目は地元産品を用いてアート作品の如く美しいオードブルを提供するケータリング会社と協力し、食とコミュニケーションのための空間をデザインした。また会期中は学生が授業等の空き時間を調整の上、3名がdddに常駐し作品解説を行うstudents.communicationも展開された。



ウィム・クロウエル  
グリッドに魅せられて ②

出演者：ヘルムート・シュミット

クロウエルと親交のある氏による本展タイトルを踏まえた「ウィム・クロウエルに魅せられて」と題されたトーク。始めにモンドリアン作品を水平と垂直の美の例に、ニューアルファベットに連なる様々なフォントを紹介。ニューアルファベットに魅了され、無許可で自分の年賀状に使ったと言う。1966年氏が働く大阪のデザイン事務所の同僚ウィル・ヴァン・サンピークがクロウエルと繋ぎ、1970年の大阪万博でオランダ館を監修するクロウエルと初対面。その後のトータルデザイン訪問やアムステルダムのプリント博物館での氏の展覧会開催時の交流等を披露。クロウエルのアムステルダム市立美術館の同じグリッドによる変化に富んだポスター作品や依頼した各種寄稿文の数々、そして氏が担当したgggBooks掲載のクロウエル略歴に基づくクロウエルの仕事等を愛情深く解説。氏とクロウエルの人柄に触れる内容であった。



ウィム・クロウエル  
グリッドに魅せられて ①

出演者：カロリン・フラゼンブルグ（アムステルダム市立美術館 グラフィックデザイン部門キュレーター）

本展キュレーターのカロリン女史がクロウエルの略歴を概観。1928年生まれ。印刷会社勤務でアマチュア画家・写真家の父親に影響を受ける。彼が学んだアカデミア・ミネルヴァやリートフェルト・アカデミーで機能主義による教育を受けた。社会問題を解決する為、写真の使用を奨励された。最初に勤務したエンダーベルフでスイスデザインと出会い、当時オランダに無かったサンセリフ等のフォントに感銘。1963年幅広い分野に対応するトータルデザインの共同設立者となり、1970年大阪万博ではオランダ館を監修。アムステルダム市立美術館の仕事では作家達を解釈したポスターを制作。要求の多い美術館の仕事から有名なグリッドシステムによるポスターが生まれた。彼は現実を単純化し過ぎているとの批判とも長年戦い、最後に彼の「私は美的な事に囚われてしまうエンジニアだ」という言葉で締め括った。



## Roman Cieřlewicz Melting Mirage (No.1)

**Speaker :** Anna Grabowska-Konwent  
(Curator of Poster and Design Gallery,  
National Museum in Poznan)

Ms. Grabowska-Konwent has been studying Cieřlewicz and his works since the 1990s. After graduating from the Academy of Fine Arts in Krakow, Cieřlewicz moved to Warsaw, and began creating mostly film posters and performing magazine art direction. An examination of 220 posters he created during those days reveals that already from a young age Cieřlewicz was incorporating brand-new techniques: for example, photomontage. Subsequently he relocated to Paris, where he further burnished his talents working for such fashion magazines as *ELLE* and *VOGUE*, becoming completely absorbed in "melting mirages," mirror symmetry at times viewed as madness. Ms. Grabowska-Konwent's talk made it clear, however, that Cieřlewicz is not the "aloof" artist often claimed, but rather a socially insightful artist who, through his creative work, maintained a constant commitment to the political situations of Poland and Europe.



## Roman Cieřlewicz Melting Mirage (No.2)

**Speaker :** Kijuro Yahagi

The lecturer for this Gallery Talk was designer, architect and photographer Kijuro Yahagi, who supervised the exhibition. Although Cieřlewicz is not too well known in Japan, in his native Poland even now he remains a highly popular artist. Mr. Yahagi unraveled the fine points of Cieřlewicz's work using the keyword "ihōjin," meaning "foreigner" or "stranger," while explaining Poland's history in modern times as a country fated to lose its individual identity. Cieřlewicz fled from the complex political circumstances of his homeland and, while flexibly taking in the elements of diverse design movements—from Russian Constructivism to the Bauhaus, to the Parisian fashion and arts movements of the 1960s—he established a unique creative style represented by symmetrical imagery. Mr. Yahagi noted how Cieřlewicz, like other Polish designers of the period, undertook his work while dodging through the gauntlet of inference posed by the state, in pursuit of freedom. That quest came to fruition in the form of the International Poster Biennale in Warsaw.



## 2017 ADC Exhibition

**Participants :** Satoru Miyata + Ryosuke Uehara +  
Yoshie Watanabe

This Gallery Talk brought together Satoru Miyata, Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe: three recipients of Tokyo ADC Awards for their total design created for "D-BROS at GINZA SIX." For D-BROS, which traces its operations to 1995, the project at GINZA SIX, a new commercial complex attracting great attention in the upscale Ginza area, began with its opening of a shop within the complex. The awards were received for the totality of their creativity spanning multiple genres, but at the Gallery Talk the focus was on the development of new products specifically for the new shop in Ginza. Speaking on the theme of traditional Japanese culture, the trio talked about their new products making use of traditional Japanese crafts like metal spinning and lacquerware—starting from collecting family crests, drawing them one by one, compiling them into a book, then developing products such as "furoshiki" wrapping cloths. Following the Gallery Talk, the venue shifted to the actual shop at GINZA SIX.



## 2017 ADC Exhibition Gallery Tour

**Guides :** Yoshiaki Irobe, Atsuki Kikuchi,  
Koichi Kosugi

This event was held jointly with Creation Gallery G8. Approximately 40 participants toured the two galleries after closing time together with Yoshiaki Irobe, Atsuki Kikuchi and Koichi Kosugi. The tour began at G8, where the works of non-members were shown. The three guides provided apt explanations of the noteworthy points of various works, primarily the award-winning works, from their respective perspectives. Garnering the most attention was the Grand Prize winner, "INDUSTRIAL JP." This work had been entered in the newly established Onscreen Media category, and the participants were treated to a very interesting explanation of the main points of evaluation during the judging process. Next, the tour venue shifted to ginza graphic gallery, where the works by Tokyo ADC members were on show. Here too, detailed explanations were given of what was outstanding about specific works that garnered Members Awards. The atmosphere was very cordial as the guides and participants discussed the various works, providing an opportunity for enjoying the exhibition on a deeper level.



## Apeloigg Tokyo

**Speaker :** Philippe Apeloig

This was Philippe Apeloig's second show at ggg, following his first in 1998. He opened his Gallery Talk stating that with this exhibition he wished to pay homage to the memory of Ikko Tanaka. He said that from the time he became active as a designer, he had been inspired and influenced by contemporary dance artists. How could he express in typefaces the vibrant movements of the human body—this is the theme he said he has continuously sought after. Mr. Apeloig's talk was extremely stimulating, clarifying as it did the design process of this global designer whose numerous projects to date—including "L'EAU D'ISSEY" for Issey Miyake—he described as "living educational materials." In particular he emphasized the importance of using hands when designing. "We tend to forget that we can design everything with our hands," he told his audience. It was a lecture that touched the hearts of the many young Japanese present.



## Typographic Composition: Yoshihisa Shirai (No.1)

**Speaker :** Yoshihisa Shirai

The first Gallery Talk was titled "Typographic Composition and Book Formats: A Case Study." Mr. Shirai spoke at length about his work and its background. To begin, he explained how the grid system came to be accepted in Japan, as he showed works by artists who influenced him: Kohei Sugiura, Etsushi Kiyohara and Helmut Schmid. He then proceeded to describe how the grid system came into being, giving examples of famous European designers such as Jan Tschichold and Josef Müller-Brockmann, and delved deeper through numerous materials from various periods further in the past. Mr. Shirai next offered a detailed explanation of how he makes full use of the grid system in his own works, illustrating his remarks using such materials as the pages and format sheets of various books and *IDEA* magazine. After the Gallery Talk ended, many in the audience avidly examined the valuable materials Mr. Shirai had brought along and asked questions, making for a session very rich in content.





## Typographic Composition: Yoshihisa Shirai (No.2)

Participants : Yoshihisa Shirai + Ryoichi Enomoto

For his second Gallery Talk, Mr. Shirai's guest was Ryoichi Enomoto. This was the first time the two held a formal talk, and while on the surface their pairing might seem quite unlikely, Mr. Shirai and Mr. Enomoto share in common their deep involvement in editorial work for numerous magazines, books, etc. As they respectively introduced their works, a lively discussion ensued regarding typefaces, formats, movable type, photocomposition, digitalization, book design and editing. Mr. Enomoto offered that, in contrast to the West where the grid system was born, Japan inevitably demands the world's foremost editorial designers because the Japanese designer has to deal skillfully with a mixture of Kanji characters, the hiragana and katakana syllabaries, and at times Western alphabets, as well as both vertical and horizontal typographic composition—and he said that Mr. Shirai ranks first in every respect. The discussion expanded to how interesting Japanese layout is precisely because of its complexity as a descriptive language system of unlimited scope.



## Typographic Composition: Yoshihisa Shirai Field Trip to the DNP Shueitai Type Storehouse and Printing Factory in Kuki

This was a special event in which participants, limited to 30 in number, accompanied Mr. Shirai, to a printing factory. The Kuki factory specializes in printing weekly and other magazines with large print runs that require quick delivery, and the visitors observed all processes from printing to binding to packing, augmented by explanations by the staff in charge at each stage. Everyone was amazed to see the scale involved: the giant paper rolls, more than a thousand used every day; the newest system enabling high-speed printing; the large number of magazines printed and packed. The second half of the tour consisted of a visit to the storehouse containing DNP's original "Shueitai" type. With great excitement the participants viewed the huge volume of materials of historic importance: not only the vast volume of type actually employed until 2003, but also matrixes, engraving machines, casting machines, and tools of all kinds that were used by the workers, etc. The event proved so interesting that it went beyond the allotted time, with the excitement still palpable in the bus back to the station.



## Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola

Participants : Minna Kemell-Kutvonen +  
Paavo Halonsuperen +  
Maija Louekari + Aino-Maija Metsola

The three featured designers currently working for Marimekko engaged in a free discussion about the Marimekko "spirit," with Minna Kemell-Kutvonen, director of product development at Marimekko and supervisor of this exhibition, serving as moderator. All three designers are freelancers who had won a competition while studying at the University of Art and Design in Helsinki, Finland, where Marimekko is based. They come from different backgrounds: some work for Marimekko while also keeping active in illustration or painting, etc. Ms. Kemell-Kutvonen said that Marimekko creates new things by linking together artists from various fields, and it is this collaborative stance that constitutes the spirit of the Marimekko brand. The three designers each spoke of the techniques in which they excel, and Aino-Maija Metsola talked about her project that led to her work for this exhibition. The Gallery Talk suggested why Marimekko remains so popular in Japan.



## Kouga Hirano and Shobunsha

Participants : Kouga Hirano + Kaitaro Tsuno (critic,  
former director of Shobunsha)

This was a Gallery Talk bringing together Kouga Hirano and Kaitaro Tsuno, who as book designer and editor at the publishing company Shobunsha gave Japan's publishing culture a hefty lift. As both teammates and rivals, Mr. Hirano and Mr. Tsuno also share birth years: 1938, making them 80 years of age. Hearing Mr. Hirano's various anecdotes tracing from the 1960s to the present—his encounters with underground theater and computers, his relocation to the island of Shodoshima after the Great East Japan Earthquake, and so on—provided a glimpse into the mystique of "Hirano-style design." Tsuno: "You've had a life filled with ups and downs, haven't you." Hirano: "Pretty tough, yeah (laughs)." Tsuno: "Yeah, but I see quite a lot of your designs in the bookstores." Hirano: "Well, a bit, yeah. Holding an exhibition like this is sort of a desperate way of publicizing myself (laughs)." Tsuno: "To show that you're still alive?" Hirano: "Not to exaggerate, but I've been thinking all the more about lettering lately. It's so fascinating, I think about it all the time!"



## Kouga Hirano and Shobunsha

Participants : Kouga Hirano + Sou Kurokawa (writer)

This Gallery Talk was an exchange between Mr. Hirano and Sou Kurokawa, a critic and writer of fiction. They have known each other for more than 30 years, starting from when Mr. Kurokawa took part in editing Shunsuke Tsurumi's *Shiso no Kagaku* (Science of Thought), a book designed by Mr. Hirano. Mr. Kurokawa opined that, generally, the relationship between the editor of a book and its designer is tense, like that between the actors in a play and the stage props, but in Mr. Hirano's case, he goes beyond this and is a full-fledged collaborator. Mr. Hirano said that, in retrospect, he had to work that way because he has always been supported by like-minded colleagues. When asked why, even today, he continues to touch up works he created in the past, Mr. Hirano replied that what he is doing today is the most interesting, and he takes pleasure in the beauty of the Japanese language. The written word not only expresses concepts; there is also meaning in its form, and when considered repeatedly, different perspectives and new discoveries are made.



## Kouga Hirano and Shobunsha Gallery Tour: "An Unasked-for Critique by Osamu Torinoumi"

Tour Guide : Osamu Torinoumi  
(president of JYUKOBO Ltd.)

A Gallery Tour was led by Osamu Torinoumi, a friend of Kouga Hirano who mobilized the assistance of students from Kyoto Seika University, to set up this exhibition. Using the books on display as examples, Mr. Torinoumi spoke of the distinguishing features of Mr. Hirano's work: his use of only three Mincho typefaces in titles, his use of typefaces of different thicknesses, his tendency to pack characters and letters close together, etc. Referring to the individual posters mounted on the gallery walls, Mr. Torinoumi revealed how much he is a fan of Mr. Hirano's work, through episodes as "each individual character seems impossible, but the whole fits well together" or "Mr. Hirano's superlative skill at sketching conveys emotion through the title on the cover." Mr. Torinoumi closed his remarks with the view that during the more than 30 years Mr. Hirano worked at Shobunsha, although he learned typography and design from Kohei Sugura and Kiyoshi Awazu, ultimately he did not fit into their mold but rather created a style all his own.



## .communication party.communication / students.communication

At this exhibition where students, alumni and teachers, approaching each other on equal terms, showed works from diverse perspectives relating to the shared theme of "communication gaps," a dot (.) was prefixed to "communication" to express their viewpoint. party.communication, held in the form of two parties, involved the creation of a setting for communication involving exhibition visitors. In the first, the exhibitors brought along special food items from their respective places of birth and gave presentations touching on their personal roots. In the second, they collaborated with a catering service and, using products of their respective home regions, they presented beautiful hors d'oeuvres like artworks, designing a space for food and communication. In addition, under the name "students.communication," throughout the exhibition period three students, during their free time, were on hand at the gallery to explain the works on display to visitors, fostering dialogue with visitors.



## wim crouwel: fascinated by the grid (Gallery Talk No.1)

Speakers : Carolien Glazenburg (Curator of Graphic  
Design, Stedelijk Museum Amsterdam)

Carolien Glazenburg, who curated this exhibition, presented an overview of Wim Crouwel's biography. Crouwel was born in Groningen, the Netherlands, in 1928. At Academie Minerva and the institute now known as Gerrit Rietveld Academie, Crouwel received an education in functionalism. Not long after starting his professional career at Enderberg, he came in contact with Swiss design, and in particular he was greatly taken by sans-serif and other fonts nonexistent in the Netherlands in those days. In 1963 Crouwel became a co-founder of Total Design, a multidisciplinary design studio. In his work for the Stedelijk Museum Amsterdam, Crouwel created posters infused with his interpretations of the featured artists, and it was from his abundant work requested by the museum that his posters employing his famous grid system were born. The grid system enabled efficient conveyance of instructions to his assistants. For many years Crouwel battled criticism that he simplifies reality too much, to which he ultimately replied, "I'm an engineer captivated by aesthetics."



## Kouga Hirano and Shobunsha Gallery Tour: "Let's Talk About Mr. Hirano's Books"

**Guides :** Osamu Torinoumi (typeface designer / president of JIYUKOBO Ltd.) + Junichi Kusaka (book designer)

The two guests for this event both know Mr. Hirano very well, and in this Gallery Tour they stood before the actual works on display and talked about his personality and the points of interest in his works. The tour started on the ground floor, where Mr. Hirano's artworks of the past were retouched from a new perspective. Mr. Torinoumi and Mr. Kusaka explained why Mr. Hirano's unique lettering, which its characteristic "dancing" quality, is so appealing. Their explanations of a number of specific works were easy to understand and brought hearty nods of agreement from the participants. Next, the tour shifted to the lower gallery where roughly 600 books were on display. Here Mr. Kusaka took the lead and, from his standpoint as a book designer, he explained in detail the special traits of the layouts and spacing of books he especially likes. The combination of Mr. Kusaka, who spoke aggressively throughout, and Mr. Torinoumi, who always responded softly, was superb.



## Kouga Hirano and Shobunsha Closing Event: "My Kouga Hirano: This One Book"

**Participants :**

Tatsuya Ariyama (art director / graphic designer), Daijiro Ohara (designer), Hitoshi Okamoto (editor), Masahiko Nozaki (owner of Los Papelotes used book shop), Akio Miyazawa (playwright) + Kouga Hirano

This was a special event that took place in the lower gallery on the final day of the exhibition. Five guests were on hand who have been involved with Mr. Hirano in various ways. To begin, each guest selected one of the many books designed by Mr. Hirano—and the talk proceeded from there. They related an anecdote about their chosen book, or spoke of how the book had gotten them interested in Mr. Hirano's design work or activities, or stated what question they would like to ask Mr. Hirano about it. In the second half, Mr. Hirano then joined in and, answering questions from the guests, he talked about his work: about his handwritten lettering, computers and so on. The talk randomly turned to various aspects surrounding his design activities, traditional handwritten writing, artists, plays, unknown episodes about various people, etc.



## Masayoshi Nakajo: IN&OUT

**Participants :** Masayoshi Nakajo + Yuji Yamashita (art historian)

This Gallery Talk brought together Masayoshi Nakajo, who at age 84 continues his creative activities ever more energetically, and Yuji Yamashita, an art historian with deep knowledge about design. Their relationship traces back to 2005, when Mr. Nakajo invited Mr. Yamashita to take charge of a feature in Hanatsubaki magazine, one of his representative works: a series in which Mr. Yamashita was asked to comment, briefly, on two seemingly unrelated images. The talk began with Mr. Yamashita asking Mr. Nakajo about his life, starting from his upbringing and student days to his stint in the advertising department at Shiseido, his going freelance, and his subsequent career. They spoke about how Mr. Yamashita is currently living close to where Mr. Nakajo was born, about how Hanatsubaki at its peak had a print run of 3.5 million copies. In the second half they introduced some of the many witty sayings to emanate from Mr. Nakajo, such as: "Father is alcohol, mother is nicotine" and "The deadline is whenever you finish what you're doing."



## Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

**Speakers :** Kazunari Hattori

The first half of the Gallery Talk by Kazunari Hattori, who is a Tokyo TDC director and judge, was dedicated to brief explanations, and his commentary, of the prize-winning works on show at the gallery, with reference made to the lectures that had been given by the winners at "TDC Day" held in Tokyo. In the second half Mr. Hattori introduced his own works on exhibit. His book design for Yuichi Yokohama's ICELAND, winner of the Special Prize, makes bold use of awful fonts: Iwata Mincho for Japanese and MS Gothic for Romanized text—in pursuit of design that brings together what isn't great and makes something presentable of it. In Mr. Hattori's more than 10 years of work created for the music team of QURULI, who hail from Kyoto, Mr. Hattori respects the ideas offered by its members. For POLA's new VI, he uses a continuous pattern of polka-dots and minimal forms, developing this into everything from stationery to shop design. (On the Sunday when the gallery was specially opened, a Gallery Tour was led by Tokyo TDC's Takako Terunuma.)



## wim crouwel: fascinated by the grid (Special Talk) Jun Sato: "Wim Crouwel: Four Years with 8vo" Carolien Glazenburg: "Wim Crouwel's Importance for the Stedelijk Museum's Graphic Design Collection"

**Venue :** Kyoto University of Art and Design

Professor Jun Sato spoke of the connection between Crouwel and 8vo, a design unit established in London in 1984. Crouwel forged his relationship through a post card he sent in to Typography Journal, a publication of 8vo. In 1988, he contributed an article to the journal's fifth issue, a special feature dedicated to the Dutch tendency to use lower-case lettering. Prior to leaving the director position of the Museum Boijmans Van Beuningen, he proposed holding an 8vo exhibition, which subsequently took place. Carolien Glazenburg, provided an overview of the Stedelijk Museum Amsterdam, which was founded in 1895. From the museum's vast collection, she primarily introduced posters from France, Poland, Cuba, the Netherlands, Russia and Switzerland. In the second half, Mrs. Glazenburg spoke of the management policies implemented by the museum under its respective directors. She also touched on the fact that the new annex opened in 2012 was designed by Crouwel's son.



## wim crouwel: fascinated by the grid (Special Talk) Yoshihisa Shirai: "The Creation of the Grid System and its Meaning"

Yoshihisa Shirai presented a Special Talk spanning nearly four hours, punctuated only by a short break. To begin, he explained what a grid is: namely, a unit system governing book format, determined by type size and line spacing. In Japan, the system was introduced in the 1950s, and using a variety of examples Mr. Shirai analyzed its usage. In part 2 of his talk, he gave an overview of the 500-year history of typefaces and layout, starting from the Vatican's Bible as a book format derived from a handwritten copy, through the 42-line Gutenberg Bible, and on into Japan after the Meiji Restoration. In part 3, Mr. Shirai introduced modern typography reworked from visual language and technology, newspaper and advertising fonts as book formats, etc. In part 4, he discussed the creation of the grid system as a quest after order, function, rationality and universal utility. Part 5 was dedicated to recent grid subdivision and multiple stratification, return from disarticulation, visualization and sound generation of language, etc., illustrated by abundant slides.



## wim crouwel: fascinated by the grid (Gallery Talk No.2)

**Speaker :** Helmut Schmid

This Gallery Talk was by Helmut Schmid, a close acquaintance of Wim Crouwel, and his daughter, designer Nicole Schmid, served as interpreter. Mr. Schmid began by introducing various New Alphabet fonts, using the horizontal and vertical beauty of works by Mondrian. He said he was so fascinated by New Alphabet, he used it on New Years cards without permission. In 1966, a colleague at the design office in Osaka where Mr. Schmid was working, Will van Sambeek, introduced him to Crouwel, leading to his first meeting with Crouwel, who was to serve as supervisor of the Dutch pavilion at Osaka Expo '70. He went on to describe how he had subsequently visited Total Design and got to know Crouwel better when he held an exhibition at a print museum in Amsterdam. Mr. Schmid lovingly introduced Crouwel's poster works for the Stedelijk Museum Amsterdam featuring abundant changes effected by grid, his many written contributions, and Crouwel's works, based on the biographical details cited in gggBooks, whose publication Mr. Schmid oversaw.





# CCGA Print Studio Workshops

## CCGA 版画工房 ワークショップ

CCGAでは版画教育の拠点としての機能を強化し、地域でのグラフィックアートの普及振興にいっそう貢献するために、小規模ながらも本格的な版画制作を行うことのできる工房を2012年に開設、市民向け版画ワークショップの定期開催を開始した。版画工房にはエッチング用プレス機等のほか、大日本印刷の前身である秀英舎で100年以上前に実際に使われていたアルビオン・プレス（活版用手動平圧印刷機）を再生して設置している。

2017年は、CCGA版画工房では初となるメゾチント技法の講座と、2015年に引き続き木口木版と亜鉛凸版によるオリジナルカード制作講座を開催した。また2013年に開始した工房の一般開放も継続している。これは、CCGAでのワークショップ受講などによる版画制作の経験がある方を対象に、毎週土曜日（ワークショップ開講日およびCCGA休館日を除く）に工房を開放して、継続的に版画制作を行えるようにしたものである。

CCGAでは、グラフィックアートにより深く接する機会の得られる場として、地域の皆様が版画工房を活用していただくことを願っている。

In 2012 a print studio, small in size but enabling full-fledged printmaking, was opened at CCGA to enhance CCGA's functions as a base for education relating to prints and to promote greater familiarity with graphic art in the local area. That same year a program of regular printmaking workshops for the general public was inaugurated. The studio is outfitted with an etching press and other printmaking equipment, including a refitted Albion press actually used by Shueisha, the precursor of Dai Nippon Printing, over a century ago.

In 2017, for the first time a workshop was held on mezzotint technique and, following a similar event in 2015, a workshop was offered where participants learned to create original cards by wood-engraving and zinc etching. Again this year, the Print Studio was open for use by the general public every Saturday (except when a workshop was held or when CCGA itself was closed). This public service, started in 2013, is intended to enable people who already have experience in printmaking, for example through participation in the CCGA workshops, to continue their pastime.

CCGA hopes that more and more people from the local community will avail themselves of the Print Studio as a place where they can become truly familiar with graphic art.



### 2017年度 第1回 メゾチント講座

日程：2017年5月13日（土）、5月21日（日）、  
5月27日（土）、6月3日（土） 全4日間  
講師：大森弘之（銅版画家）  
受講者数：8名

### 2017年度 第2回 木口木版と活版印刷でカードづくり

日程：2017年11月18日（土）、11月25日（土）、  
12月2日（土）、12月9日（土） 全4日間  
講師：野口和洋（木口木版画家）  
受講者数：10名

### 1st 2017 Workshop: Mezzotint

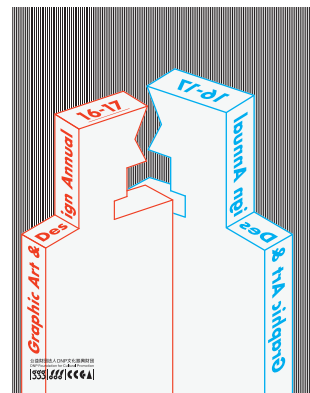
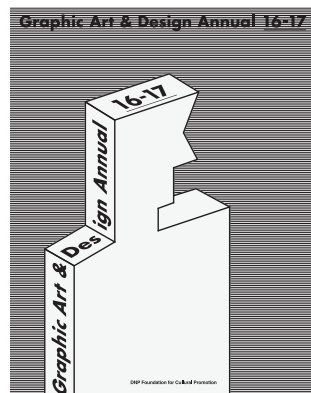
Dates : May 13 (Sat), May 21 (Sun),  
May 27 (Sat), June 3 (Sat), 2017  
Instructor : Hiroyuki Omori (copperplate print artist)  
Number of participants: 8

### 2nd 2017 Workshop: Making Cards by Wood-engraving and Zinc Etching

Dates : November 18 (Sat), November 25 (Sat),  
December 2 (Sat), December 9 (Sat), 2017  
Instructor : Kazuhiro Noguchi (wood-engraving artist)  
Number of participants : 10

## Publications 2017-2018

### 出版活動



■ Graphic Art & Design Annual 16-17 (表1 / 表4)

■ ggg Books 121 ロマン・チェシレヴィチ

■ ggg Books 122 フィリップ・アペロフ

■ ggg Books 123 平野甲賀

■ ggg Books 124 白井敬尚

■ ggg Books 125 ウィム・クロウエル

■ マリメッコ・スピリッツ

■ .communication

■ 加納光於一揺らめく色の穂先に

■ ggg Books 121 Roman Cieřlewicz

■ ggg Books 122 Philippe Apeloig

■ ggg Books 123 Kouga Hirano

■ ggg Books 124 Yoshihisa Shirai

■ ggg Books 125 Wim Crouwel

■ Marimekko Spirit

■ .communication

■ KANO mitsuo: On the Tips of Quivering Hues







アーカイブ事業

Archiving

# DNP Graphic Design Archives

## DNP グラフィックデザイン・アーカイブ

### ◆ポスターアーカイブ(2018年3月現在)

- ① 収蔵作家: 231名(国内作家: 117名、海外作家 114名)
- ② 総点数: 15,181点
- ③ 2017年4月～2018年3月の受入れ状況

#### <日本>

・サイトウ マコト	227点
・榎本 了亮	119点
・井上 嗣也	62点
・仲條 正義	561点
計	969点

#### <海外>

・フィリップ・アペロワ	37点
・ロマン・チェシレヴィチ	19点
・ヘンリク・トマシエフスキ	2点
計	58点

### ◆アーカイブ作品寄贈

- ① ポズナン国立美術館(ポーランド)  
2017年4月  
田中 一光ポスター 28点  
永井 一正ポスター 78点
- ② エシロール・グラフィックアートセンター(フランス)  
2017年4月  
永井 一正ポスター 30点
- ③ ミシガン大学美術館(アメリカ)  
2017年7月  
田中 一光ポスター 52点  
福田 繁雄ポスター 22点  
永井 一正ポスター 22点
- ④ 姫路市立美術館  
2017年9月  
永井 一正ポスター 336点
- ⑤ 多摩美術大学  
2017年9月  
田中 一光ポスター 595点  
福田 繁雄ポスター 599点  
永井 一正ポスター 607点

### ◆アーカイブ作品貸出

- ① グランビスタギャラリー サッポロ  
「浅葉克己個展 アサバ△の家。」  
2017年6月15日～8月1日  
浅葉 克己作品 1点
- ② 株式会社宣伝会議  
宣伝会議コピーライター養成講座60周年記念イベント「コピージウム」  
2017年8月28日～9月3日  
浅葉 克己作品 1点
- ③ 高崎市美術館  
「グラフィックデザイナー 佐藤晃一展」  
2017年9月16日～11月26日  
佐藤 晃一作品 2点
- ④ クリエイションギャラリー G8  
「GRAPH展」  
2017年10月24日～11月22日  
北川 一成作品 2種 x 2枚
- ⑤ École et Espace d'art contemporain Camille Lambert (フランス)  
「Le livre dans L'affiche」  
2018年3月10日～4月14日  
田中 一光作品 1点
- ⑥ 上海当代芸術博物館 [Power Station of Art] (中国)  
「飲&嘔吐 仲条正義设计作品展」  
(仲条正義 IN&OUT, あるいは飲&嘔吐)  
2018年3月17日～5月20日  
仲条 正義作品 61点

### ◆Poster Archives (as of March 2018)

- ① Artists represented: 231  
(117 domestic, 114 from overseas)
- ② Items in collection: 15,181
- ③ Items received between April 2017 and March 2018

#### <Domestic>

・Makoto Saito	227
・Ryoichi Enomoto	119
・Tsuguya Inoue	62
・Masayoshi Nakajo	561
Total	969

#### <Overseas>

・Philippe Apeloig	37
・Roman Cieřlewicz	19
・Henryk Tomaszewski	2
Total	58

### ◆Donations to the Archives

- ① Muzeum Narodowe w Poznaniu  
(The National Museum in Poznan)  
April 2017  
28 Ikko Tanaka posters  
78 Kazumasa Nagai posters
- ② Échirolles. Centre du Graphisme  
(Échirolles. Graphic Design Center)  
April 2017  
30 Kazumasa Nagai posters
- ③ University of Michigan Museum of Art  
July 2017  
52 Ikko Tanaka posters  
22 Shigeo Fukuda posters  
22 Kazumasa Nagai posters
- ④ Himeji City Museum of Art  
September 2017  
336 Kazumasa Nagai Posters
- ⑤ Tama Art University  
September 2017  
595 Ikko Tanaka posters  
599 Shigeo Fukuda posters  
607 Kazumasa Nagai posters

### ◆Loans of Archived Works

- ① Asaba's House: Katsumi Asaba Exhibition  
Exhibition at Granvista Gallery Sapporo  
June 15 - August 1, 2017  
1 Katsumi Asaba poster
- ② Sendenkaigi Copywriter Training Course  
60th Anniversary Event "Copyseum"  
August 28 - September 3, 2017  
1 Katsumi Asaba poster
- ③ Graphic Designer Koichi Sato  
Exhibition at Takasaki Museum of Art  
September 16 - November 26, 2017  
2 Koichi Sato posters
- ④ GRAPH Exhibition  
Exhibition at Creation Gallery G8  
October 24 - November 22, 2017  
2 types x 2 posters of Issay Kitagawa
- ⑤ Le livre dans L'affiche (The book in the poster)  
Exhibition at École et Espace d'art contemporain Camille Lambert  
(School and Contemporary Art Space Camille Lambert)  
March 10 - April 14, 2018  
1 Ikko Tanaka poster
- ⑥ IN&OUT Masayoshi Nakajo  
Exhibition at Power Station of Art  
March 17 - May 20, 2018  
61 Masayoshi Nakajo posters



# Poster Archives 2017-2018

## ポスターアーカイブ 2017-2018

2017年度のポスターアーカイブ総点数は、1,027点（日本969点、海外58点）となった。

サイトウマコト氏からの寄贈点数は227点。当財団主導のもとポスターの仕分け作業を行い、武蔵野美術大学、多摩美術大学、当財団の3者にそれぞれご寄贈いただいた。サイトウ氏のポスターほぼ全点をアーカイブしたことになる。「アルファ・キュービック」、「カインドウエア」、「バツ」など、1980～1990年代を象徴するアートポスターは、いまだその輝きを失わない。サイトウ氏は現在、現代アートの世界で活躍中。

榎本了吾氏からは、2016年にgggで開催された「榎本了吾コーカイ記」展で展示されたポスターを中心に119点をご寄贈いただいた。実験演劇室「天井桟敷」の仕事や、映画、演劇やダンスのポスターが中心。1970～1990年代の日本の文化状況を知る上で貴重なアーカイブとなった。

井上嗣也氏からは2011年以降の近作併せて62点をご寄贈いただき、前回分をあわせると合計239点となった。写真とタイポグラフィで構成されたエッジの効いたポスターデザインは、つねに時代の最先端を歩み続け、ますます研ぎ澄まされてきた。1980年初頭からの一貫したスタイルにブレはない。

仲條正義氏からは、561点のご寄贈をいただき、前回分を合わせると合計757点となる。仲條氏は、この30年間、日本の若いデザイナーに最も影響を与えた作家である。誰も真似することのできない独特の仲條スタイル＝仲條イズムは、日本のグラフィッ

クデザイン界を席巻してきた。その創作活動の軌跡を辿る上でも大変貴重なアーカイブとなった。

さらに、海外からは展覧会に併せ、ポズナン国立美術館より、ロマン・チェシレヴィチ氏作品19点、いまフランスで最も活躍が注目されているフィリップ・アペロワ氏から37点のご寄贈をいただき、海外作家のアーカイブもますます充実してきた。

In the 2017 fiscal year the DNP Poster Archives added a total of 1,027 works to its collection: 969 by Japanese designers and 58 by overseas artists.

Makoto Saito donated a total of 227 works during the year, and under the guidance of the DNP Foundation for Cultural Promotion, the donated posters were sorted and contributed to three receiving bodies: Musashino Art University, Tama Art University, and the DNP Foundation for Cultural Promotion. As a result, nearly all of Mr. Saito's posters have now been archived. His art posters of the 1980s and '90s—works such as “Alpha Cubic,” “Kindware” and “Ba-Tsu”—still retain their brilliance today. Presently, Mr. Saito is active in the realm of contemporary art.

Ryoichi Enomoto donated 119 works, centering on his posters shown at his “Kokaiki” exhibition at ggg in 2016. The donated works consisted primarily of his work created for the Tenjo Sajiki experimental theater troupe and posters for films,

plays and dance performances. Mr. Enomoto's newly archived works are of great value for understanding Japan's cultural milieu of the 1970s through 1990s.

Tsuguya Inoue newly donated 62 works, recent works created since 2011, bringing his total archived collection to 239 works. His hard-edged poster designs incorporating photography and typography consistently remain at the cutting edge of their times, now more polished than ever. Stylistically, Mr. Inoue has kept on a steady path ever since the early 1980s. In 2017 he was the recipient of both a Tokyo ADC Award and Mainichi Design Award.

Masayoshi Nakajo donated 561 works during the year, bringing his total donation to the archives to 757 works. During the past 30 years, no artist has had a greater influence on Japan's young designers than Mr. Nakajo. His unique and inimitable style, bordering on a philosophy, has had a sweeping impact on the entire realm of Japanese graphic design, and in this respect his archived works are of outstanding value for tracing the history of his creative activities.

From overseas, in tandem with exhibitions this year the archives received a donation from the National Museum in Poznan of 19 works by Roman Cieslewicz, and 37 works were donated by Philippe Apeloig, one of France's most avidly watched artists today. As a result, this year the archive of works by overseas artists became enriched as never before.

◆「DNP文化振興財団コレクション・データベース」の外部公開 (<https://dnpcfp.jp/>)  
管理用に利用してきたシステムを2017年10月2日より外部向けにWEB上で公開した。

### ◆ Free Database Access

Starting October 2, 2017, the DNP Foundation for Cultural Promotion Collection Database, originally accessible only in-house, was made available to the public through the website address given below.  
<https://dnpcfp.jp>



Makoto Saito Poster Archives

サイトウマコト ポスターアーカイブ



1985



1987



1988



1991



1994



1998



# Ryoichi Enomoto Poster Archives

榎本了亮ポスターアーカイブ



1969



1969



1971



1986



1986



1987



1988



1991



1998



2003



1996



2004



# Tsuguya Inoue Poster Archives

井上嗣也 ポスターアーカイブ



2011



2012



2012



2012



2013



2013



2014



2014



2015



2016



2016



2016

# Masayoshi Nakajo Poster Archives

仲條正義 ポスターアーカイブ



1988



1988



1993



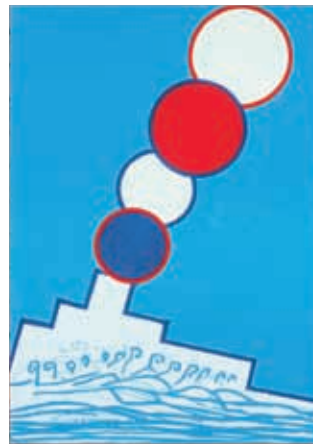
1993



1997



1997



1997



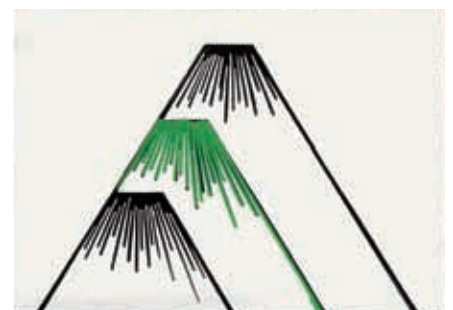
1997



2002



2002



2002

# Roman Cieřlewicz Poster Archives

ロマン・チェシレヴィチ ポスターアーカイブ



1959



1974



1977



1979

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 E3123

# Philippe Apeloig Poster Archives

フィリップ・アペロワ ポスターアーカイブ



2000



2010



2013



2014



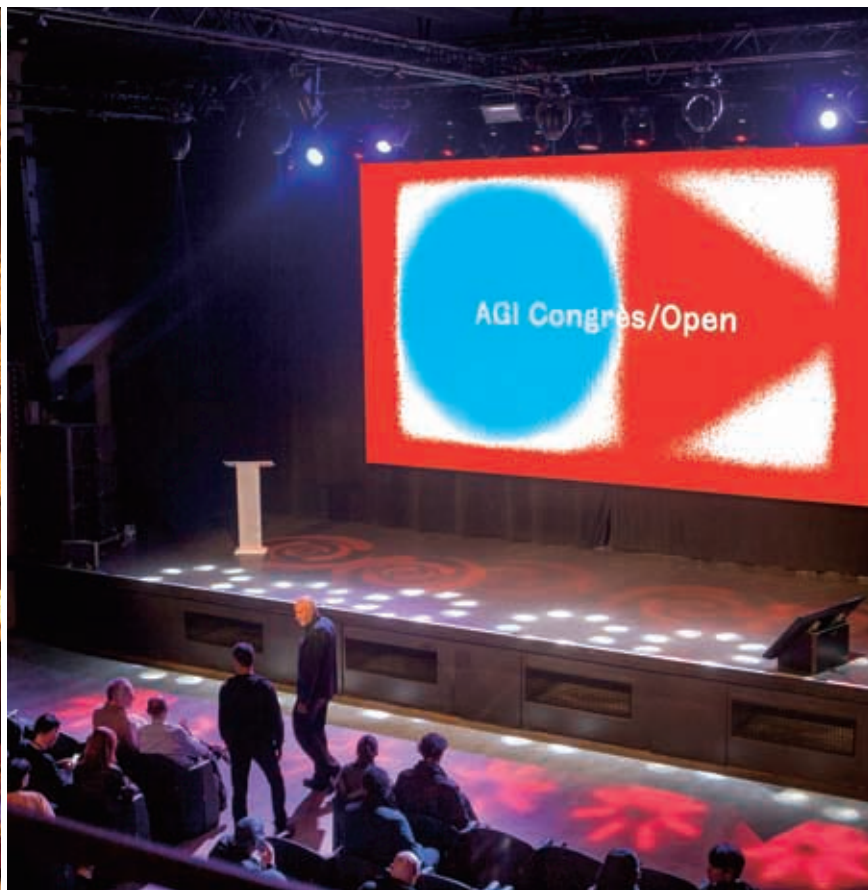
国際交流事業

International Exchange

# AGI Congress Paris 2017

September 17 – 23, 2017

AGI 総会パリ 2017



本年のAGI(国際グラフィック連盟)総会は、連盟発足地でもあるパリで開催、最初の会合(1951年)を含め10回目のパリ集結となった。近年の社会情勢を反映させた総会テーマ『Borders(国境・境界)』の下、例年、一般公開と会員専用とに分けていたイベントを融合させたり、同時通訳システムを導入したり、他分野の専門家や学生との交流機会を増やしたり、さまざまな“境界”を取り払う試みが実践された。また、イベント開催地を毎日変え、地図や専用アプリを用意して、参加者がパリ市内をオリエンタリングしながら総会全体を街ごとと味わえるように工夫。さらに、オプションツアーも豊富で、セガン島ガイドツアー、ペニンゲン上級美術学校見学、フランス会員事務所見学他、ショーモンへの遠征ツアーなども実施された。アトリエ・トゥベック&ビヘイジを中心に総会を運営したフランスチームの、自国への理解を深めて欲しいという意気込みが感じられる総会となった。

## 〈主な開催イベント/開催地〉

- ウェルカム・レセプション/フランス国立建築遺産博物館
- 特別企画展 [Borders – yesterday, today, tomorrow] / フランス国立建築遺産博物館
- 新会員ザッピング/オデオン座 \*色部義昭
- AGIオープン [グラフィックデザインと舞台芸術] / オデオン座
- AGIオープン [グラフィックデザインと知の継承] / 国立高等装飾美術学校 EnsAD \*植原亮輔
- AGIオープン [グラフィックデザインと空間— 建築、都市開発、流動] / メゾン・ド・ラジョーススタジオ104 \*廣村正彰、色部義昭
- AGIオープン [グラフィックデザインと異文化交流— 社会と芸術] / バレ・ド・トーキョー YoYo
- 展覧会 17for17 (国連が提唱するグローバル・ゴールズに触発された企画展) / バレ・ド・トーキョー
- 夕食会 / バレ・ド・トーキョー Le Saut du Loup
- ゼネラルアセンブリー (会員会議) / ボンビドゥ・センター

\* 日本会員登壇







The 2017 Congress of Alliance Graphique Internationale (AGI) took place in Paris, the city where the organization was launched. It was the tenth time the event was held in the French capital, including the very first Congress convened in 1951. The theme of this year's Congress, in reflection of the recent social milieu, was "Borders," and whereas normally events have been separate for the general public and exclusively for AGI members, this year initiatives were taken to remove borders of various kinds: for example, formerly disparate events were integrated, a system of simultaneous interpretation was introduced, and opportunities were increased for exchanges with specialists in other fields and with students. In addition, to enable participants to experience both the Congress and the city where it was taking place, the venue was changed every day, maps and a special app were prepared, and the participants navigated their way all around Paris. Participants were also given an

abundant choice of optional tours, including a guided tour of Île Seguin, a tour of Penninghen (School of Art Direction and Interior Architecture), visits to the offices of French AGI members, and a more distant trip to Chaumont-sur-Loire. In these ways, the 2017 AGI Congress conveyed the eagerness of the French team—who operated the Congress under the leadership of Atelier ter Bekke & Behage—to have participants deepen their understanding of the host country.

#### <Main Event / Venue>

- Welcome Registration /  
Cité de l'architecture et du patrimoine
- Special Project Exhibition  
[Borders – yesterday, today, tomorrow] /  
Cité de l'architecture et du patrimoine
- New Members Zapping /  
Odéon-Théâtre de l'Europe \*Yoshiaki Irobe

- AGI Open [Graphic Design and Performing Arts] /  
Odéon-Théâtre de l'Europe
- AGI Open [Graphic Design and Transfer of  
knowledge] / EnsAD  
(École nationale supérieure des Arts Décoratifs)  
\*Ryosuke Uehara
- AGI Open [Graphic Design and Space-  
architecture, urban planning, flow] /  
Maison de la Radio-Studio 104  
\*Masaaki Hiromura, Yoshiaki Irobe
- AGI Open [Graphic Design and intercultural  
exchange-society and art] / Palais de Tokyo-Yoyo
- Exhibition 17 for 17 / Palais de Tokyo
- Gala Dinner / Palais de Tokyo-Le Saut du Loup
- General Assembly / Centre Pompidou

\* Japan Member Speakers



# Ikko Tanaka Poster Exhibition

Neues Museum Nürnberg: October 26, 2017 – February 18, 2018

## 田中一光ポスター展

2012年に当財団からドイツ・ミュンヘンにあるノイエザムリング美術館に寄贈した約400点の田中一光作品の中から、同じ州立美術館であるノイエス・ミュージアムで、ポスター約30点が展示された。この展覧会は、小規模なものだったが、ノイエザムリングのコーナ・レスナー副館長自らがキュレーションを担当。会期半ばには、展覧会のイベントとしてレスナー副館長のギャラリートークと同志社女子大学准教授の高木穂子氏による講演会が開催された。高木氏は、当財団の2014年度学術研究助成B部門(田中一光に関する研究)採択者でもある。

会場・企画：ノイエス・ミュージアム

講演会共催：公益財団法人DNP文化振興財団

This exhibition at Neues Museum in Nuremberg (Nürnberg), Germany, featured a selection of approximately 30 of the near 400 poster works of Ikko Tanaka that the DNP Foundation for Cultural Promotion had donated to Die Neue Sammlung, another state museum, in Munich in 2012. Though of relatively modest scale, the show was curated by

Die Neue Sammlung's Deputy Director Corinna Rösner. Around midway through the exhibition's 4-month run, a gallery tour was led by Dr. Rösner and a talk was presented by Mariko Takagi, Associate Professor at Doshisha Women's College of Liberal Arts in Kyoto. Dr. Takagi was recipient of a research grant (Category B) from the DNP Foundation for Cultural Promotion in 2014 for studies relating to Ikko Tanaka.

Venue / Planning: Neues Museum Nürnberg

Co-organizer of lecture:

DNP Foundation for Cultural Promotion



# Ikko Tanaka “Face” Exhibition

Die Neue Sammlung (Munich): March 3 – July 15, 2018

## 田中一光「顔」展

2012年に当財団からノイエザムリング美術館に寄贈した約400点の田中一光作品の中から、「顔」がテーマになっているポスター32点を、副館長のコーナ・レスナー氏がキュレーション。美術館の通路の壁面を使った展示構成で、ミュンヘンのデザインウィークに併せて開催された。告知ポスター及び展示タイトルサインは元田中一光デザイン室の太田徹也氏によるもので好評を得た。当初会期は6月17日までの予定だったが、好評につき会期が延長された。

会場・企画：ノイエザムリング

協力：公益財団法人DNP文化振興財団

designed by Tetsuya Ohta, formerly of Ikko Tanaka Design Studio, to great acclaim. Originally the show was scheduled to end on June 17, but was extended in response to its buoyant reception.

Venue / Organizer: Die Neue Sammlung

Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion



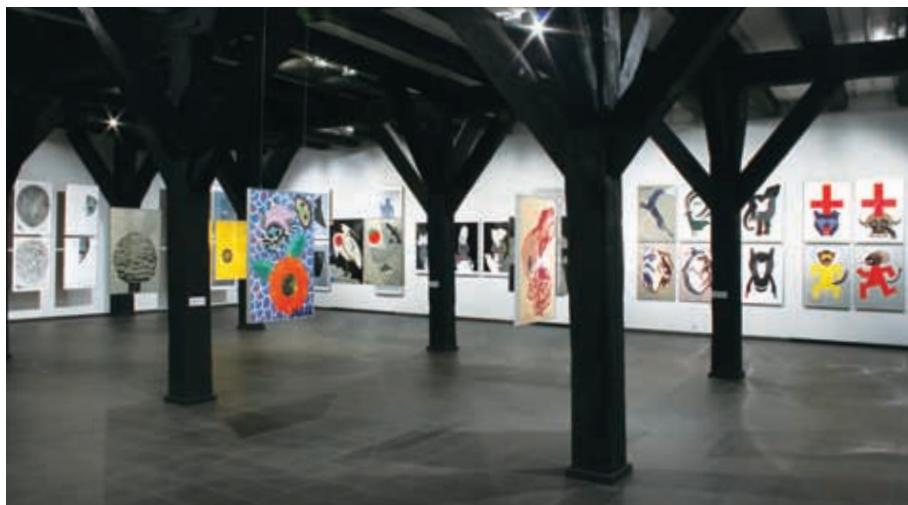
# PERSONA 2017: Kazumasa Nagai

Wozownia Art Gallery, Toruń, Poland: September 29 – November 5, 2017

ポーランド企画展協力「ペルソナ2017：永井一正」

ポズナン国立美術館とヴォソヴニャ・アートギャラリーとの共催による「ペルソナ展」は、視覚世界において影響力のある各国著名デザイナーを紹介する企画展シリーズ。基本2年に1度開催されており、2017年は永井一正氏の作品—ポスター102点／小型グラフィック（竹尾広告作品）20点—が紹介された。本展を機に、DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品から、ポズナン国立美術館へ永井一正ポスター全78点を寄贈。ポスター・デザインギャラリー部門学芸員アンナ・グラボフスカ＝コンヴェントさんキュレーションの下、その寄贈品を含め、美術館コレクションの中から展示品が選出され展示された。

"PERSONA" is a series of exhibitions, co-organized by Poland's National Museum in Poznan and the Wozownia Art Gallery, introducing renowned designers from around the world who have had a clear impact on the visual realm. In principle, exhibitions are held once every two years, and the 2017 show introduced 102 of Kazumasa Nagai's posters and 20 of his small graphics (advertisements for Takeo Co., Ltd.). In conjunction with this exhibition, 78 poster works by Mr. Nagai in the DNP Graphic Design Archives were donated to the National Museum in Poznan. The exhibition, curated by Anna Grabowska-Konwent of the museum's Poster and Design Gallery, displayed pieces selected from the museum's collection, including the newly donated works.



Photograph by Kazimierz Napiórkowski.



# Masayoshi Nakajo IN&OUT, Or 飲&嘔吐

Power Station of Art (PSA): March 16 – May 20, 2018

企画展「仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐」上海巡回

ggg、京都 ddd ギャラリーで開催された「仲條正義展」が、一昨年の「ラース・ミュラー展」に続き、Power Station of Art (PSA) へ巡回された。オープニングでは、仲條正義氏と葛西薫氏の熱気のコもったトークイベントが開催され、300人もの若者達を魅了した。また、オープニングセレモニーにも600人を超える観客が集まり、テレビ局をはじめ地元メディアが殺到した。展覧会の総入場者数は、このPSA始めて以来の60,000人を記録。仲條氏の中国での凄まじい人気ぶりが伺える結果となった。さらに、仲條氏の作品の中から抽出されたユニークなビジュアルが何種類もグッズとして制作され話題を呼んだ。展覧会カタログは会期終了後に刊行された。

会場：Power Station of Art (PSA)

主催：Power Station of Art (PSA)

共催：公益財団法人DNP文化振興財団

協力：株式会社資生堂（上海）、

株式会社資生堂パーラー、株式会社ADP、

株式会社竹尾、国際交流基金

来場者数：60,000人

After ggg and kyoto ddd gallery, the “Masayoshi Nakajo Exhibition: IN & OUT” traveled to Power Station of Art (PSA) in Shanghai, venue of the “Lars Müller BOOKS: Analogue Reality” show held in 2016. At the official opening, an exciting talk event took place featuring Mr. Nakajo and Kaoru Kasai, enthraling the audience of 300 young people gathered for the occasion. The opening ceremony too drew a crowd of over 600, and local TV crews and other media packed the venue. The total number of visitors to the exhibition during its run reached 60,000—a new record for PSA and a clear indication of Mr. Nakajo’s immense popularity in China. A large selection of merchandise was also created from many unique visuals extracted from Mr. Nakajo’s works, arousing great interest. The exhibition catalog was published after the exhibition at PSA had ended.

Venue: Power Station of Art (PSA)

Organizer: PSA

Co-organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion

Cooperation: Shiseido China Co., Ltd.,

Shiseido Parlour Co., Ltd.(Shanghai),

ADP Company, Takeo Co., Ltd.,

The Japan Foundation

Number of visitors: 60,000





研究助成事業

Research Support

# Research Grants for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art

## グラフィック文化に関する学術研究助成

2014年からスタートしたDNP文化振興財団のグラフィック文化に関する学術研究助成は、今年も52件の応募があった。研究者の間でこのプログラムが着実に浸透してきたことを喜ばしく思う。

審査は昨年同様、書類審査である第一次審査の後、審査委員が一堂に会する第二次審査委員会を開催、討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門に16件、グラフィックデザイナー田中一光に関する研究が対象のB部門に1件の、合計17件を本年度の採択研究に選出した。あわせて、昨年採択された研究のうち助成継続希望のあった8件についても、中間報告書にもとづく審査の結果、すべての申請で継続助成が承認された。応募された申請にはこれまでに増して質の高い研究が多く、本プログラムの意義と可能性をあらためて確認できた。審査に際しては、新規性・独創性、社会や学問分野における意義・重要性、そして研究計画の妥当性の観点から個々の申請を慎重に評価し、結果的にユニークでかつ実現可能性の高い研究が選出できたと思う。採択された研究者の皆さまには、研究が充実したものとなり、有意義な成果の発表を聞けることを期待している。

### 2017年度募集要項

A部門	グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする研究
B部門	グラフィックデザイナー、田中一光に関する研究
助成対象	大学、美術館等の研究機関に所属する研究者、またはそれに準じる研究実績のある者
助成金額	1件につき上限50万円
助成期間	2017年11月～2019年3月31日（1回を限度に次年度に継続研究も可）
申請方法	所定様式の申請書を郵送
申請期間	2017年5月1日～7月14日



Launched in 2014, the DNP Foundation for Cultural Promotion research grants program in its fourth year attracted a total of 52 applications. This number demonstrates that research scholars are steadily becoming aware of the program's existence—a development that pleases us greatly. As in previous years, the grant winners for 2017 were decided in a two-part screening process: the first part consisting of evaluation of the application documents, and the second part a final evaluation session attended by the complete judging panel. After lengthy discussions of the merits of the finalists, ultimately the judges selected a total of 17 research topics to receive grant awards. Sixteen topics were chosen in Category A, which encompasses research on graphic design or graphic art in general, and one topic was selected in Category B, which calls for research relating to graphic designer Ikko Tanaka. In addition, eight of the grant winners of 2016 had requested continuation of support for a second year, and after a review of these grantees' interim reports the judges approved ongoing assistance for all seven applicants. The applications received for 2017 were on research topics of even higher quality than before, confirming once again the significance and potential of this program. In evaluating the submitted applications, the judges carefully considered their respective merits from a variety of perspectives including novelty, originality, social or scholastic significance, and appropriateness as a research project. We wish the newly selected grant winners the greatest success in carrying out their research, and we look forward to learning of their significant results.

### Overview of the 2017 Grant Program

Category A	Research relating to any aspect of graphic design and graphic art
Category B	Research pertaining to graphic designer Ikko Tanaka
Eligibility	Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
Grant amount	Maximum 500,000 yen
Grant period	November 2017 – March 31, 2019 (Grants are awarded on an annual basis, with extension for a second year possible, but one time only.)
Application method	Designated application form, to be submitted by regular post
Application period	May 1 – July 14, 2017

### 応募件数

	国内	海外	計
A部門	44	7	51
B部門	1	0	1
計	45	7	52

### Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	44	7	51
Category B	1	0	1
Total	45	7	52

## 2017年度 採択研究

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	植民地的近代のイメージ：植民地期朝鮮の広告とグラフィックデザイン	全庸權 (ジョン, ヨングン)	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート 博士課程	500,000円
A	デザイン保護法制におけるグラフィックデザイン ―意匠法における保護対象としての位置づけを中心に―	末宗 達行	早稲田大学大学院法学研究科／ 早稲田大学知的財産法制研究所 博士後期課程	500,000円
A	小中学校デジタル理科教科書における「技術」のイメージに関する研究	郡司 賢透	静岡大学大学院教育学領域 准教授	250,000円
A	ユーゴスラヴィアのグラフィック文化 ―第二次世界大戦中のバルチナ地下印刷所と「対ファシズム」表象―	山崎 佳夏子	ベオグラード大学哲学部美術史学科 博士課程	300,000円
A	エンブレムブックの中南米のキリスト教美術への影響	伊藤 博明	専修大学文学部 教授	500,000円
A	独立以前のエストニアにおける風刺画と文芸新聞及び雑誌の相関	有持 旭	広島市立大学 専任講師	300,000円
A	グラフィカルユーザーインターフェースの法的保護について	吉田 悦子	大阪大学知的財産センター 特任研究員	500,000円
A	香港デザインストーリー：タイポグラフィの発展に関する研究	ホー, アミック	香港公開大学 准教授	250,000円
A	グラフィック・メデイション研究―「情報」と「情動」を繋ぐ視覚表現メディア文化	中恒 恒太郎	専修大学文学部 教授	300,000円
A	20世紀初頭の英国前衛美術と印刷メディアの発展 ―ヴォーティシズムのドローイングを手掛かりとして	要 真理子	跡見学園女子大学 准教授	300,000円
A	丸紅商店染織美術研究会に関する研究	岡 達也	京都美術工芸大学 助教	500,000円
A	17世紀フランス C.-F. メネストリエによる「像の哲学」―グラフィック文化起源の探求	川野 恵子	日本学術振興会 海外特別研究員	300,000円
A	生成・消滅・再生する切り紙のかたち ―日本と世界の比較文化研究	丹羽 朋子	人間文化研究機構 特任助教	500,000円
A	近代日本におけるインド市場向け商標デザインの生成	福内 千絵	関西学院大学先端社会研究所 専任研究員	500,000円
A	芹澤銈介「絵本どんきほうて」と民藝運動	トルヒヨ・デニス, アナ	コモリヤス・ボンティフィカル大学 講師	300,000円
A	言語・言葉：オイゲン・ゴムリンガーのタイポグラフィと具体詩について	マーガー, サイモン	ローザンヌ州立美術学校 助手	500,000円
B	田中一光の切り絵デザインの造形：田中一光アーカイブ資料から(2)	深谷 聡	奈良県立美術館 主任学芸員	300,000円

## 2017年度 継続研究 (2016年度 採択研究)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	ディスレクシアに特化した和文書体と書体カスタマイズシステムの研究	朱 心茹	東京大学大学院 教育学研究科 大学院生	500,000円
A	建築の表象とグラフィックデザイン 建築展の分析を中心に	保坂 健二郎	東京国立近代美術館 主任学芸員	450,000円
A	視覚文化の日韓比較研究 ―女性妖怪の視覚イメージを素材として―	朴 美暎	京都大学 文学部 非常勤講師	500,000円
A	グラフィックデザイン史における栗津潔の役割： 金沢21世紀美術館所蔵作品・資料をもとに建築、映像・写真との関わりから再考する	高橋 律子	金沢21世紀美術館 学芸員	300,000円
A	絵とともに語ることばの未来 多言語表記民話絵本のブックデザイン	山本 史	京都市立芸術大学 美術学部デザイン科 ビジュアルデザイン専攻 非常勤講師	500,000円
A	板木から見た職人技の解明	安藤 真理子	同志社大学 文化遺産情報学研究センター 嘱託研究員	400,000円
A	クーバー・ヒューイット国立デザイン美術館および クーバー・ユニオン・ハーブ・ルバリン研究センターの日本のグラフィックデザイン・コレクション	野見山 桜	東京国立近代美術館工芸課デザイン室 客員研究員	250,000円
A	パブリックイメージ形成の場としての古代ギリシャ陶器	田中 咲子	新潟大学 教育学部 准教授	500,000円

## 2017 Selected Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Visual Representation of Colonial Modernity: Advertising and Graphic Design in Korea Under Japanese Rule (1910-1945)	Yongkeun CHUN	PhD candidate, Royal College of Art	500,000
A	Legal Protection on Graphic Design: Focusing on Protection under Design Act	Tatsuyuki SUEMUNE	Doctoral Course, Graduate School of Law, Waseda University; Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science	500,000
A	Study on Images of "Technology" in Digital Textbooks for Elementary and Lower Secondary School Science	Yoshiyuki GUNJI	Associate Professor, Shizuoka University	250,000
A	Graphic Culture in Yugoslavia: Partisan Printing Shop in World War II and the Representation of "Anti-Fascism"	Kanako YAMASAKI	Doctoral program, Study Field of Art History, Faculty of Philosophy, University of Belgrade	300,000
A	Influence of the emblem books upon the Christian art in Central and South America	Hiroaki ITO	Professor, School of Letters, Senshu University	500,000
A	The correlation between Caricature, Literary newspaper and Magazine in Estonia of before independence	Akira ARIMOUCHI	Assistant Professor, Faculty of Arts, Hiroshima City University	300,000
A	The Protection of Graphical User Interfaces	Etsuko YOSHIDA	Specially Appointed Fellow, Intellectual Property Center, Osaka University	500,000
A	Hong Kong Design Story: Study on the Development of Typography	Amic G. HO	Assistant Professor, Open University of Hong Kong	250,000
A	Graphic Medicine as Comparative Visual Media Studies Connecting between Information and Emotion	Kotaro NAKAGAKI	Professor, School of Letters, Senshu University	300,000
A	The Development of British Avant-Garde Art and Printed Media in the early 20th Century ―In Reference to Vorticist's Drawings	Mariko KANAME	Associate Professor, Faculty of Letters, Atomi University	300,000
A	A study of Society for Textile Art of Marubeni Shoten	Tatsuya OKA	Assistant Professor, Kyoto Arts and Crafts University	500,000
A	The Philosophy of Images by C.-F. Menestrier in 17th Century France: Searching for the Origins of Graphic Art	Keiko KAWANO	Postdoctoral Fellowship for Research Abroad, Japan Society for the Promotion of Science	300,000
A	Generation, Extinction and Revival of the Paper-cut Forms: Comparative Cultural Study between Japan and the World	Tomoko NIWA	Project Assistant Professor, National Institutes for the Humanities	500,000
A	The Formation of Trademark Designs for Indian Market in Modern Japan	Chie FUKUUCHI	Research Fellow, Institute for Advanced Social Research, Kwansei Gakuin University	500,000
A	Serizawa Keisuke's <i>Ehon Don Kihôte</i> and the Mingei Movement	Ana TRUJILLO DENNIS	Lecturer, Universidad Pontificia Comillas, Madrid	300,000
A	Words Form Language: On Eugen Gomringer, Typography and Concrete Poetry	Simon MAGER	Teaching and research assistant, ECAL University of Art and Design Lausanne	500,000
B	Formative Arts in Paper Cutout of Ikko Tanaka: Analyzed through the DNP Foundation for Cultural Promotion's "Ikko Tanaka Archives"(2)	Satoshi FUKAYA	Chief Curator, Nara Prefectural Museum of Art	300,000

## 2017 Continuation Grants (2016 Selected Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	A Study of Japanese Typefaces and a Typeface Customization System for Dyslexic Readers	Xinru ZHU	Graduate Student, Graduate School of Education, The University of Tokyo	500,000
A	The Representation of Architecture and Graphic Design: Through the Analysis of Architectural Exhibitions	Kenjiro HOSAKA	Curator, The National Museum of Modern Art, Tokyo	450,000
A	Comparative Study of the Visual Culture between Korea and Japan through the visual image of Female Ghosts	Mikyung BAK	Part-time Lecturer, Graduate School of Letters, Kyoto University	500,000
A	AWAZU Kiyoshi in the History of Graphic Design in Japan: Architecture, Movie and Photograph	Ritsuko TAKAHASHI	Curator, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa	300,000
A	Telling the future of the endangered languages with visual images: Multilingual picture book design for folktales	Fumi YAMAMOTO	Designer, Illustrator, Part-time lecturer, Visual Design Department, Kyoto City University of Arts	500,000
A	Elucidation of the expert craftsmanship from woodcuts	Mariko ANDO	Temporary Researcher, Research Center for Knowledge Science in Cultural Heritage, Doshisha University	400,000
A	Japanese Graphic Design Collections at Cooper Hewitt, Smithsonian Design Museum and Copper Union, Herb Lubalin Study Center	Sakura NOMIYAMA	Research Fellow, Cooper Hewitt, Smithsonian Design Museum; Visiting Researcher, The National Museum of Modern Art, Tokyo	250,000
A	Greek Vases as a field of shaping public image	Emiko TANAKA	Associate Professor, Faculty of Education, Niigata University	500,000



# 2017-2018 Financial Support Activities

## 2017-2018年度助成実績

1	対象	第29回すかがわ国際短編映画祭	Target	29th Sukagawa International Short Film Festival
	主催	すかがわ国際短編映画祭実行委員会／ 須賀川市教育委員会	Organizers	Sukagawa International Short Film Festival Executive Committee, Sukagawa Board of Education
	年月	2017/5	Date	May, 2017
	金額	30,000円	Amount	JPY30,000
	備考	短編映画フェスティバルおよびコンペ	Remarks	Short film festival and competition
2	対象	第29回田善顕彰版画展	Target	The 29th Denzen Print Award Exhibition
	主催	須賀川商工会議所青年部／ 須賀川市教育委員会後援	Organizers	Sukagawa Young Entrepreneurs Group, Sukagawa Board of Education
	年月	2018/2	Date	February, 2018
	金額	50,000円	Amount	JPY50,000
	備考	須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善（あおう どうでんぜん）顕彰を目的とする市内小中学生対象の版 画コンクール	Remarks	Print contest for Sukagawa elementary and junior high school students aimed at spreading recognition of copper plate print artist and Sukagawa native Aodo Denzen (1748-1822).



# Reveiw of ggg 2017-2018

## ggg 展覧会概要

### TDC 2017

会期＝2017年4月5日―28日

受賞作家＝○グランプリ＝ジョナサン・バーンブルック ○TDC賞＝M/M[Paris]、トマト、大坪メイ、ネイツ・ブラー、ラルフ・シュライフォークル ○ブックデザイン賞＝アボット・ミラー ○タイポデザイン賞＝ポー・リンネマン（コントラプункト） ○RGB賞＝藤田すずか＋宇野由希子 ○特別賞＝服部一成

展示概要＝先端的なタイポグラフィ作品が一堂に会する国際コンペティション「東京TDC賞」（東京タイプディレクターズクラブ）の成果を紹介するTDC展。2016年秋の公募に寄せられた3,006点（国内1,907、海外1,099）の応募作から厳正な審査によって選ばれた「東京TDC賞2017」。この受賞10作品をはじめ、ノミネート作品、優秀作品を合わせた約150点のタイポグラフィカルな作品を展示した。毎年、先鋭的かつ実験的な見応えのある作品が選定されるが、今年の受賞者には、TDC賞の作品のセレクションに共感する世界のデザイナーの強者が肩を並べ、東京TDC設立30周年を祝うような豪華なラインナップとなった。

### Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

Dates = April 5 – 28, 2017

Award Winners = Grand Prix: Jonathan Barnbrook. TDC Prize: M/M[Paris], tomato, Mei Otsubo, Nejc Prah, Ralph Schraivogel. Book Design Prize: Abbott Miller. Type Design Prize: Bo Linnemann (Kontrapunkt). RGB Prize: Suzuka Fujita + Yukiko Uno. Special Prize: Kazunari Hattori.

Exhibition Overview = The 2017 Tokyo Type Directors Club Exhibition introduced the results of an international competition organized by the Tokyo Type Directors Club (TDC) that brought together an array of today's most advanced works of typography. Award winners were selected from a pool of 3,006 open entries submitted starting in autumn 2016: 1,907 from within Japan and 1,099 from overseas. In all, approximately 150 works of typography were on display: not only the 10 award-winning works, but also works that reached the nomination stage as well as other outstanding entries. Every year the selections include exciting, impressive works of an experimental nature, but this year, as if to celebrate the TDC's 30th anniversary, the lineup was especially brilliant, embracing some of the world's leading designers with aspirations to garner a TDC Award.



Design: Naomi Hirabayashi

### ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気

会期＝2017年5月15日―6月24日

監修＝矢萩喜俊郎

後援＝ポーランド広報文化センター、在日フランス大使館／アンズスティチュ・フランス日本

協力＝ポズナン国立美術館

作家略歴＝1930年ルブフ（現ウクライナ）生まれ。1946年、家族でポーランド南西部の都市オポーレに移住。1955年、クラクフ美術アカデミーを卒業後、ワルシャワへ移り、複数の出版社や、当時の映画ポスター制作を国家から請け負っていた二大機関のひとつ、CWFの仕事も請け負う。1963年、ポーランドを去り、1971年、フランスに帰化。『ELLE』『VOGUE』他多数の出版物、広告代理店のアートディレクターなどを務める。1996年逝去。

展示概要＝写真、コーラージュ、タイポグラフィ、シルクスクリーンなどの技術を駆使し、グラフィックとモンタージュを混合することで、グラフィック表現の新たな言語を生み出し、その後のグラフィックアートに多大な影響を与えたチェシレヴィチ。そのような彼の特徴を示す、ポーランド時代のポスターや、フランスに移って以降のコーラージュ作品や革新性に溢れた雑誌『KAMIKAZE』などを多数紹介した。

### Roman Cieřlewicz: Melting Mirage

Dates = May 15 – June 24, 2017

Supervision = Kijuro Yahagi

Support = Polish Cultural and Information Center in Tokyo, Ambassade de France au Japon / Institut français du Japon

Cooperation = The National Museum in Poznan

Artist Profile = Roman Cieřlewicz was born in 1930 in Lwów, Poland (now Lviv, Ukraine). In 1955, after graduating from the Academy of Fine Arts in Kraków, Cieřlewicz moved to Warsaw, where he worked for multiple publishers and was also engaged by CWF, one of two major state-run institutions responsible for commissioning film poster designs. In 1963, Cieřlewicz left Poland and relocated to Germany, Italy and ultimately France, where he became a naturalized citizen in 1971. During his subsequent career, he served as art director for numerous publications, including the fashion magazines *Elle* and *Vogue*, and for the communication agency MAFIA. He died in 1996.

Exhibition Overview = Cieřlewicz acquired technical mastery of photography, collage, typography and silkscreen, among other fields, and blended graphics and montages, producing a new lexicon of graphic expression that had a powerful impact on subsequent graphic art. This exhibition introduced works manifesting Cieřlewicz's unique traits, including posters from his years in Poland, collages created following his immigration to France, and the remarkably innovative magazine *KAMIKAZE*.



Design: Kijuro Yahagi

### 2017 ADC展

会期＝2017年7月3日―25日

受賞作家＝○ADC会員賞＝仲條正義、植原亮輔＋渡邊良重＋宮田誠＋福澤卓馬＋飯田郁、井上嗣也 <以下G8にて展示> ○グランプリ＝下浜臨太郎＋木村年秀＋坂本政則＋村山健 ○ADC賞＝M/M[Paris]＋ヨーガン・テラー、岡室健、池澤樹＋山本一磨＋野添剛士＋ステファン・フォン・ボルベリー＋内田将二、麻生哲朗、井上庸子＋高野文子、柿崎裕生＋橋田和明、原七郎、田中元＋牧野伊三夫 ○原弘賞＝木村裕治

展示概要＝ADC（東京アートディレクターズクラブ）は、1952年の創立以来日本の広告・デザインを牽引する活動を続けており、会員により選出されるADC賞は、その年の日本の広告・デザイン界の最も名譽あるものの一つとして注目を集める。2017年度ADC賞は、16年5月から17年4月までの1年間に発表された多ジャンルにおよぶ約8,000点の応募作品の中から、75名の会員によって厳正な審査が行われ選出された。本展ではこの審査会で選ばれた受賞作品と優秀作品を、ggg[会員作品]、G8[一般作品]の2会場で紹介。今年もグラフィック、広告の最高峰に輝く作品の数々が勢ぞろいした。

### 2017 Tokyo Art Directors Club Exhibition

Dates = July 3 – 25, 2017

Award Winners = ADC Members Award: Masayoshi Nakajo; Ryosuke Uehara + Yoshie Watanabe + Satoru Miyata + Takuma Fukuzawa + Aya Iida; Tsuguya Inoue. Grand Prix (shown at Creation Gallery G8): Rintaro Shimohama + Toshihide Kimura + Masanori Sakamoto + Ken Murayama. ADC Award: M/M[Paris] + Juergen Teller; Ken Okamoto; Tatsuki Ikezawa + Kazuma Yamamoto + Takeshi Nozoe + Stefan von Borbely + Shoji Uchida; Tetsuro Aso; Yoko Inoue + Fumiko Takano; Yusei Kakizaki + Kazuaki Hashida; Hichiro Hara; Gen Tanaka + Isao Makino. Hara Hiromu Award: Yuji Kimura.

Exhibition Overview = Since its founding in 1952, the Tokyo ADC has continuously undertaken activities to promote advertising and design in Japan. The Tokyo ADC Awards garner attention as one of the highest honors presented in Japan's advertising and design fields each year. The 2017 award winners were chosen by 75 members from roughly 8,000 entries in numerous genres released between May 2016 and April 2017. The award-winning and other outstanding works were shown at two venues: ggg (works by ADC members) and Creation Gallery G8 (works by non-members). Together they offered visitors a rich panorama of the year's most brilliant achievements in these fields.



Design: Yoshiaki Irobe

### 追悼！「長友啓典」特別展

会期＝2017年7月28日―29日

作家略歴＝1939年大阪生まれ。64年桑沢デザイン研究所卒業、日本デザインセンターに入社。69年、黒田征太郎とK2を設立。エディトリアル、広告、企業CI、イベント会場構成などのアートディレクションを手がけるほか、多数の小説で挿絵、雑誌のワッセイ執筆など幅広く活動した。主な受賞に講談社出版文化賞「さしえ賞」（1984年）、日本宣伝賞山名賞（2001年）、講談社出版文化賞「ブックデザイン賞」（2006年）など。2013年、東京ADC Hall of Fame。2017年3月4日逝去。

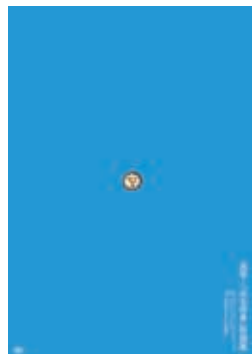
展示概要＝時代を彩ったポスターを始め、挿絵やスケッチや原画、4月に京都dddギャラリーで開催する予定だった「ケイツー展」のための作品など、代表作の数々を展示した。作品だけではなく、長友氏の写真や映像、似顔絵などに見入る来場者も多く、静かに故人を偲ぶ展覧会となった。また展覧会は2日だけの開催だったが、前日には同会場で招待客を対象とした「トモさんを偲ぶ会」が行われ、そちらも大勢の人で賑わった。

### Special Exhibition: Farewell！Keisuke Nagatomo

Dates = July 28 – 29, 2017

Artist Profile = Keisuke Nagatomo was born in Osaka in 1939. After graduating from Kuwasawa Design School in 1964, he joined Nippon Design Center. In 1969, together with Seitaro Kuroda he established the design office K2. In addition to performing art direction for editorial designs, advertising, corporate identity (CI), spatial layouts, etc., Nagatomo was active in such diverse realms as illustrations for fictional works and essay writing for magazines. Among the awards he garnered were the Kodansha Publishing Culture Award for Illustration (1984), Japan Advertising Award Yamana Prize (2001), and the Kodansha Publishing Culture Award for Book Design (2006). Nagatomo was inducted into the Tokyo ADC Hall of Fame in 2013. He passed away on March 4, 2017.

Exhibition Overview = The exhibition featured numerous representative works—posters, illustrations, sketches and original drawings evocative of their times—collated for the “K2 Exhibition” that had been scheduled to take place at ddd in April. Many visitors were transfixed not only by Nagatomo's works but also by the photos, videos and portraits of the designer himself, making for a venue of quiet remembrance of the deceased. The exhibition continued only two days, but it attracted many visitors—as did the gathering for invited guests held the day before the show to exchange fond reminiscences of Keisuke Nagatomo.



Design: Naoto Wakino

Apeloiggg Tokyo  
フィリップ・アペロワ展

会期＝2017年8月7日－9月16日  
後援＝在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、笹川日仏財団  
作家略歴＝1962年パリ生まれ。デュペレ応用美術学校、国立高等装飾美術学校 (ENSAD) 卒。トータル・デザイン (アムステルダム) での二度のインターンシップを経て、1985年オルセー美術館のグラフィックデザイナーに就任。1987年に仏外務省より奨学金を得て、オルセーを辞職しロサンゼルスへ。エイプリル・グレイマンの元で働く。パリへ戻って自身のスタジオを設立。1997年より6年間ルーヴル美術館デザインコンサルタントの後、2008年までアートディレクターを務める。AGI会員。2011年芸術文化勲章受章。  
展示概要＝リズムカルで大胆なタイポグラフィが特徴的なダイナミックなポスターの数々や、厳密に設計されたフォントやロゴ。イッセイミヤケパルファムの香水のパッケージデザイン。エルメスのロラン・バルト生誕100周年記念スカーフや、最新作にして新たな挑戦であるセーブル焼磁器など、意欲的な最新作と近作にフォーカスして展示、アペロワの実力と魅力を存分に体験出来る空間となった。

Apeloiggg Tokyo  
Philippe Apeloig Exhibition

Dates = August 7 – September 16, 2017  
Support = Ambassade de France au Japon / Institut français du Japon, Fondation Franco-Japonaise Sasakawa  
Artist Profile = Philippe Apeloig was born in Paris in 1962. He graduated from École Supérieure des Arts Appliqués Duperré and École Nationale Supérieure des Arts Décoratifs (ENSAD). After two internships at Total Design in Amsterdam, in 1985 Apeloig was hired as a graphic designer at Paris's Musée d'Orsay. In 1987, on receiving a scholarship from the French Foreign Ministry, he left his position at the museum and moved to Los Angeles, where he worked under April Greiman. After returning to Paris, he established his own design studio. From 1997, for six years Apeloig served as a design consultant for the Louvre, and subsequently, until 2008, he worked as the museum's art director. Apeloig is a member of Alliance Graphique Internationale. In 2011 he was named a Chevalier de l'Ordre des Arts et des Lettres by the French Ministry of Culture.  
Exhibition Overview = The exhibition focused on Philippe Apeloig's ambitious works of recent and new vintage: numerous posters characterized by his rhythmic, dynamic typography; fonts and logos of meticulously calculated design; package designs for Issey Miyake Parfums; the Hermès scarf; and Sèvres porcelain, representing a foray into all-new territory. The show afforded visitors an opportunity to gain a deep appreciation of Apeloig's supreme artistry and appeal.



Design: Philippe Apeloig

組版造形 白井敬尚

会期＝2017年9月26日－11月7日  
作家略歴＝グラフィックデザイナー。1961年、愛知県豊橋市生まれ。株式会社グレイス (宮崎利一チーム)、株式会社正方形 (清原悦志主宰) を経て1998年、白井敬尚形成事務所を設立。書籍、雑誌、展覧会など、タイポグラフィを軸としたデザインに従事。2005年より2014年までデザイン誌『アイデア』のアートディレクションとデザインを担当。2012年より武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授。  
展示概要＝展覧会タイトルの「組版造形」とは「紙面に文字組版を配置・構成した空間を含む造形」。ブックデザインやエディトリアルデザインを中心に活動する白井氏の美しい装丁の数々に加え、緻密に設計された墨文字1色の見開きページを多数展示。白い壁面には何もなく、白いテーブルに整然と本が並ぶという静謐な美しい空間となった。また白井氏による実際の仕事とともに紹介、過去の知識や造形がいかに引用・参照され、形を変えて継承されていくのか、表層だけではなく奥深い組版造形の世界を堪能できる内容となった。

Typographic Composition,  
Yoshihisa Shirai

Dates = September 26 – November 7, 2017  
Artist Profile = Yoshihisa Shirai is a graphic designer born in Toyohashi, Aichi Prefecture, in 1961. After working at Grace and then Seihokai, in 1998 he established his own design office. He specializes primarily in typography design, for books, magazines, exhibitions, etc. From 2005 to 2014 he was in charge of art direction for *IDEA* magazine. Since 2012 Shirai has served as Professor in the Department of Visual Communication Design at Musashino Art University.  
Exhibition Overview = The exhibition title, "Typographic Composition," refers to composition that includes the space in which lettering is arranged and configured on a page. In addition to many of his book designs of great beauty, this exhibition also featured his two-page spreads consisting entirely of meticulously designed black lettering. The exhibition space was a marvel of serene beauty, its white walls left undecorated and Shirai's books neatly arranged on white tables. Also on display were the materials Shirai used as references in the course of creating his typography. Besides providing insight into how he borrows or references knowledge and designs of the past and carries them on in modified form, the exhibition enabled visitors to relish typographic composition not at a superficial level but in all its profundity.



Design: Yoshihisa Shirai

マリメッコ・スピリッツ —  
バーヴォ・ハロネン／マイヤ・ロウエカリ／  
アイノ＝マイヤ・メツツオラ

会期＝2017年11月15日－2018年1月13日  
特別協力＝マリメッコ  
監修＝ミンナ・ケメル＝クトゥヴォネン (マリメッコ、デザイン&プロダクト開発ディレクター)  
企画・コーディネート＝S2株式会社  
後援＝フィンランド大使館  
作家略歴＝バーヴォ・ハロネン：1974年生まれ。2011年よりマリメッコの生地デザインを手がける。自然からのインスピレーションを有機的な抽象パターンに転換することを得意とする。マイヤ・ロウエカリ：1982年生まれ。2003年、ヘルシンキ芸術大学在学中にマリメッコと同大学が主催したデザインコンペで優勝。明るくグラフィカルでデザインが特徴的。アイノ＝マイヤ・メツツオラ：1983年生まれ。2006年、デザインコンペをきっかけに、マリメッコとのコラボレーションを始める。水彩やフェルトペンなど多彩な画材によって、大胆さと繊細さを合わせ持つデザインを紡ぎ出す。  
展示概要＝オリジナリティ溢れるデザインと色彩センスにより、世界各国にファンを持つマリメッコの現在を支えるデザイナーの中から3名に焦点をあてた。日本をテーマにした新作を始め、代表的なパターンやスケッチや原画などオリジナル作品、インタビュー映像などで三者三様の個性を紹介する一方で、65年以上も受け継がれてきた彼らの中に共通する「マリメッコの精神」に迫った。

Marimekko Spirit –  
Paavo Halonen / Maija Louekari /  
Aino-Maija Metsola

Dates = November 15, 2017 – January 13, 2018  
Special Cooperation = Marimekko  
Supervision = Minna Kemell= Kutvonen (Marimekko, Design & Product Development Director)  
Planning & Coordination = S2 Corporation  
Support = Embassy of Finland  
Artist Profile = Paavo Halonen was born in 1974. He has been designing prints for Marimekko since 2011. He takes inspiration from nature and brilliantly transforms his impressions to organic abstract patterns. Maija Louekari was born in 1982. In 2003, while still a student at the University of Art and Design Helsinki, she received 1st prize in a design competition jointly organized by the university and Marimekko. Her designs are characterized by their graphical, joyful nuances. Aino-Maija Metsola was born in 1983. She has been collaborating with Marimekko since 2006, when she entered the company's design competition. Using diverse techniques and materials including water color and felt-tip pens, she creates designs that are both bold and subtle.  
Exhibition Overview = This exhibition focused on three designers essential for today's Marimekko, a brand for its designs and vibrant sense of color. The three artists were introduced through their respective new works on Japanese themes, their representative patterns made for Marimekko, sketches, drawings and other original works, and interview videos. The exhibition also sought to identify the "Marimekko Spirit" which they each carry on, a spirit with a history of more than 65 years.



Design: Norito Shinmura / Kosuke Niwano

平野甲賀と晶文社展

会期＝2018年1月22日－3月17日  
協力＝晶文社、アワガミファクトリー、その船にのって  
作家略歴＝1938年生まれ。装丁家、グラフィックデザイナー。武蔵野美術学校デザイン科卒業。高島屋宣伝部を経てフリーとなる。64年から晶文社の装丁を手がける。また演劇集団黒テントの活動に長く携わる。73年「ワンダーランド」創刊。78年「水牛通信」「水牛楽団」参加。84年「講談社出版文化賞」ブックデザイン賞受賞。  
展示概要＝京都 ddd ギャラリーからの巡回展。一階には自身の装丁を始め、舞台やコンサート、のチラシやポスターなど、今までの仕事を手直しして、竹和紙に刷り出した作品を展示。独特の「描き文字」と躍動するデザインで軽やかな雰囲気となった。地階には1964年から1992年まで、30年近くにわたり平野氏が装丁を一手に担ってきた晶文社の本、約600冊を展示台と壁面に設けた棚に並べた。当時のカウンター・カルチャーの旗手として、出版界に旋風を巻き起こした晶文社の書籍の数々。実際に本を手にとって見ることも出来るため、長い時間懐かしそうに本を熱心に見ていく来場者も多かった。

Kouga Hirano and Shobunsha

Dates = January 22 – March 17, 2018  
Cooperation = Shobunsha, Awagami Factory, Sono Fune ni Notte(On the Boat)  
Artist Profile = Kouga Hirano is a book designer and graphic artist born in 1938. He graduated from the Design course of what today is Musashino Art University. After initially working in Takashimaya's advertising department, he went freelance. Starting in 1964, Hirano began doing book design for the publishing company Shobunsha. For many years he was actively involved in artistic work for the Black Tent Theatre troupe. In 1973 Hirano launched the magazine *Wonderland*. In 1978 he began designing for the music band Suigyu Gakudan and its monthly newsletter "Suigyu Tsushin." In 1984 Hirano received the Kodansha Publishing Culture Award for Book Design.  
Exhibition Overview = This exhibition was first held at kyoto ddd gallery. At ggg, the first floor was dedicated to Hirano's book designs, theater and concert flyers and posters, and other works created during his long career, here reworked and printed on bamboo-fiber washi paper, his unique handwritten characters and dynamic designs engendering a refreshing atmosphere. In the gallery's lower level, some 600 books Hirano designed singlehandedly for Shobunsha from 1964 to 1992—books for this publishing house that created a sensation in the publishing world as a standard-bearer of contemporary counterculture—were displayed on display tables and shelves set into the walls. As visitors were free to take the books in hand, many were seen poring over them at length with sentiments of nostalgia.



Design: Kouga Hirano



# Reveiw of ddd 2017-2018

## ddd 展覧会概要

### 仲條正義 IN&OUT,あるいは飲&嘔吐

会期＝2017年5月9日－6月24日  
作家略歴＝1933年東京生まれ。1956年東京藝術大学美術学部図案科を卒業後、資生堂宣伝部、デスカを経て1961年仲條デザイン事務所設立。主な仕事に40年以上にわたった資生堂『花椿』誌のアートディレクション及びデザイン、資生堂バーラーのロゴ及びパッケージデザイン、銀座松屋、スパイラル、東京都現代美術館、細見美術館のCI計画、またNHK Eテレ「にほんごであそぼ」のカルタイラスト、『暮しの手帖』誌の表紙イラストなど、グラフィックデザインを中心に活動。  
展示概要＝ギンザ・グラフィック・ギャラリーからの巡回展。御年84の仲條氏の全く衰えることのない若々しい感性、模倣すら寄せ付けぬ圧倒的な存在感を示す作品を紹介した。『MOTHER & OTHERS』をテーマにしたスイスサイズの新作22点、これまで精力的に開いてきた個展で制作された作品の数々、40年以上にわたりアートディレクターを務めた資生堂の企業文化誌『花椿』をズラリと並べた特大の展示台を、銀座とは違い広いワンフロアで展開、迫力のある空間となった。

### Masayoshi Nakajo IN&OUT

Dates = May 9 – June 24, 2017  
Artist Profile = Masayoshi Nakajo was born in Tokyo in 1933. In 1956, after graduating from Tokyo National University of Fine Arts & Music (now called Tokyo University of the Arts), he joined the advertising department at Shiseido. Later he moved to Deska until 1961, when he established Nakajo Design Office. Nakajo's major work includes: art direction and design for *Hanatsubaki*, Shiseido's cultural magazine, and logo and packaging design for Shiseido Parlour; corporate identity (CI) planning for Matsuya Ginza, Wacoal Spiral, the Museum of Contemporary Art Tokyo, and Hosomi Museum.  
Exhibition Overview = This exhibition, which originally took place at ginza graphic gallery, introduced works vividly demonstrating the inimitable and overwhelming presence of Masayoshi Nakajo, who, at age 84, continues to create with unfalteringly youthful inventiveness. The show featured 22 brand-new outsize posters on the theme of "Mother & Others," numerous works made for his many solo exhibitions held throughout his career, and, set out on extra-large display tables, his plethora of contributions to *Hanatsubaki*, the cultural magazine of Shiseido, where Nakajo served as art director for more than 40 years. In contrast to the ggg venue, at kyoto ddd gallery the exhibition occupied a single expansive floor, making for a space of powerful impact.



Design: Masayoshi Nakajo

### 平野甲賀と晶文社展

会期＝2017年9月4日－10月24日  
協力＝晶文社、アワガミファクトリー、その船にのって  
作家略歴＝1938年生まれ。装丁家、グラフィックデザイナー。武蔵野美術学校デザイン科卒業。高島屋宣伝部を経てフリーとなる。64年から晶文社の装丁を手がける。また演劇集団黒テンの活動に長く携わる。73年『ワンダーランド』創刊。78年『水牛通信』『水牛楽団』参加。84年『講談社出版文化賞』ブックデザイン賞受賞。  
展示概要＝平野氏が半世紀かけて7000冊以上手がけた装丁作品の中から晶文社の装丁本を中心に約600冊を展示。ギャラリー内壁面の本棚と床面の展示台に装丁シリーズ毎に纏めて配置する事により、あたかも古書店であるかのように来場者が装丁本を手にとれる展示とした。また2017年台湾台中市での展覧作品の描き文字と氏のもうひとつの活動である舞台やコンサートの際のポスターを手直しし、作品上にメモを書きつけ和紙に出力した作品80点も壁面に掲示。キャプションには晶文社創業当時のエピソードなども記され、本と出版と時代と装丁家の蜜月関係に思いを馳せられる展示となった。

### Kouga Hirano and Shobunsha

Dates = September 4 – October 24, 2017  
Cooperation = Shobunsha, Awagami Factory, Sono Fune ni Notte(On the Boat)  
Artist Profile = Kouga Hirano is a book designer and graphic artist born in 1938. He graduated from the Design course of what today is Musashino Art University. After initially working in Takashimaya's advertising department, he went freelance. Starting in 1964, Hirano began doing book design for the publishing company Shobunsha. For many years he was actively involved in artistic work for the Black Tent Theatre troupe. In 1973 Hirano launched the magazine *Wonderland*. In 1978 he began designing for the music band Suigyu Gakudan and its monthly newsletter "Suigyu Tsushin." In 1984 Hirano received the Kodansha Publishing Culture Award for Book Design.  
Exhibition Overview = The exhibition displayed some 600 of the more than 7,000 books designed by Kouga Hirano over the course of more than half a century, with a focus on those he designed for the publishing firm Shobunsha. The books were arranged by series on shelves set into the gallery's inner walls and on display tables, affording visitors an opportunity to take the books in hand just as they would in a used book shop. The gallery walls were also used to display 80 reworked versions of decorative handwritten works originally shown at his solo exhibition in Taichung, Taiwan in 2017, and his theater and concert flyers and posters—another area in which Hirano has been very active. To these original works Hirano added written notes and then printed them on washi paper. The items on display were accompanied by captions relating anecdotes from the period when Shobunsha was founded, providing visitors with a nostalgic look back at a period when books, publishers and book designers enjoyed close and mutually productive relationships.



Design: Kouga Hirano

### 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展 .communication

会期＝2017年11月13日－28日  
展示概要＝dddは京都移転以降、教育機関や研究機関との連携を深め、若い世代にグラフィックデザインの魅力を伝え、デザインの歴史を再検証するなどの活動にも挑戦。その新たな展開として取り組んできた大学連携特別展の第三弾。今回は、成安造形大学 芸術学部芸術学科 メディアデザイン領域 グラフィックデザインコースの学生と教員・OB方との取組み。そもそも私たちは膨大な情報に囲まれているが、その全てを手にし、理解することはできない。ある情報を一本の木としたとき、その同じ「木」を知るために手を伸ばす範囲は人により、葉や枝や実と様々。得られる情報の量も質も異なることから、あらゆる「ズレ」の原因となり得てしまう。彼らはこの「ズレ」を埋めようとの歩み寄りや、「ズレ」を認めたりすることを含めて、communicationと捉えることとした。この「.communication」展は、コミュニケーションデザインを学ぶ彼らの視点を「.(ドット)」で接続し、作品を通して、もの、ひと、ことの多様なズレを見出す試みとなった。

### .communication

Dates = November 13 – 28, 2017  
Exhibition Overview = Since relocating from Osaka to Kyoto, ddd has deepened its ties with educational institutions and research organizations in a quest to convey the appeal of graphic design to the younger generation and to reexamine the history of design itself. This was the third special exhibition held in collaboration with a university in conjunction with these new developments. The participants were students, former students and instructors of the Graphic Design Course, Media Design Department, Faculty of Art of Seian University of Art and Design. Today, we are all surrounded by vast volumes of information, so vast that it is impossible for us to take in and understand everything in its entirety. If we were to take a given item of information and compare it to a tree, to understand that tree some people would reach for its leaves, others for its branches, and still others for its fruit. Since the information each would gain would differ in both quantity and quality, gaps of all kinds would likely result. Attempts to bridge those gaps, or admitting that gaps exist, are acts of communication. This exhibition, titled ".communication," was an attempt, by connecting the "dots" of communication representing the various perspectives of the students of communication design, to uncover, through artworks, the various gaps that exist between things, people and situations.



Design: Natsuki Inagaki / Rinko Kishimoto / Hiroshi Toyama

## ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

会期＝2017年12月14日―2018年3月17日

協力＝アムステルダム市立美術館、  
カロリン・フラーゼンブルグ、  
ヒレイン・エッシャー・ポスター・コレクション

後援＝オランダ王国大使館

作家略歴＝1928年フローニンゲン生まれ。アカデミア・ミネルヴァ、アムステルダム芸術アカデミーで学ぶ。52年よりデザイン事務所で、展示や見本市デザインに携わる。56年インテリアデザイナーとアムステルダムにデザイン事務所を設立。63年にはトータルデザインの共同設立者となる。70年の大阪万博ではオランダ館を監修。85年ロッテルダムのボイスマン・ファン・ペーニンゲン美術館館長。94年よりアムステルダムを拠点にフリーランスのデザイナー。

展示概要＝壁面には氏が50年以上に渡って手がけた展覧会その他のポスターを掲示。当然、DTP以前と以降の作品が含まれ、その区分を掲出間隔で示した。またアムステルダム市立美術館の仕事を通じて初めてグリッド・システムを用いたポスターを拡大したシートと共に象徴的に掲出。展示台には大変貴重なニューアルファベットのスケッチ類をはじめ、切手、カレンダーなどの作品を展示。柱には彼が担当した各種展示会の風景写真やVI作品群も掲げ、彼の幅広い分野における業績の全容を初めて日本で伝える展覧会となった。

## TDC 2017

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2017

会期＝2017年7月4日―8月22日

Dates = July 4 – August 22, 2017



Design: Naomi Hirabayashi

## wim crouwel: fascinated by the grid

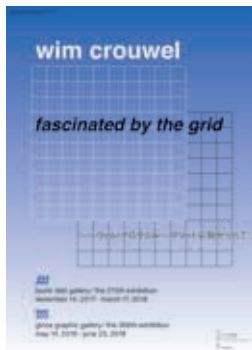
Dates = December 14, 2017 – March 17, 2018

Cooperation = Stedelijk Museum Amsterdam, Carolien Glazenburg, The Gieljin Escher Poster Collection

Support = Embassy of the Kingdom of the Netherlands

Artist Profile = Wim Crouwel was born in Groningen, the Netherlands, in 1928. After studying at the local Minerva Art Academy and IvKNO (today's Gerrit Rietveld Academie) in Amsterdam, in 1952 he joined a design office, where he was involved in designing exhibitions, trade fair stands, etc. In 1956, Crouwel established a design studio in collaboration with an interior designer. In 1963, he became cofounder and partner of the design agency Total Design. In 1985, he became director of Museum Boijmans Van Beuningen in Rotterdam. Since 1994 he works as a freelance designer based in Amsterdam.

Exhibition Overview = The gallery walls displayed posters created by Crouwel during his career spanning more than 50 years. A clear division was made between his works created before and after the advent of desktop publishing. Crouwel's first posters employing a grid system, made in conjunction with his work for Stedelijk Museum Amsterdam, were displayed symbolically together with enlarged sheets. The display tables featured very rare sketches of his "New Alphabet" font, as well as postage stamps, calendars and other items of his design. The gallery pillars were used to show photos of exhibitions he directed and his visual identity works. In this way, the exhibition functioned as the first introduction in Japan to the complete body of contributions Wim Crouwel has made to numerous fields throughout his prolific career.



Design: Wim Crouwel / Remco Crouwel / Helmut Schmid

# Reveiw of CCGA 2017-2018

## CCGA 展覧会概要

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ  
松永真ポスター展  
DNP Graphic Design Archives Collection VII :  
Shin Matsunaga Posters

会期 = 2017年3月1日—6月11日  
Dates = March 1 – June 11, 2017



Design: Shin Matsunaga

特別展 第29回田善顕彰版画展  
The 29th Denzen Print Award Exhibition

会期 = 2018年2月4日—12日  
Dates = February 4 – 12, 2018



加納光於一揺らめく色の穂先に  
KANO mitsuo:  
On the Tips of Quivering Hues

会期 = 2017年6月17日—9月10日  
Dates = June 17 – September 10, 2017



ジョセフ&アニ・アルバース、二つの抽象：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.30  
The Two Abstractions of Josef and Anni Albers: 30th  
Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

会期 = 2017年9月16日—12月23日  
Dates = September 16 – December 23, 2017





## 1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション  
4月 2回 福田繁雄展 Illustic412  
5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜  
6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ  
7月 5回 1986 ADC展  
8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.  
9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2  
10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ  
11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展  
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア  
12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

## 1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と  
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ  
2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展  
3月 13回 藤幡正樹展 geometric love  
4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展  
5月 15回 安西水丸 二色  
6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの  
クリエイティブワークス展  
7月 17回 1987 ADC展  
8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace  
9月 19回 五十嵐威輔の立体数字展  
10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically  
11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実  
12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

## 1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展  
リングになった箱と動詞になった箱  
2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶  
3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念  
4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展  
5月 27回 AGI 88 Tokyo展  
世界のグラフィックデザイン  
6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG  
7月 29回 1988 ADC展  
8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece  
9月 31回 情報ポスター・リクルート展  
10月 32回 早川良雄「女」原画展  
11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH  
12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展  
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

## 1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン  
2月 36回 矢萩喜從郎展  
3月 37回 Texture 皆川魔鬼子＋田原桂一＋山岡茂  
4月 38回 タナカリノユキ展 Gokan-都市の表層  
5月 39回 オトル・アイヒャー展  
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム  
6月 40回 操上和美展 Photographis  
7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection  
8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱  
9月 43回 永井一正展  
10月 44回 Europalia '89 Japan  
新作ポスター 12人展  
11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会  
12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

## 1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱  
2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」  
3月 49回 原田維夫木版画展 馬  
4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展  
6月 52回 松井桂三3D展  
7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使  
8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990  
9月 55回 田原桂一展 光の香り  
10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字  
11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ  
12月 58回 蓬田やすひろ展 ビープル

## 1991

- 1月 59回 舟橋全二展  
2月 60回 太田徹也のダイアグラム  
3月 61回 ペア・アーノルディ展  
Posters, Prints and Painting  
4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting × Printing]  
5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く  
6月 64回 Communication & Print  
新作ポスター 10人展  
7月 65回 オブジェ・ブック展  
中垣信夫＋中垣デザイン事務所  
8月 66回 アートワークス展Ⅵ  
“Bacteriat” Messages from Dream Island  
10-11月 67回 Trans-Art 91  
12月 68回 1991 ADC展

## 1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ  
2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN  
3月 71回 第4回東京TDC展  
4月 72回 ヘンリック・トマシェフスキ展  
5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻  
6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX  
7月 75回 中村誠 個展  
8月 76回 リック・バリセンティ展  
9月 77回 葛西薫展 ‘AERO’  
10月 78回 薙本唯人、宇野亜喜良、和田誠、  
山口はるみ展  
11月 79回 ボール・ランド展  
12月 80回 フロシキ展

## 1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica  
2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン  
3月 83回 1992 ADC展  
4月 84回 第5回東京TDC展  
5月 85回 U.G.サトーのポスター展 “Freedom”  
6月 86回 オーマージュ 向秀男展  
7月 87回 文字からのイマジネーション  
8月 88回 現代香港のデザイン8人展  
9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に  
10月 90回 1993 Illustration 4  
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦  
11月 91回 ソール・バス展  
12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

## 1994

- 1月 93回 栗津潔展 H<sup>2</sup>O Earthman  
2月 94回 第6回東京TDC展  
3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape  
4月 96回 片山利弘展  
5月 97回 永井一正展  
6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年  
7月 99回 1994 ADC展  
8-9月 100回 グラフィック・グッス展  
デザインからの贈りもの  
10月 101回 平野甲賀展 文字の力  
10月 特別展 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展  
12月 103回 原研哉展  
12月 特別展「私の好きなもの」  
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

## 1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展  
2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95  
3月 106回 第7回東京TDC展  
4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展  
5月 108回 田中一光展 人間と文字  
6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展  
7月 110回 1995 ADC展  
8月 111回 リズム&ヒューズの  
コンピュータグラフィックス展  
9月 112回 八木保展 自然観  
9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・  
ギャラリー 10周年／ggg Books 20冊記念  
10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1  
11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展  
12月 115回 日本のイラストレーション50年展

## 1996

- 1月 116回 蓬田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら  
2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2  
3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバロウ  
4月 119回 第8回東京TDC展  
5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展  
6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展  
Departure  
7月 122回 1996 ADC展  
8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展  
9月 124回 K2・黒田征太郎／長友啓典  
二脚の椅子展  
10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン  
1920s・30s  
11月 126回 Graphic Wave 1996  
青木克憲／佐藤卓／山形季央  
12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

## 1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん  
1月 特別展 CCGA特別展：  
ジョセフ・アルバース展  
2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち  
3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展  
4月 131回 仲條正義〇〇〇展  
5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展  
6月 133回 横尾忠則ポスター展  
吉祥招福繁昌描き下ろし!!  
7月 134回 1997 ADC展  
8月 135回 河原敏文とボリゴン・ビクチュアス展  
ロッキーマ・ホラ商會  
9月 136回 メキシコ10人展  
10月 137回 Graphic Wave 1997  
秋田寛／井上里枝／福島治  
10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展  
11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉  
12月 139回 GLOBAL展 世界33人の  
デザイナーによるデュオポスター

## 1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD  
2月 141回 オーデルマット＋ティッシ  
グラフィックデザイン展  
3月 142回 スタシス・エイドリッゲヴィチウス展  
4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展  
6月 145回 山本容子展 オペラレッスン  
7月 146回 1998 ADC展  
8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅  
9月 148回 Graphic Wave 1998  
蛭名龍郎／平野敬子／三木健  
10月 149回 グンター・ランボー展  
11月 150回 フィリップ・アペロウ展  
フランス文化におけるポスター  
12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

## 1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展  
2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95  
3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?  
3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間  
4月 155回 1999 TDC展  
5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展  
6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい  
7月 158回 1999 ADC展  
7月 特別展 前田ジョン One-line.com  
8月 159回 矢萩喜從郎展  
9月 160回 Graphic Wave 1999  
鈴木守／松下計／米村浩  
10月 161回 FUSE展  
11月 162回 松井桂三展  
12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展  
12月 特別展 アーヴィング・ベン  
三宅一生の仕事への視点

## 2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology  
1月 特別展 篠山紀信&マニエール・ルグリ展  
フォトセッションinパリ・オハラ座1998-1999夏  
2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人  
3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の  
表紙デザイン半世紀  
4月 167回 2000 TDC展  
5月 168回 Poster Works Nagoya 12  
岡本滋夫＋11人のデザイナーたち  
6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展  
7月 170回 2000 ADC展  
8月 171回 日宣美の時代  
日本のグラフィックデザイン1951-70展  
9月 172回 Graphic Wave 2000  
秋山具義／Tycoon Graphics／中島英樹  
10月 173回 D-ZONE／戸田ツトム展  
11月 174回 ビエール・ベルナール展  
現実的であれ、不可能を試みろ!  
12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容-アジアの時空

## 2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田安彦展  
2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics  
3月 178回 “Spring has come”  
松永真、ディテールの競演。  
4月 179回 2001 TDC展  
5月 180回 コントラプункト展  
デンマーク国家のデザインプログラム  
6月 181回 原弘のタイポグラフィ  
7月 182回 2001 ADC展  
8月 183回 薙本唯人 にんげんもよう  
9月 184回 Graphic Wave 2001  
澁谷克彦／永井一史／ひびのこづえ  
10月 185回 ハングルポスター展  
11月 186回 サイトウマコト展  
12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から  
セント・ジュースト大学院の手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002  
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展  
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展  
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003  
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展  
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年  
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展  
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004  
工藤青石／GRAPH／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展  
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展  
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005  
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー &  
マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997  
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展  
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史  
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展  
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design  
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展  
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from  
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from  
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット  
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D⇄3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006  
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也CM展  
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool  
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた  
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy  
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー  
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ  
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／  
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:  
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演  
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface  
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳郎展  
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショー]細谷巖アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー  
～言い出しっぺ横尾忠則～  
瀬本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展  
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ  
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ  
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上綱也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ララル・シュライフォークル展
- 9月290回 ブッシュビーン・パラダイム  
シーモア・クワスト|ポール・デイヴィス|  
ミルトン・グレイザー|ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二十年十一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展  
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／  
ザ・デザイナーズ・リパブリックが  
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：  
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の  
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：  
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ  
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ  
没後10周年記念企画  
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ  
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012  
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座  
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング  
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ  
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アンシエイツ  
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎りこ展  
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシェフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治  
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：  
ひびのこづえ＋「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965  
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展  
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ポール・デイヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン  
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show  
スタンリー・ウォン【黄炳培】×  
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ  
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕  
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展  
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕  
千代田区立日比谷図書文化館主催／  
DNP文化振興財団共催  
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ



## 1992-2018

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋  
ggg 展覧会ポスター 1986-2016

6月353回 TDC 2016

7-9月354回 2016 ADC展

9-10月355回 ノザイナー かたちと理由

11-12月356回 榎本了幸コーカイ記

### 2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐  
4月358回 TDC 2017

5-6月359回 ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気  
7月360回 2017 ADC展

7月 特別展 追悼!『長友啓典』特別展

8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展

9-11月362回 組版造形 白井敬尚

11-1月363回 マリメッコ・スピリッツー パーヴォ・ハロネン/  
マイヤ・ロウエカリ/アイノミヤ・メツツォラ

### 2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展

### 1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展  
3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ

4-5月 3回 第4回東京TDC展

5-6月 4回 リック・バリセンティ展

6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻

7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展

8-9月 7回 ヴァン・オリバー展

10月 8回 中村誠 個展

10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展

11-12月 10回 灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠、  
山口はるみ展

### 1993

1-2月 11回 フロシキ展

2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展

3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展  
解き放たれた声

4-5月 14回 1992 ADC展

5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展

6-7月 16回 第5回東京TDC展

7-8月 17回 文字からのイマジネーション

8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II

9-10月 19回 ビル・ソーバーン展

10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom

11-12月 21回 勝井三雄展 光の国:夜と昼の狭間に

12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

### 1994

1-2月 23回 ソール・パス展

2-3月 24回 グリーディング・ポップアップ13人展

3-4月 25回 リュディ・パウア/  
インテグラルコンセプト展

4-5月 26回 Illustration4 安西水丸・河村要助・  
矢吹申彦・湯村輝彦

5-6月 27回 ジェニファ・モラー展

6-7月 28回 永井正展

7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展

8-9月 30回 1994 ADC展

9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III

10-11月 32回 アメリカのAD2人展  
デビッド・カーソン+ゲラリー・ケプキ  
エディトリアルデザインの新潮流

12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

### 1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展

2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展

3-4月 36回 グラッパ・デザイン展

4-5月 37回 第7回東京TDC展

5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美

6-7月 39回 田中一光展 人間と文字

7-8月 40回 テレロング展

8-9月 41回 1995 ADC展

9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV

10-11月 43回 ベレ・トレント展

11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

### 1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展

2-3月 46回 マーゴ・チェイス展

3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展

4-5月 48回 グンター・ランボー展

5-6月 49回 第8回東京TDC展

6-7月 50回 カリ・ビッポ展

7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展

8-9月 52回 1996 ADC展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展

10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展

11-12月 55回 ウッディ・バートル展

### 1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展

2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典

3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展

4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展

5-6月 60回 メキシコ10人展

7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展

8-9月 62回 1997 ADC展

9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーク展

10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止

11-12月 65回 GLOBAL展 世界33人の  
デザイナーによるデュオポスター

### 1998

1-2月 66回 ファイトヘルベ/デ・ヴリンゲル展  
未来を振り返る

2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動

3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展

4-5月 69回 フィリップ・アペロワ展  
フランス文化におけるポスター

6月 70回 1998 TDC展

7月 71回 スタジオ・ダウンバー展

8-9月 72回 1998 ADC展

9-10月 73回 ザフリキ展

10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター  
デビッド・タルタコーバ展

11-12月 75回 台湾4人展

### 1999

1-2月 76回 海外作家によるFuroshiki Graphics展

2-3月 77回 ビエール・ニューマン展

3-4月 78回 ボーラ・シェア展

5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展  
オルガー・マチス+クリスティアーネ・フライニンガー

6-7月 80回 1999 TDC展

7-8月 81回 ヤン・ライリッヒJr.展 時代のミルハウス

8-9月 82回 1999 ADC展

9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN]展

10-11月 84回 尊厳

チャズ・マヴィヤネー・デイヴィースの世界展

11-12月 85回 マカオ2人展

ウン・ヴァイメン/ビクトル・ヒューゴ・マレイロス

### 2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology

2-3月 87回 松井桂三展

3-4月 88回 ボール・デイヴィスのポスター展

4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展

5-6月 90回 2000 TDC展

6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル

7-9月 92回 ビエール・ベルナル展

現実的であれ、不可能を試みよう!

9-10月 93回 2000 ADC展

10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics

11-12月 95回 デザイン教育の現場から  
ベルリン芸術大学  
オルガー・マチス教室によるアプローチ

### 2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展

2-3月 97回 コントラプункト展

デンマーク国家のデザインプログラム

3-4月 98回 ギルツブルク音楽祭ポスター展



5-6月 99回 2001 TDC展  
6-7月 100回 チップ・キッド展  
7-8月 101回 ハングルポスター展  
8-9月 102回 2001 ADC展  
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展  
タイボグラフィへのわが道  
10-11月 104回 “Spring has come”  
松永真、ディテールの競演。  
11-12月 105回 デザイン教育の現場からⅡ  
セント・ジュースト大学院の新技术

## 2002

1-2月 106回 灘本唯人 にんげんもよう  
2-3月 107回 サイトウマコト展  
3-4月 108回 オットオシュタイン展  
4-5月 109回 タビロ展 ヴェニス・ビエンナーレのポスター  
5-6月 110回 2002 TDC展  
7月 111回 ウィーンのパスター展  
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002  
7-9月 112回 三木健展  
9-10月 113回 2002 ADC展  
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展  
旅と儀式  
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

## 2003

1-2月 116回 SUN-AD 人  
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展  
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ  
4-6月 119回 墨と椅子について  
カン・タイキョン+フリーマン・ラウ  
アート&デザイン展  
6-7月 120回 2003 TDC展  
7-8月 121回 ルーバル・ルコーバ展  
8-9月 122回 2003 ADC展  
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展  
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター  
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの  
所蔵作品より  
11-12月 125回 空山基展

## 2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展  
2-3月 127回 永井一正ポスター展  
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年  
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション  
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展  
5-6月 130回 2004 TDC展  
6-7月 131回 ビエール・メンデル展  
8-9月 132回 2004 ADC展  
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展  
Friendly Fire  
10-11月 134回 チェコのポスター展  
ブラハ美術工芸博物館  
コレクション1960-2003  
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展  
古代の文化と現代のデザイン

## 2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平の雑誌デザイン半世紀展  
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年  
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond  
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展  
5-6月 140回 2005 TDC展  
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシェ &  
マドモアゼル・ローズ展  
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展  
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展  
パーフェクトフォルム  
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

## 2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展  
2-3月 147回 グラフィック・ソート。ファシリティ展  
GTF / 50プロジェクト  
3-4月 148回 野田弘展  
Hanpanda コンテンポラリーアート  
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展  
5-6月 150回 2006 TDC展  
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展  
8月 152回 2006 ADC展

## 2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from  
ggg & ddd 1986-2006  
7-8月 154回 2007 TDC展  
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット  
デザイン イズ アティテュード  
10-11月 156回 2007 ADC展  
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

## 2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool  
雑誌デザイン 10人の越境者たち  
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オーサカ  
4-6月 160回 中島信也CM展  
中島信也と29人のアートディレクター  
6-7月 161回 2008 TDC展  
8月 162回 Now Updating... THA /  
中村勇吾のインタラクティブデザイン  
9-10月 163回 2008 ADC展  
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー  
11-12月 165回 Graphic West 真 和 / or 善  
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

## 2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface  
ヘルベチカ展  
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演  
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展  
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors  
6-7月 169回 2009 TDC展  
8-10月 170回 2009 ADC展  
10-12月 171回 矢萩喜從郎展  
[Magnetic Vision / 新作100点]

## 2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展  
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証  
3-5月 173回 北川一成  
5-7月 174回 TDC展 2010  
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ  
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング  
9-10月 176回 2010 ADC展  
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ  
田中一光ポスター 1953-1979

## 2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph  
一音・文字・グラフィック  
3-5月 179回 秀英体100  
5-7月 180回 TDC展 2011  
7-9月 181回 服部一成二十一年夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展  
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

## 2012

1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展  
3-5月 185回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ  
没後10周年記念企画  
田中一光ポスター 1980-2002  
5-7月 186回 TDC展 2012  
7-9月 187回 立花文穂展  
9-10月 188回 2012 ADC展  
11-12月 189回 The Posters 1983-2012  
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

## 2013

1-3月 190回 Graphic West 5  
type trip to Osaka typographics ti: 270  
3-4月 191回 [デー デー ジー] グルーヴィジョンズ展  
5-6月 192回 TDC展 2013  
7-8月 193回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ  
LIFE 永井一正ポスター展  
9-10月 194回 2013 ADC展  
11-12月 195回 大宮エリー展

## 2014

1-3月 196回 Graphic West 6  
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション  
熱情と冷静のアヴァンギャルド  
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也  
5-6月 198回 TDC展 2014  
6-7月 199回 明日のデザインと福島治  
[Social Design & Poster]  
10-12月 200回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ  
THE NIPPON POSTERS

## 2015

1-3月 201回 永井裕明展  
Graphic Jam Zukō in Kyoto  
4-5月 202回 ラース・ミュラー 本 アナログリアディエー  
6-7月 203回 TDC展 2015  
8-10月 204回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品Ⅶ  
20世紀琳派 田中一光  
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムート シュミット

## 2016

1-3月 206回 浅葉克己個展 「アサバの血肉化」  
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ  
10人のグラフィックデザイナーによる競演  
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角  
TDC 2016  
7-8月 209回 物質性-非物質性 デザイン&イノベーション  
9-10月 210回 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学  
11-12月 特別展 アートマネージャー養成講座連携企画展  
なにで行く どこへ行く 旅っていいね  
京都造形芸術大学プロジェクトセンター×  
12月 特別展 京都dddギャラリー連携企画展  
experimental studies | post past

## 2017

1-3月 211回 グラフィックとミュージック  
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐  
7-8月 213回 TDC 2017  
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展  
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展  
.communication  
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

## 1995-2018

### 1995

- 4-7月 1回 グラフィック・ビジョン：  
ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
- 8-10月 2回 ロイ・リキテンスタイン：  
エンタプラチュア→ヌード
- 11-1月 3回 一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

### 1996

- 3-4月 4回 アメリカ版画の現在地点：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.1
- 4-7月 5回 デヴィッド・ホックニー展
- 7-10月 6回 自律する色彩：ジョセフ・アルバース展
- 10-1月 7回 スタイルを越えて：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.2

### 1997

- 3-6月 8回 ジェームズ・ローゼンクvist展
- 6-9月 9回 版画における抽象：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.3
- 10-11月 10回 大竹伸朗：Printing / Painting展
- 12-1月 11回 線／色彩／イメージ：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.4

### 1998

- 3-5月 12回 フランク・ステラ／ケネス・タイラー：  
構築する版画  
アーティストとプリンター、30年の軌跡
- 5-9月 13回 主張する黒：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.5
- 9-12月 14回 形象としての紙：アラン・シールズ展

### 1999

- 3-5月 15回 福田美蘭展 New Works: Prints
- 6-9月 16回 かたる かたち：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.6
- 9-12月 17回 版画の話展

### 2000

- 3-6月 18回 New Works 1998-1999：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.7
- 6-9月 19回 太田三郎：存在と日常
- 9-12月 20回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ設立展：  
ポスターグラフィックス 1950-2000

### 2001

- 3-5月 21回 版画集への招待：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.8
- 5-7月 22回 折元立身：1972-2000
- 8-10月 23回 藤本由紀夫：四次元の読書
- 10-12月 24回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2：  
グラフィックデザインの時代

### 2002

- 3-6月 25回 空間に躍りてた版画たち：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.9
- 6-9月 26回 矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差しの記憶
- 9-12月 27回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3：  
個性の時代

### 2003

- 3-4月 28回 絵画—永遠の現在を求めて：  
リチャード・ゴーマン展
- 4-6月 29回 色彩としての紙：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.10
- 6-9月 30回 ヘレン・フランケンサラー木版画展
- 9-12月 31回 タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション 新収蔵作品展：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.11

### 2004

- 3-6月 32回 イラストレーションの黄金時代
- 6-9月 33回 パスワード：日本とデンマークの  
アーティストによる対話
- 9-12月 34回 版で発信する作家たち2004福島

### 2005

- 3-6月 35回 アメリカ現代木版画の世界：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.12
- 6-9月 36回 Breathing Light：吉田重信
- 10-12月 37回 decade — CCGAと6人の作家たち

### 2006

- 3-6月 38回 版に描く：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.13
- 6-9月 39回 藤幡正樹：不完全さの克服  
イメージとメディアによって創り出される、  
新たな現実感。
- 9-12月 40回 野田哲也：日記

### 2007

- 3-6月 41回 凹版表現の魅力：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.14
- 6-9月 42回 再生する版画：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.15
- 9-12月 43回 ユニーク・インプレッション：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.16

### 2008

- 3-6月 44回 厚い色：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.17
- 6-9月 45回 大きな版画、小さな版画：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.18
- 9-11月 46回 黒のモノローグ：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.19

### 2009

- 2-6月 47回 作品と題名：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.20
- 6-9月 48回 きらめくデザイナーたちの競演  
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
- 9-12月 49回 赤のちから：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.21

### 2010

- 3-6月 50回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ  
田中一光ポスター 1953-1979
- 6-9月 51回 ロイ・リキテンスタイン展：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.22
- 9-12月 52回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ  
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

### 2011

- 3月 53回 幾何学的抽象の世界：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.23  
(東日本大震災のため中断)
- 6-9月 54回 秀英体100
- 9-12月 55回 幾何学的抽象の世界：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.23

### 2012

- 3-6月 56回 日本ポルトガル交流  
版で発信する作家たち：after 3.11
- 6-9月 57回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ  
没後10周年記念企画  
田中一光ポスター 1980-2002
- 9-12月 58回 銅版の表現力：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.24

### 2013

- 2月 特別展 第24回田善顕彰版画展
- 3-6月 59回 THE POSTERS 1983-2012  
世界ポスタートリエンナーレヤマ受賞作品展
- 6-9月 60回 現代版画とリトグラフ：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.25
- 9-12月 61回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ  
LIFE 永井一正ポスター展

### 2014

- 2月 特別展 第25回田善顕彰版画展
- 3-6月 62回 プリント・イン・ブルー：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.26
- 7-9月 63回 20世紀モダンデザインの誕生—  
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
- 9-12月 64回 レリーフ・プリントの世界：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.27

### 2015

- 2月 特別展 第26回田善顕彰版画展
- 3-6月 65回 開館20周年記念  
21世紀のグラフィック・ビジョン
- 6-9月 66回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ  
浅葉克己ポスターアーカイブ展
- 9-12月 67回 ロバート・マザウェルのリトグラフ：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.28

### 2016

- 2月 特別展 第27回田善顕彰版画展
- 3-6月 68回 グラフィックとミュージック
- 6-9月 69回 中林忠良展：未知なる航海—腐食の海へ
- 9-12月 70回 フランク・ステラ<イマジナリー・プレイシズ>：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.29

### 2017

- 2月 特別展 第28回田善顕彰版画展
- 3-6月 71回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ  
松永真ポスター展
- 6-9月 72回 加納光於—揺らめく色の穂先に
- 9-12月 73回 ジョセフ&アニ・アルバース、二つの抽象：  
タイラーグラフィックス・  
アーカイブコレクション展 Vol.30

### 2018

- 2月 特別展 第29回田善顕彰版画展

**1986**

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:  
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:  
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:  
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!  
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

**1987**

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji  
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:  
The Mainichi Design Prize  
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfman and  
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:  
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjurer of Image

**1988**

- Jan. 23 Katsu Kimura:  
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:  
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-  
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:  
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:  
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of  
Stasys Eidrigevicius

**1989**

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +  
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:  
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Ott Aicher: W.Von Ockham,  
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichiro Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV  
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists  
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

**1990**

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:  
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:  
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:  
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:  
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:  
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:  
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

**1991**

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:  
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:  
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:  
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +  
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages  
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

**1992**

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of  
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX-XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /  
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi  
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

**1993**

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Freedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:  
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /  
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

**1994**

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H<sup>2</sup>O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamijyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition  
Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,  
Meg Hosoki: Favorites

**1995**

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:  
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:  
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

**1996**

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:  
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:  
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:  
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsukawa's Typographic Art:  
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /  
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design  
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /  
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

**1997**

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man  
Collection of CCGA:  
The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"  
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:  
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and  
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /  
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of  
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:  
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by  
33 Designers from around the World

**1998**

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: Bro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissot Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumber Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:  
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /  
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:  
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

**1999**

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers  
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in  
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
- Mar. The Works of Seichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic  
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition  
Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /  
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards  
the Works of Issey Miyake

**2000**

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology  
Kishin Shinoyama & Manuel Legris:  
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:  
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal  
STETHOSCOPE – A Half Century of  
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:  
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:  
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition



Aug. 171 The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC]  
 Sep. 172 Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima  
 Oct. 173 Tztom Toda: D-ZONE  
 Nov. 174 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!  
 Dec. 175 The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space

## 2001

Jan. 176 2001 Yasuhiko Kida  
 Feb. 177 Italo Lupi: Not Just Graphics  
 Mar. 178 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details  
 Apr. 179 Tokyo TDC 2001 Exhibition  
 May 180 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen  
 Jun. 181 Typography of Hiromu Hara  
 Jul. 182 2001 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 183 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life  
 Sep. 184 Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino  
 Oct. 185 Hangul Poster Exhibition  
 Nov. 186 Makoto Saito Exhibition  
 Dec. 187 Chip Kidd Exhibition

## 2002

Jan. 188 Uwe Loesch Exhibition  
 Feb. 189 Akira Uno Exhibition  
 Mar. 190 Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education  
 Apr. 191 Tokyo TDC 2002 Exhibition  
 May 192 Draft Exhibition  
 Jun. 193 Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony  
 Jun. Yasuji Hanamori and "Kurashi no Techo"  
 Jul. 194 2002 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 195 Noriyuki Tanaka: Out of Design  
 Sep. 196 Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura  
 Oct. 197 Sun-ad: The People  
 Nov. 198 Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design  
 Dec. 199 Herb Lubalin Exhibition

## 2003

Jan. 200 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art  
 Feb. 201 Sadik Karamustafa Graphic Design: Journeys and Rituals, Words and Images  
 Mar. 202 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition  
 Apr. 203 Tokyo TDC 2003 Exhibition  
 May 204 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back  
 Jun. 205 Hajime Sorayama The Exhibition  
 Jul. 206 2003 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 207 Minoru Niijima: Interaction of Colors and Fonts  
 Sep. 208 Graphic Wave 2003: Kenjiro Sano / Nagi Noda / Kazunari Hattori  
 Oct. 209 Advertising Returns! Art Direction by Soeda Takayuki  
 Nov. 210 Stefan Sagmeister Exhibition  
 Dec. 211 Takashi Kono: Modernist of the Showa Era 1906-99

## 2004

Jan. 212 Kazumasa Nagai Poster Exhibition  
 Feb. 213 Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition  
 Mar. 214 The Magazine Design Studio Cap Exhibition  
 Apr. 215 Tokyo TDC 2004 Exhibition  
 May 216 Taku Satoh: Plasticity  
 Jun. 217 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre  
 Jul. 218 2004 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 219 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire  
 Sep. 220 Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki  
 Oct. 221 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura  
 Nov. 222 Kashiwa Sato: Beyond  
 Dec. 223 Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s

## 2005

Jan. 224 The Seven Faces of Asaba  
 Feb. 225 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design  
 Mar. 226 Katsunori Aoki XX  
 Apr. 227 Tokyo TDC 2005 Exhibition  
 May 228 The Graphic Design of Makoto Wada  
 Jun. 229 Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades  
 Jul. 230 2005 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 231 Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions  
 Sep. 232 Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto  
 Oct. 233 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose  
 Nov. 234 Shin Sobue + cozfish Exhibition  
 Dec. 235 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation

## 2006

Jan. 236 Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design  
 Feb. 237 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art  
 Mar. 238 Cyan Exhibition  
 Apr. 239 Tokyo TDC 2006 Exhibition  
 May 240 Kazufumi Nagai: Hakuodo Design "Brands and Designs"  
 Jun. 241 Keiichi Tanaami-ism  
 Jul. 242 2006 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 243 Alexander Gelman: New York Connection  
 Sep. 244 Graphic Wave 2006 School of Design: Masayoshi Kodaira / Naomi Hirabayashi / Manabu Mizuno / Eiji Yamada  
 Sep. AGI Congress 2006 in Japan: Kakejiku Exhibition  
 Oct. 245 Radical Advertisement [Norio Nakamura + Masahiko Sato] Activities No.6  
 Nov. 246 Hideki Nakajima: Clear in the Fog  
 Dec. 247 Yoshio Hayakawa: Witness to the Dawn of Japanese Design

## 2007

Jan. 248 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part I ]

Feb. Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II ]  
 Mar. 249 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten  
 Apr. 250 Tokyo TDC 2007 Exhibition  
 May 251 helmut schmid: design is attitude  
 Jun. 252 Masaaki Hiromura: 2D ↔ 3D  
 Jul. 253 2007 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 254 The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale  
 Sep. 255 Ginza Salone: Kenjiro Sano  
 Oct. 256 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors  
 Nov. 257 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design  
 Dec. 258 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show

## 2008

Jan. 259 Toda Today: Poster Art by Seiju Toda  
 Feb. 260 Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi  
 Mar. 261 Textasy: Brody Neuenschwander  
 Apr. 262 Tokyo TDC 2008 Exhibition  
 May 263 Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design  
 Jun. 264 Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World  
 Jul. 265 2008 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 266 Now Updating--- Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura  
 Sep. 267 The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin  
 Oct. 268 White: Kenya Hara Exhibition  
 Nov. 269 M/M (Paris) The Theatre Posters  
 Dec. 270 OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion

## 2009

Jan. 271 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design  
 Feb. 272 Helvetica forever: Story of a Typeface  
 Mar. 273 Draft: Branding and Art Directors  
 Apr. 274 Tokyo TDC 2009 Exhibition  
 May 275 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works  
 Jun. 276 Max Huber – a Graphic Designer  
 Jul. 277 2009 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 278 Hosoya Gan Last Show: Exhibition of an Art Director & Graphic Designer  
 Sep. 279 Tadahito Nadamoto, Akira Uno, Makoto Wada and Tadanori Yokoo Show  
 Oct. 280 Toshio Yamagata Exhibition  
 Nov. 281 Issay Kitagawa  
 Dec. 282 Kokoku Hihyo: End of One Era, Start of Another

## 2010

Jan.-Feb. 283 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979  
 Mar. 284 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping  
 Apr. 285 Tokyo TDC 2010 Exhibition  
 May 286 Talking the Dragon: Tsuguya Inoue

Jun. 287 NB@ggg: Neville Brody 2010  
 Jul. 288 2010 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 289 Ralph Schraivogel Exhibition  
 Sep. 290 The Push Pin Paradigm: Seymour Chwast | Paul Davis | Milton Glaser | James McMullan  
 Oct. 291 Seas and Mountains and Norito Shinmura  
 Nov. 292 Kazunari Hattori: November 2010  
 Dec. 293 Euphrates: From Research to Expression

## 2011

Jan. 294 Shueitai 100  
 Feb. 295 Ian Anderson / The Designers Republic C(H-)ōme (+81/3)  
 Mar. 296 Design Fumio Tachibana  
 Apr. 297 Tokyo TDC 2011 Exhibition  
 May 298 Sato Koichi Poster Exhibition  
 Jun. 299 Raymond Savignac: at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait]  
 Jul. 300 2011 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 301 [gggg] Groovisions Exhibition  
 Sep. 302 Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo  
 Oct. 303 100 ggg Books 100 Graphic Designers  
 Nov. 304 SVA MFA Design Ideapolis-Tokyo  
 Dec. 305 Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura

## 2012

Jan.-Feb. 306 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002  
 Mar. 307 Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde –  
 Apr. 308 Tokyo TDC 2012 Exhibition  
 May 309 KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe  
 Jun. 310 Jianping He Flashback  
 Jul. 311 2012 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 312 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –  
 Sep. 313 Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project  
 Oct. 314 AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition  
 Nov. 315 Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition  
 Dec. 316 Theseus Chan: WERK No. 20: Ginza The Extremities of the Printed Matter

## 2013

Jan. 317 Shin Matsunaga Poster 100  
 Feb. 318 Kari Piippo Posters & Drawings – Simple, Strong and Sharp –  
 Mar. 319 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition  
 Apr. 320 Tokyo TDC 2013 Exhibition  
 May 321 KM Karel Martens  
 Jun. 322 Why Not Associates – We Never Had a Plan So Nothing Could Go Wrong  
 Jul. 323 2013 Tokyo ADC Exhibition  
 Aug. 324 Ellie Omiya Exhibition  
 Sep. 325 PARTY Not There.



1992-2018

Oct.	326	Rikako Nagashima: "Between Human and Nature"	Sep.-Nov.	362	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	1992	Jul.-Aug.	51	Contemporary Graphics in Hungary: DOPP at DDD		
Nov.	327	Jan Tschichold Exhibition	Nov.-Jan.	363	Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola	Jan.-Feb.	1	Trans-Art '91			
Dec.	328	Tomaszewski, The Poetic Spirit				Mar.	2	Ivan Chermayeff: Collages	Aug.-Sep.	52	1996 Tokyo ADC Exhibition
						Apr.-May	3	The 4th Tokyo TDC Exhibition	Sep.-Oct.	53	John Maeda Paper and Computers
						May-Jun.	4	Rick Valicenti Exhibition	Oct.-Nov.	54	Alain Le Querrec Exhibition
<b>2014</b>			<b>2018</b>			Jun.-Jul.	5	Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture	Nov.-Dec.	55	Woody Pirtle: Maximum Message Minimum Means
Jan.	329	Mitsuo Katsui: Design of Symptom	Jan.-Mar.	364	Kouga Hirano and Shobunsha	Jul.-Aug.	6	Design, Print, Paper Exhibition			
Feb.	330	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito				Aug.-Sep.	7	Vaughan Oliver Exhibition	<b>1997</b>		
Mar.	331	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster				Oct.	8	Makoto Nakamura Solo Exhibition	Jan.-Feb.	56	João Machado Exhibition
Apr.	332	Tokyo TDC 2014 Exhibition				Oct.-Nov.	9	Michael Mabry Exhibition	Feb.-Mar.	57	K2 Osaka Exhibition: Seitaro Kuroda / Keisuke Nagatomo
May	333	phono / graph – sound, letters, graphics				Nov.-Dec.	10	Tadahito Nadamoto / Akira Uno / Makoto Wada / Harumi Yamaguchi Exhibition	Mar.-Apr.	58	Graphic Design in China
Jun.	334	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō							Apr.-May	59	The 10th Anniversary of Tokyo TDC
Jul.	335	2014 Tokyo ADC Exhibition				<b>1993</b>			May-Jun.	60	10 Mexican Graphic Designers
Aug.	336	Binokodu Cells: "Kodue Hibino + Nihongo de Asobo"				Jan.-Feb.	11	Furoshiki by 18 Artists	Jul.	61	Cato Design Inc. : Design by Thinking
Sep.	337	So French: Michel Bouvet Posters				Feb.-Mar.	12	Why Not Associates Exhibition	Aug.-Sep.	62	1997 Tokyo ADC Exhibition
Oct.	338	Semitransparent Design: Boring / Bored				Mar.-Apr.	13	Allen Hori + Robert Nakata: Displaced Voices	Sep.-Oct.	63	Ralph Schraivogel: Shifted Structures
Nov.	339	Persona 1965: Exhibition of Graphic Design in Tokyo				Apr.-May	14	1992 Tokyo ADC Exhibition	Oct.-Nov.	64	James Victore: Post No Bills
Dec.	340	Inside the Mind of Ryoji Arai				May-Jun.	15	Russell Warren-Fisher Exhibition	Nov.-Dec.	65	Global Exhibition: Duo Posters by 33 Designers from around the World
						Jun.-Jul.	16	The 5th Tokyo TDC Exhibition			
<b>2015</b>						Jul.-Aug.	17	Imagination of Letters	<b>1998</b>		
Jan.	341	Katsumi Asaba: Asaba's Typography.				Aug.-Sep.	18	Design, Print, Paper Exhibition Part II	Jan.-Feb.	66	Faydherbe / De Vringer: Looking Back into the Future
Feb.	342	Line in the sand: Paul Davis				Sep.-Oct.	19	Bill Thorburn Exhibition	Feb.-Mar.	67	Jean-Benoît Lévy: Visual Activity
Mar.	343	APPLE+ Learning to Design, Designing to Learn Ken Miki				Oct.-Nov.	20	U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom	Mar.-Apr.	68	"Troika" 3 Dimensions of Russian Graphic Design
Apr.	344	Tokyo TDC 2015 Exhibition				Nov.-Dec.	21	Mitsuo Katsui: The Blessing of Light	Apr.-May	69	Philippe Apeloig: Posters in the Context of French Culture
May	345	2 Men Show: Stanley Wong × Anothermountainman				Dec.-Jan.	22	8 Designers in Today's Hong Kong	Jun.	70	Tokyo TDC 1998 Exhibition
Jun.	346	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design							Jul.	71	Studio Dumber Exhibition
Jul.	347	2015 Tokyo ADC Exhibition				Jan.-Feb.	23	Saul Bass Exhibition	Aug.-Sep.	72	1998 Tokyo ADC Exhibition
Aug.	348	Lars Müller BOOKS Analogue Reality				Feb.-Mar.	24	13 Pop-up Greeting	Sep.-Oct.	73	Zafryki: Piotr Młodożeniec / Marek Sobczyk
Sep.	349	Yoshiaki Irobe: Wall				Mar.-Apr.	25	Ruedi Baur / Integral Concept Exhibition	Oct.-Nov.	74	David Tartakover: Posters No Commercial Value
Oct.	350	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers				Apr.-May	26	1993 Illustration 4: Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura / Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura	Nov.-Dec.	75	Taiwan 4: Yeh Kuo-Sung / Yu Ming-Lung / Shih Ling-Hung / Leslie Chan
Nov.	351	d3i d3i d3i Dainippon Type Organization				May-Jun.	27	Jennifer Morla Exhibition			
Dec.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) DNP Graphic Design Archives Collection THE NIPPON POSTERS				Jun.-Jul.	28	Kazumasa Nagai Exhibition	<b>1999</b>		
						Jul.-Aug.	29	Uwe Loesch Exhibition	Jan.-Feb.	76	Furoshiki Graphics by 18 Designers from around the World
<b>2016</b>						Aug.-Sep.	30	1994 Tokyo ADC Exhibition	Feb.-Mar.	77	Pierre Neumann: Swiss Landscape
Jan.-Mar.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) Organized by Chiyoda City's Hibiya Library and Museum / Co-organized by DNP Foundation for Cultural Promotion Shin Sobue + cozzfish BOOK DESIG				Sep.-Oct.	31	Design, Print, Paper Exhibition Part III	Mar.-Apr.	78	The Graphic Design of Paula Scher: Type is Image
Apr.-May	352	ginza graphic gallery 30th Anniversary Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016				Oct.-Nov.	32	David Carson + Gary Koepke Free-Form Typography: The New U.S. Editorial Design	May-Jun.	79	Graphic Design from Hamburg: Holger Matthies + Christiane Freilinger
Jun.	353	Tokyo TDC 2016 Exhibition				Dec.	33	Yusaku Kamekura New Posters	Jun.-Jul.	80	Tokyo TDC 1999 Exhibition
Jul.-Sep.	354	2016 Tokyo ADC Exhibition				<b>1995</b>			Jul.-Aug.	81	Jan Rajlich Jr.: Millhouse of the Times
Sep.-Oct.	355	Nosigner: Reason Behind Forms				Jan.-Feb.	34	German Montalvo Exhibition: From Sunrise to Sunset	Aug.-Sep.	82	1999 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec.	356	Enomoto Ryoichi Kokaiki				Feb.-Mar.	35	Bruno Munari Exhibition	Sep.-Oct.	83	Scott Makela: Wide Open
						Mar.-Apr.	36	Grappa Design: from east to far east	Oct.-Nov.	84	The World of Chaz Maviyane-Davies
<b>2017</b>						May-Jun.	37	The 7th Tokyo TDC Exhibition	Nov.-Dec.	85	2 Men from Macau: Ung Vai Meng / Victor Hugo Marreiros
Jan.-Mar.	357	Masayoshi Nakajo IN & OUT				Jun.-Jul.	38	Michel Bouvet: L'affiche, un art de la lue			
Apr.	358	Tokyo TDC 2017 Exhibition				Jul.-Aug.	39	Ikko Tanaka: Man and Writing	<b>2000</b>		
May-Jun.	359	Roman Cieśliewicz Melting Mirage				Aug.-Sep.	40	Terrelongue Exhibition	Jan.-Feb.	86	Graphic Message for Ecology
Jul.	360	2017 Tokyo ADC Exhibition				Sep.-Oct.	41	1995 Tokyo ADC Exhibition	Feb.-Mar.	87	Keizo Matsui Exhibition
Jul.		Special Exhibition: Farewell! Keisuke Nagatomo				Oct.-Nov.	42	Design, Print, Paper Exhibition Part IV	Mar.-Apr.	88	Paul Davis Posters
Aug.-Sep.	361	Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition				Nov.-Dec.	43	Peret Torrent Exhibition	Apr.-May	89	Osaka Pop Exhibition: "kotekote" Graphics
							44	6 Designers in Asia Exhibition	May-Jun.	90	Tokyo TDC 2000 Exhibition
						<b>1996</b>			Jun.-Jul.	91	Anthony Beeke Posters: Body and Soul
						Jan.-Feb.	45	50 Years in Japanese Illustrations	Jul.-Sep.	92	Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
						Feb.-Mar.	46	Margo Chase: Digital + Organic	Sep.-Oct.	93	2000 Tokyo ADC Exhibition
						Mar.-Apr.	47	Werner Jeker: Graphic Design	Oct.-Nov.	94	Italo Lupi: Not Just Graphics
						Apr.-May	48	Posters fro m Gunter Rambow: Comments on society			
						May-Jun.	49	The 8th Tokyo TDC Exhibition			
						Jun.-Jul.	50	Kari Piippo: Simple, Strong, and Sharp			

Nov.-Dec. 95 Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts

## 2001

Jan.-Feb. 96 2001 Yasuhiko Kida  
Feb.-Mar. 97 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen  
Mar.-Apr. 98 Poster of Salzburg Festival  
May-Jun. 99 Tokyo TDC 2001 Exhibition  
Jun.-Jul. 100 Chip Kidd Exhibition  
Jul.-Aug. 101 Hangul Poster Exhibition  
Aug.-Sep. 102 2001 Tokyo ADC Exhibition  
Sep.-Oct. 103 Wolfgang Weingart: My Way to Typography  
Oct.-Nov. 104 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details  
Nov.-Dec. 105 Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education

## 2002

Jan.-Feb. 106 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life  
Feb.-Mar. 107 Makoto Saito Exhibition  
Mar.-Apr. 108 Ott + Stein: Posters from Berlin  
Apr.-May 109 Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale  
May-Jun. 110 Tokyo TDC 2002 Exhibition  
Jul. 111 Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002  
Jul.-Sep. 112 Ken Miki Exhibition  
Sep.-Oct. 113 2002 Tokyo ADC Exhibition  
Oct.-Nov. 114 Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals  
Nov.-Dec. 115 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition

## 2003

Jan.-Feb. 116 San-ad :The People  
Feb.-Mar. 117 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art  
Mar.-Apr. 118 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back  
Apr.-Jun. 119 Kan Tai-Keung and Freeman Lau: The Art and Design of Ink and Chairs  
Jun.-Jul. 120 Tokyo TDC 2003 Exhibition  
Jul.-Aug. 121 Luba Lukova: From the Heart  
Aug.-Sep. 122 2003 Tokyo ADC Exhibition  
Sep.-Oct. 123 Stefan Sagmeister Exhibition  
Oct.-Nov. 124 Cultural Posters from the Collection of Die Neue Sammlung München  
Nov.-Dec. 125 Hajime Sorayama The Exhibition

## 2004

Jan.-Feb. 126 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki  
Feb.-Mar. 127 Kazumasa Nagai Poster Exhibition  
Mar.-Apr. 128 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre  
Apr.-May 129 The Magazine Design Studio Cap Exhibition  
May-Jun. 130 Tokyo TDC 2004 Exhibition  
Jun.-Jul. 131 Pierre Mendell Exhibition  
Aug.-Sep. 132 2004 Tokyo ADC Exhibition  
Sep.-Oct. 133 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire

Oct.-Nov. 134 Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague  
Nov.-Dec. 135 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design

## 2005

Jan.-Feb. 136 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura  
Feb.-Mar. 137 Cyan: 13 Years in Berlin  
Mar.-Apr. 138 Kashiwa Sato: Beyond  
Apr.-May 139 Mevis & Van Deursen Exhibition  
May-Jun. 140 Tokyo TDC 2005 Exhibition  
Jul. 141 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose  
Aug.-Sep. 142 2005 Tokyo ADC Exhibition  
Sep.-Oct. 143 Katsunori Aoki XX  
Oct.-Nov. 144 German AGI Graphic Design: Perfect Form  
Nov.-Dec. 145 The Graphic Design of Makoto Wada

## 2006

Jan.-Feb. 146 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation  
Feb.-Mar. 147 Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects  
Mar.-Apr. 148 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art  
Apr.-May 149 Bruno Oldani Exhibition  
May-Jun. 150 Tokyo TDC 2006 Exhibition  
Jun.-Jul. 151 Black and White Posters Exhibition  
Aug. 152 2006 Tokyo ADC Exhibition

## 2007

May-Jun. 153 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006  
Jul.-Aug. 154 Tokyo TDC 2007 Exhibition  
Aug.-Sep. 155 helmut schmid: design is attitude  
Oct.-Nov. 156 2007 Tokyo ADC Exhibition  
Nov.-Dec. 157 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten

## 2008

Jan.-Feb. 158 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design  
Feb.-Apr. 159 Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano  
Apr.-Jun. 160 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors  
Jun.-Jul. 161 Tokyo TDC 2008 Exhibition  
Aug. 162 Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura  
Sep.-Oct. 163 2008 Tokyo ADC Exhibition  
Oct.-Nov. 164 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show  
Nov.-Dec. 165 Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi

## 2009

Jan.-Feb. 166 Helvetica forever: Story of a Typeface  
Mar.-Apr. 167 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design  
Apr.-Jun. 168 Draft: Branding and Art Directors  
Jun.-Jul. 169 Tokyo TDC 2009 Exhibition  
Aug.-Oct. 170 2009 Tokyo ADC Exhibition  
Oct.-Dec. 171 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works

## 2010

Jan.-Mar. 172 Graphic West 2: Sensory Boxes  
Mar.-May 173 Issay Kitagawa  
May-Jul. 174 Tokyo TDC 2010 Exhibition  
Jul.-Sep. 175 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping  
Sep.-Oct. 176 2010 Tokyo ADC Exhibition  
Nov.-Dec. 177 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979

## 2011

Jan.-Mar. 178 Graphic West 3: phono / graph – Sound · Letters · Graphics –  
Mar.-May 179 Shuetai 100  
May-Jul. 180 Tokyo TDC 2011 Exhibition  
Jul.-Sep. 181 Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka  
Sep.-Oct. 182 2011 Tokyo ADC Exhibition  
Nov.-Dec. 183 100 ggg Books 100 Graphic Designers

## 2012

Jan.-Mar. 184 Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition  
Mar.-May 185 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002  
May-Jul. 186 Tokyo TDC 2012 Exhibition  
Jul.-Sep. 187 Fumio Tachibana Exhibition  
Sep.-Oct. 188 2012 Tokyo ADC Exhibition  
Nov.-Dec. 189 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –

## 2013

Jan.-Mar. 190 Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270  
Mar.-Apr. 191 [dddg] Groovisions Exhibition  
May-Jun. 192 Tokyo TDC 2013 Exhibition  
Jul.-Aug. 193 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition  
Sep.-Oct. 194 2013 Tokyo ADC Exhibition  
Nov.-Dec. 195 Ellie Omiya Exhibition

## 2014

Jan.-Mar. 196 Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics  
Mar.-Apr. 197 "Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito  
May-Jun. 198 Tokyo TDC 2014 Exhibition  
Jun.-Jul. 199 Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster  
Oct.-Dec. 200 DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS 2015

## 2015

Jan.-Mar. 201 Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto  
Apr.-May 202 Lars Müller BOOKS Analogue Reality  
Jun.-Jul. 203 Tokyo TDC 2015 Exhibition  
Aug.-Oct. 204 DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka nippon no Nippon: helmut schmid

## 2016

Jan.-Mar. 206 Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition

Apr.-May 207 21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers  
May-Jul. 208 Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design  
Jul.-Aug. 209 Tokyo TDC 2016 Exhibition  
Sep.-Oct. 210 Materiality-Immateriality Design & Innovation  
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"  
Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"

## 2017

Jan.-Mar. 211 Graphics and Music  
May-Jul. 212 Masayoshi Nakajo IN & OUT  
Jul.-Aug. 213 Tokyo TDC 2017 Exhibition  
Sep.-Oct. 214 Kouga Hirano and Shobunsha  
Nov. University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"  
Dec.-Mar. 215 wim crouwel fascinated by the grid



## 1995-2018

### 1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler  
Retrospective Exhibition: Thirty Years  
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:  
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

### 1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:  
1st Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:  
2nd Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection

### 1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:  
3rd Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:  
4th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection

### 1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:  
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:  
5th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

### 1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:  
6th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

### 2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:  
7th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design  
Inaugural Exhibition:  
Poster Graphics 1950-2000

### 2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:  
8th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:  
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of  
Graphic Design:  
The Era of Graphic Design

### 2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:  
9th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,  
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of  
Graphic Design: The Age of Individuality

### 2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:  
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:  
10th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection

### 2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:  
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

### 2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American  
Woodcuts:  
12th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

### 2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:  
13th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:  
The Conquest of Imperfection –  
New Realities Created with  
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

### 2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:  
14th Exhibition of Prints from  
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:  
15th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:  
16th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:  
17th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:  
18th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:  
19th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:  
20th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:  
Works by Outstanding Designers in  
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:  
21st Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II  
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:  
22nd Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III  
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

### 2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:  
23rd Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection  
(Suspended because of The Great  
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:  
23rd Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:  
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV  
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of  
Copperplate Prints:  
24th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012  
The Prize – Winning Works from  
The International Poster Triennial  
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:  
25th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V  
LIFE – Kazumasa Nagai  
Poster Exhibition

### 2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:  
26th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –  
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:  
27th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary  
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI  
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:  
28th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:  
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:  
29th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII  
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano mitsuo:  
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of  
Josef and Anni Albers:  
30th Exhibition of Prints from  
the Tyler Graphics Archive Collection

### 2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition

### ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日  
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー（略称／ggg）  
所在地 〒104-0061  
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル  
Phone:03-3571-5206  
Fax:03-3289-1389  
開館時間 午前11時～午後7時  
休館 日曜日、祝日  
監修 永井一正

### 京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日（大阪・堂島）  
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転  
2014年10月9日 京都・太秦に移転  
名称 京都dddギャラリー  
所在地 〒616-8533  
京都府京都市右京区太秦上刑部町10  
Phone:075-871-1480  
Fax:075-871-1267  
開館時間 午前11時～午後7時（土曜・日曜特別開館午後6時まで）  
休館 日曜日、祝日  
監修 永井一正

### CCGA 現代グラフィックアートセンター

開設 1995年4月20日  
名称 CCGA現代グラフィックアートセンター  
所在地 〒962-0711  
福島県須賀川市塩田宮田1  
Phone:0248-79-4811  
Fax:0248-79-4816  
開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時45分まで）  
休館 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、  
祝日の翌日（土・日にあたる場合は開館）、  
展示替え期間中、冬期（12月下旬～2月末）  
入場料 一般＝300円、学生＝200円、  
小学生以下と65歳以上および障がい者手帳をお持ちの方は無料。  
サロン  
利用料 200円

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団  
<http://www.dnp.co.jp/foundation>

### ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986  
Name: ginza graphic gallery (ggg)  
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,  
Chuo-ku, Tokyo 104-0061  
Phone: +81 3 3571 5206  
Fax: +81 3 3289 1389  
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm  
Closed on Sundays and Holidays  
Adviser: Kazumasa Nagai

### kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka  
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka  
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto  
Name: kyoto ddd gallery  
Location: 10, Kamikeibuchō, Uzumasa,  
Ukyoku, Kyoto, 616-8533  
Phone: +81 75 871 1480  
Fax: +81 75 871 1267  
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, irregularly open on Sundays)  
Closed on Sundays and Holidays  
Adviser: Kazumasa Nagai

### Center for Contemporary Graphic Art

Establishment: April 20, 1995  
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)  
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,  
Fukushima 962-0711  
Phone: +81 248 79 4811  
Fax: +81 248 79 4816  
Opening Hours: 10:00am to 5:00pm (Admission until 4:45pm)  
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),  
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday),  
between exhibitions and during winter (late December through February)  
Admission: Adults= ¥300, Students= ¥200,  
Free for young children (through elementary school), senior citizens (65 and over) and the disabled.  
Salon Utilization Fee: ¥200

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion  
<http://www.dnp.co.jp/foundation>

公益財団法人DNP文化振興財団  
DNP Foundation for Cultural Promotion

